

平成27年度
南海トラフ地震（東海地震）
についての県民意識調査

静岡県危機管理部危機情報課

南海トラフ地震（東海地震）についての県民意識調査

目次

I 調査の概要

1 調査の概要

1 調査目的	- 1 -
2 調査内容	- 1 -
3 調査実施概要	- 1 -
4 標本構成	- 3 -
5 摘要と標本誤差	- 4 -
6 「防災に関する世論調査」の概要	- 5 -

II 調査結果

1 南海トラフ地震(東海地震)について

1-1 南海トラフ地震(東海地震)への関心度	- 7 -
1-2 2～3年前に比べての関心度	- 11 -
1-3 南海トラフ地震(東海地震)発生メカニズムの認知	- 15 -
1-4 大規模地震が起こった場合に心配なこと【新規設問】	- 16 -
1-5 津波避難のタイミング【新規設問】	- 19 -
1-6 大規模地震発生時の津波の速さの認知	- 22 -
1-7 南海トラフ地震(東海地震)についての情報を定期的に提供する方法	- 25 -

2 日ごろの防災対策について

2-1 災害時に利用できる食料の備蓄日数	- 32 -
2-2 飲料水の備蓄日数	- 36 -
2-3 携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数【新規設問】	- 39 -
2-4 家具類の固定	- 40 -
2-5 ブロック塀・門柱などの安全点検	- 42 -
2-6 大規模地震に備えての防災対策	- 44 -
2-7 建物や家財に関わる保険加入状況について	- 51 -
2-8 災害対策の検討に相談したい人や組織【新規設問】	- 55 -

3 住宅の耐震補強について

3-1 家屋の構造と耐震診断	- 63 -
3-2 プロジェクト“TOUKAI-0”の認知	- 66 -

4 自主防災組織・防災訓練について

4-1 自主防災組織への加入と活動状況	- 69 -
4-2 地震防災訓練への参加状況	- 75 -
4-3 避難所で避難生活を送る場合の心配ごと	- 86 -

5 南海トラフ地震(東海地震)が突然発生したときの行動について

5-1 突然地震が発生したときの行動	- 87 -
5-2 家族との安否確認手段【新規設問】	- 90 -
5-3 地震発生後の防災活動への参加	- 92 -
5-4 地震が突然発生したときの自分自身の安全性	- 96 -
5-5 地震が突然発生したときの避難行動	- 97 -

6 警戒宣言が発せられたときの行動について

6-1 警戒宣言発令時の行動	- 100 -
6-2 避難該当地域であるかの認識	- 102 -
6-3 居宅で警戒宣言が発せられた場合の避難	- 103 -

7 地震に関する情報について

7-1 東海地震に関連する情報体系の認知	- 105 -
7-2 東海地震予知の可能性	- 107 -
7-3 津波警報改善の認知	- 108 -
7-4 緊急地震速報についての認知	- 109 -
7-5 緊急地震速報入手時の行動	- 110 -
7-6 地震防災に必要な情報の入手状況	- 111 -

8 その他

8-1 今後の行政への要望	- 113 -
8-2 充実に欲しい情報	- 115 -
8-3 重点を置くべき防災対策(自助、共助、公助)【新規設問】	- 117 -

付 調査票(単純集計入り)	- 121 -
---------------	---------

I 調査の概要

1 調査の概要

1 調査目的

静岡県民の大規模地震に対する防災対策の実施状況や警戒宣言発令時の対応・行動等を調査し、その意識の実態や経年的な変化等を把握することにより、地震防災に係る施策を検討するうえでの基礎資料を得るため。

2 調査内容

本調査の質問内容の概要は、以下のとおりである。詳細については巻末の「付 調査票」を参照。

- 1 南海トラフ地震（東海地震）について
- 2 日ごろの防災対策について
- 3 住宅の耐震補強について
- 4 自主防災組織・防災訓練について
- 5 南海トラフ地震（東海地震）が突然発生したときの行動について
- 6 警戒宣言が発せられたときの行動について
- 7 地震に関する情報について
- 8 その他

3 調査実施概要

本調査は、以下の要領で実施した。

- | | |
|----------|--|
| (1) 母集団 | 県内に居住する満20～69歳の男女（抽出時点） |
| (2) 標本数 | 2,000サンプル |
| (3) 標本抽出 | 選挙人名簿より無作為2段抽出（平成27年9月12日現在） |
| (4) 調査地域 | 賀茂地域（3市町）
…下田市、南伊豆町、松崎町
東部地域（13市町）
…沼津市、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、富士市、御殿場市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、清水町、長泉町
中部地域（6市町）
…静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町
西部地域（8市町）
…浜松市（除く天竜区）、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、御前崎市、菊川市、森町
以上30市町 |
| (5) 調査期間 | 平成27年12月14日～平成28年1月5日 |
| (6) 調査方法 | 郵送調査法 |

(7) 回収状況

地域	標本数	回収数	回収率(%)
賀茂地域	71	30	42.3%
東部地域	616	268	43.5%
中部地域	632	320	50.6%
西部地域	681	318	46.7%
無回答	-	5	-
合計	2,000	941	47.1%

※但し、上記回収数は集計対象数。

(8) 調査機関 アイティ・インターナショナル株式会社

4 標本構成

性別	標本数	男性	女性	無回答
	賀茂地域	30	10	20
東部地域	268	115	153	0
中部地域	320	138	181	1
西部地域	318	132	186	0
無回答	5	3	2	0
全体	941	398	542	1

年代	標本数	20歳以下	30歳以下	40歳以下	50歳以下	60歳以上	無回答
	賀茂地域	30	2	9	3	10	6
東部地域	268	15	50	63	72	68	0
中部地域	320	6	38	80	96	99	1
西部地域	318	32	54	88	84	60	0
無回答	5	0	1	1	0	3	0
全体	941	55	152	235	262	236	1

職業	標本数	正社員	正社員以外	自営業	農林漁業	学生	無職	その他	無回答
	賀茂地域	30	9	9	4	0	0	6	2
東部地域	268	98	53	34	3	2	66	11	1
中部地域	320	108	96	37	4	1	64	9	1
西部地域	318	140	78	33	3	4	54	6	0
無回答	5	2	0	0	1	0	1	1	0
全体	941	357	236	108	11	7	191	29	2

居住年数	標本数	1年未満	1～5年未満	5～10年未満	10年以上	無回答
	賀茂地域	30	0	1	1	28
東部地域	268	0	4	8	256	0
中部地域	320	1	3	3	313	0
西部地域	318	0	4	8	306	0
無回答	5	0	0	0	2	3
全体	941	1	12	20	905	3

5 摘要と標本誤差

- 図中の「N」は、回答総数 (Number) を示し、「M. A.」は、複数回答可 (Multi Answer) を示す。
- すべての集計は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても、100%にならず、1%の範囲で増減することがある。
- 回答比率 (%) は、その設問の回答者数を基数 (N) として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超える。
- 標本誤差 (サンプル誤差) はおおよそ下表のとおりである。

$$\varepsilon = 2 \sqrt{\frac{P(1-P)}{n}}$$

ε : 標本誤差
 n : 標本の大きさ
 P : 回答比率

回答比率	基数	標本誤差	信頼範囲
10% (90%)	941	±2.0	8.0~12.0 (88.0~92.0)
20% (80%)	941	±2.6	17.4~22.6 (77.4~82.6)
30% (70%)	941	±3.0	27.0~33.0 (67.0~73.0)
40% (60%)	941	±3.2	36.8~43.2 (56.8~63.2)
50%	941	±3.3	46.7~53.3

この表の見方は次のとおりである。
 「ある設問の回答者が941人であり、その設問中の選択肢の回答率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.2である。」

- 図中のグラフについては回答比率により、5%未満については表示していない箇所もある。
- 選択肢において、「その他」の具体的記述欄に同じ内容の回答が多数あった場合は、グラフ中で新たな回答項目として整理し、比較している。

「防災に関する世論調査」の概要

内閣府調査との比較は以下の設問で引用されている。

問4、問11、問14-1、問15、問20、問20-2、問36、問37、問38

内閣府調査は、以下の要領で実施されている。

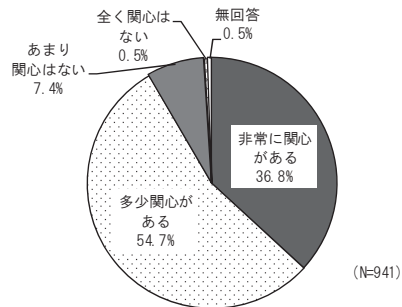
- (1) 調査対象 全国 20 歳以上の日本国籍を有する者 5,000 人
有効回収数 3,110 人 (回収率 62.2%)
- (2) 調査期間 平成 25 年 11 月 28 日 ~ 12 月 15 日(調査員による個別面接聴取)
- (3) 調査目的 防災に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。
- (4) 調査項目
 - 1 災害に関する意識
 - 2 地震対策に関する意識
 - 3 防災情報(自然災害全般)に関する意識
 - 4 防災訓練等に関する意識
 - 5 自助、共助、公助の対策に関する意識
- (5) 公開機関 内閣府政府広報室
- (6) 公開日 平成 26 年 2 月

II 調査結果

1 南海トラフ地震(東海地震)について

1-1 南海トラフ地震(東海地震)への関心度

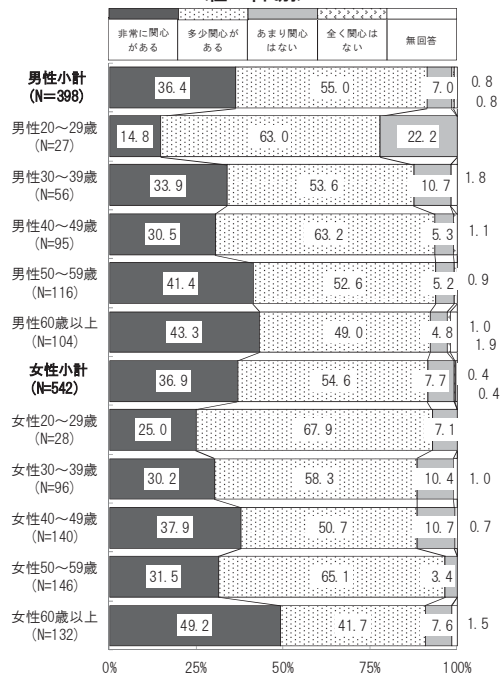
問1 あなたは現在、南海トラフ地震(東海地震)にどの程度の関心を持っていますか。



南海トラフ地震(東海地震)への関心度についてたずねたところ、「非常に関心がある」(36.8%)と「多少関心がある」(54.7%)を合わせた91.5%が関心を持っている。

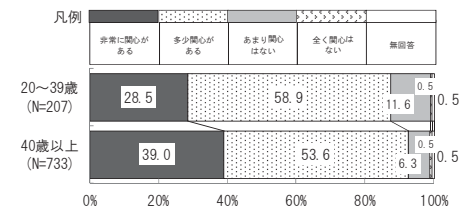
性・年代別でみると、「非常に関心がある」については、男性・女性とも『60歳以上』が最も高くなっている。一方、「あまり関心はない」と「全く関心はない」の合計は、『男性20代』が他の年代に比べて高くなっている。

南海トラフ地震(東海地震)への関心度 <性・年代別>



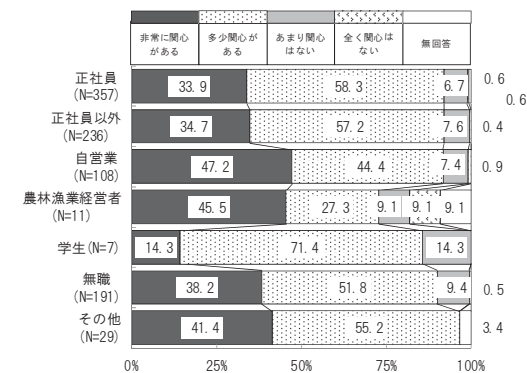
年代別でみると、「非常に関心がある」については『40歳以上』(39.0%)、『20歳~39歳』(28.5%)と『40歳以上』が10.5ポイント高くなっている。

南海トラフ地震(東海地震)への関心度 <年代別>



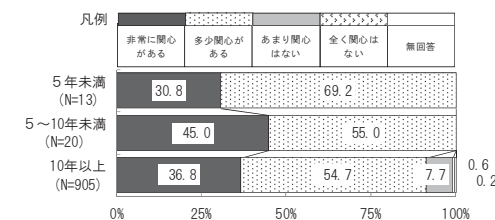
職業別でみると、「非常に関心がある」については『自営業』(47.2%)が最も高くなっており、誤差を考慮しても『自営業』(47.2%)は『正社員』(33.9%)より「非常に関心がある」が高くなっているといえる。

南海トラフ地震(東海地震)への関心度 <職業別>



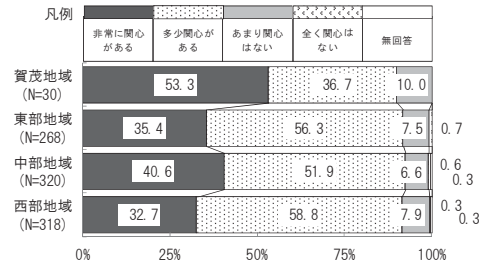
居住年数別でみると、「非常に関心がある」については、『5~10年未満』(45.0%)と他に比べて高くなっている。

南海トラフ地震(東海地震)への関心度 <居住年数別>



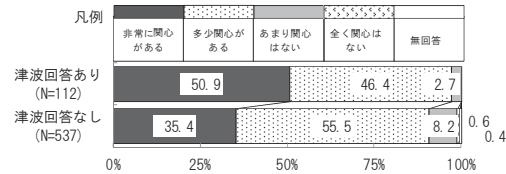
地域別でみると、「非常に興味がある」については、最も高い『賀茂』(53.3%)と最も低い『西部』(32.7%)で20.6ポイントの差がある。

南海トラフ地震(東海地震)への関心度 <地域別>



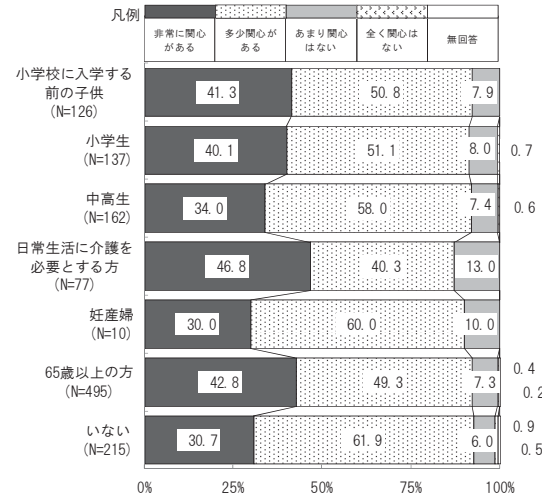
予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の回答者別でみると、「非常に興味がある」については、『津波回答あり』(50.9%)、『津波回答なし』(35.4%)と『津波回答あり』が15.5ポイント高くなっており、誤差を考慮しても「非常に興味がある」は『津波回答あり』のほうが高くなっているといえる。

南海トラフ地震(東海地震)への関心度 <予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別>



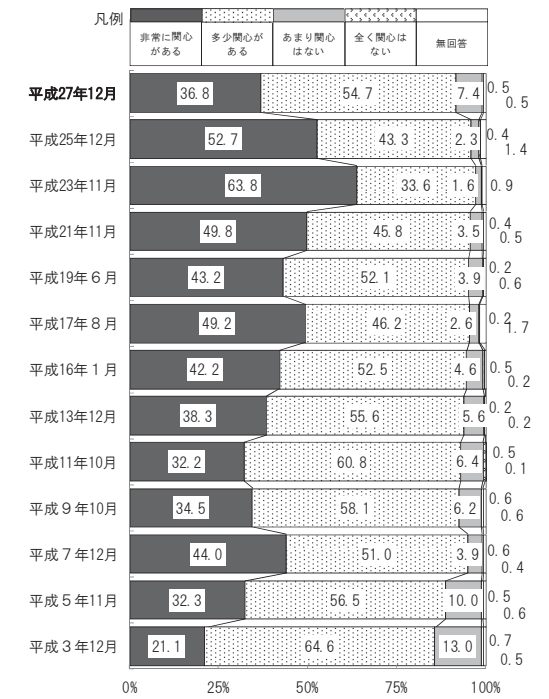
要配慮者等別でみると、「非常に興味がある」については、最も高い『日常生活に介護を必要とする方』のいる世帯(46.8%)と最も低い『妊産婦』のいる世帯(30.0%)で16.8ポイントの差がある。

南海トラフ地震(東海地震)への関心度 <要配慮者等別>



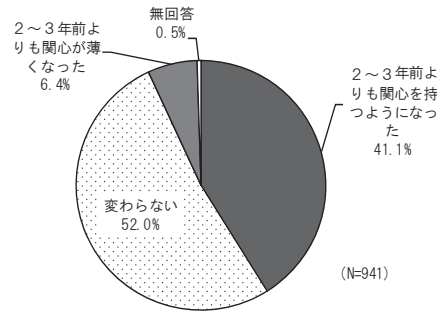
経年比較でみると、「非常に興味がある」は、東日本大震災が起きた平成23年度11月調査(63.8%)、前回調査(52.7%)と比べると27.0ポイントと徐々に下がっている。

南海トラフ地震(東海地震)への関心度 <経年比較>



1-2 2～3年前に比べての関心度

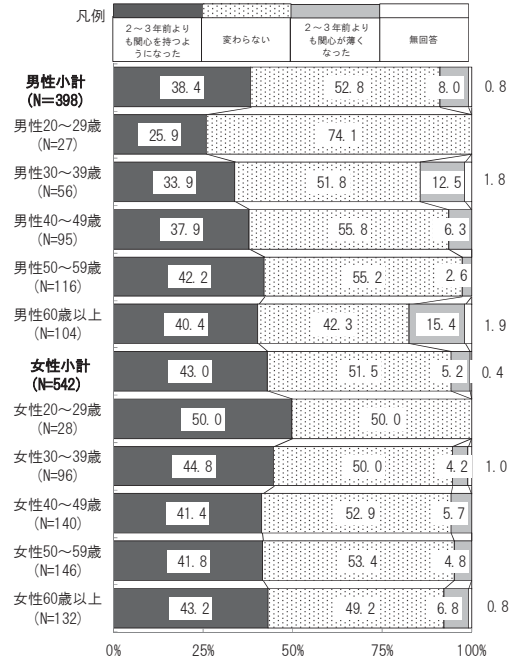
問2 あなたは、南海トラフ地震(東海地震)に対して、2～3年前に比べて関心を持つようになりましたか。



2～3年前からの関心度の変化についてたずねたところ、「変わらない」(52.0%)が最も高く、次いで「2～3年前よりも関心を持つようになった」(41.1%)、「2～3年前よりも関心が薄くなった」(6.4%)の順となっている。

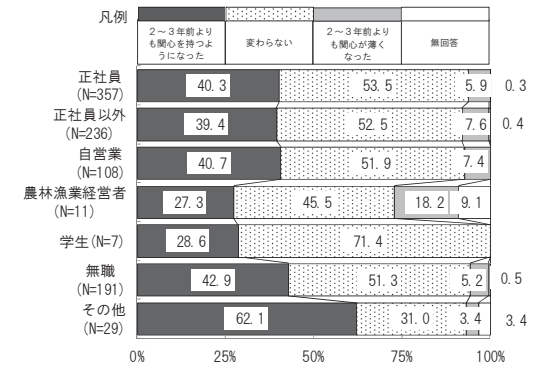
2～3年前からの関心度の変化
＜性・年代別＞

性・年代別でみると、「2～3年前よりも関心を持つようになった」は『女性20代』(50.0%)で最も高くなっている。



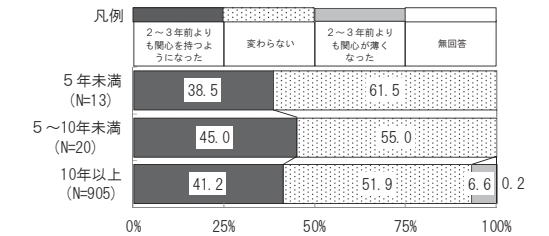
職業別でみると、「2～3年前よりも関心を持つようになった」は『農林漁業経営者』(27.3%)、『学生』(28.6%)で低くなっている。

2～3年前からの関心度の変化
＜職業別＞



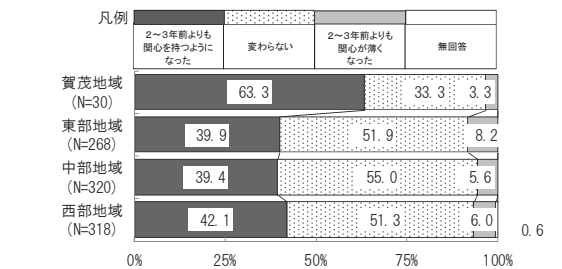
居住年数別でみると、「2～3年前よりも関心を持つようになった」は『5～10年未満』(45.0%)で最も高く4割を超えている。

2～3年前からの関心度の変化
＜居住年数別＞



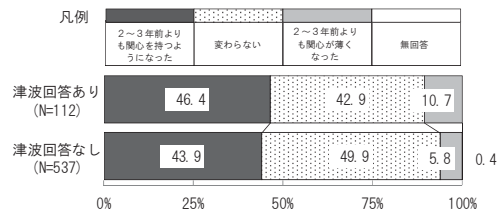
地域別でみると、「2～3年前よりも関心を持つようになった」は『賀茂』(63.3%)が最も高く、他の地域と比べると20ポイント以上の差がある。

2～3年前からの関心度の変化
＜地域別＞



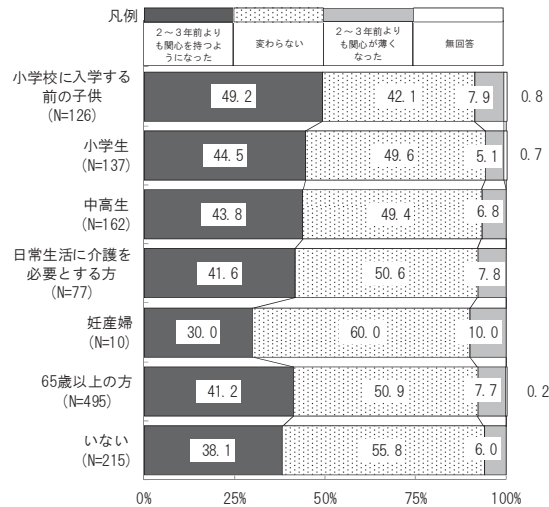
予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の回答者別でみると、「2～3年前よりも関心を持つようになった」は、『津波回答あり』（46.4%）は『津波回答なし』（43.9%）を2.5ポイント上回っている。

2～3年前からの関心度の変化
 <予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別>



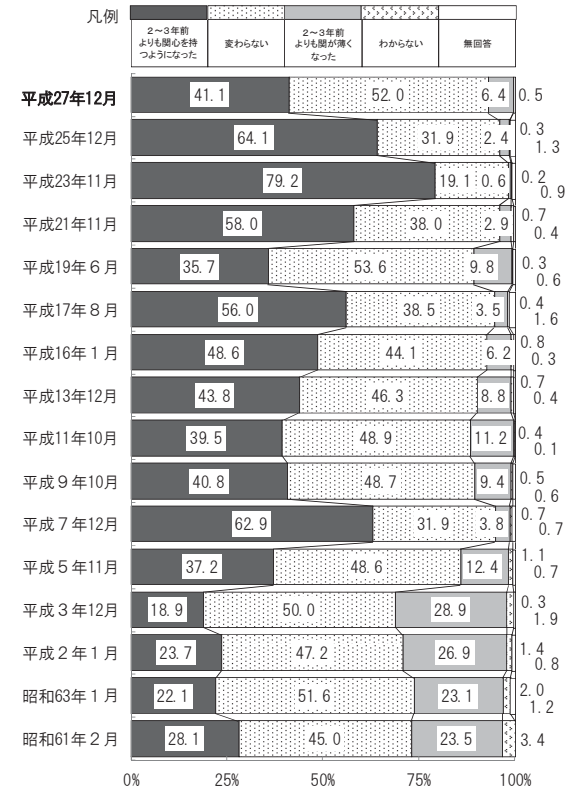
2～3年前からの関心度の変化
 <要配慮者等別>

要配慮者等別でみると、「2～3年前よりも関心を持つようになった」は『小学校に入学する前の子供』のいる世帯（49.2%）で最も高く、ついで『小学生』のいる世帯（44.5%）、『中高生』のいる世帯（43.8%）以外で最も高くなっており、いずれも4割を超えている。



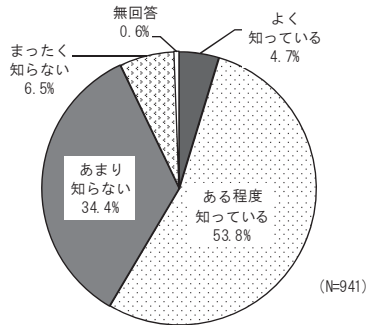
経年比較でみると、「2～3年前よりも関心を持つようになった」は平成23年11月から下がっており、平成25年12月の前回調査（64.1%）と比べると23ポイント下回っている。

2～3年前からの関心度の変化
 <経年比較>



1-3 南海トラフ地震(東海地震)発生メカニズムの認知

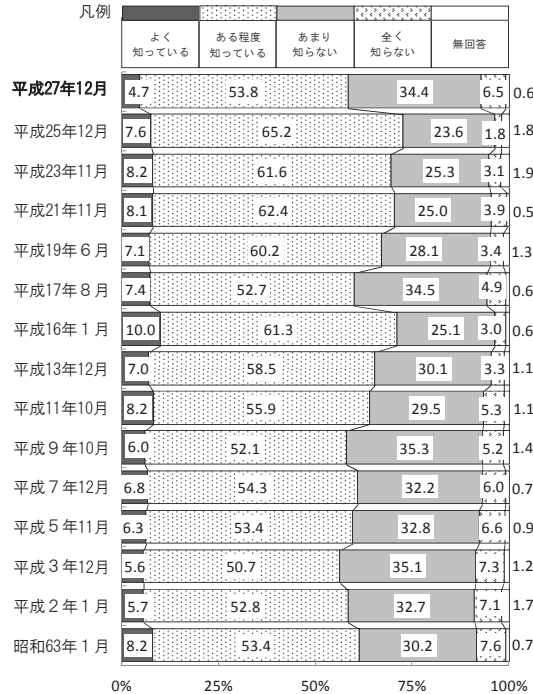
問3 あなたは、南海トラフ地震(東海地震)が発生する仕組み(メカニズム)を知っていますか。



南海トラフ地震(東海地震)が発生する仕組み(メカニズム)の認知についてたずねたところ、「ある程度知っている」(53.8%)が最も高くなっている。次いで「あまり知らない」(34.4%)、「まったく知らない」(6.5%)、「よく知っている」(4.7%)の順となっている。

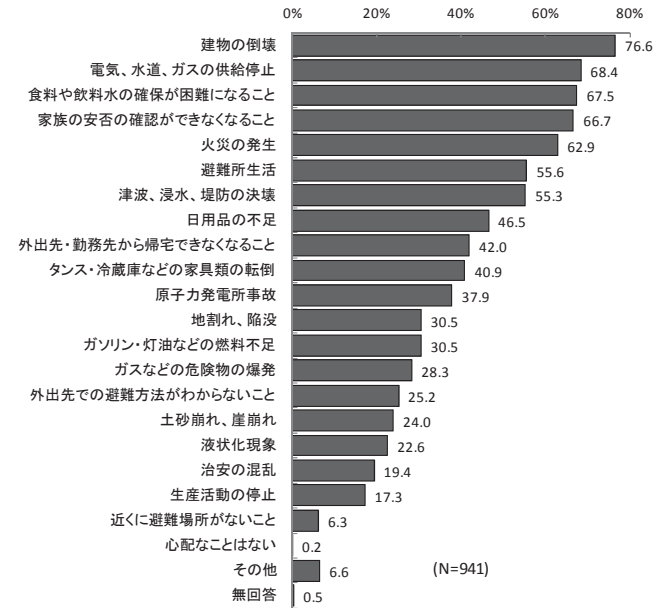
南海トラフ地震(東海地震)発生メカニズムの認知
＜経年比較＞

経年比較でみると、「合計認知」(「よく知っている」+「ある程度知っている」)は、平成25年度12月の前回調査(72.8%)に比べると、14.3ポイント下回っている。また、「あまり知らない」(34.4%)、が前回より10.8ポイント上回っている。



1-4 大規模地震が起こった場合に心配なこと【新規設問】

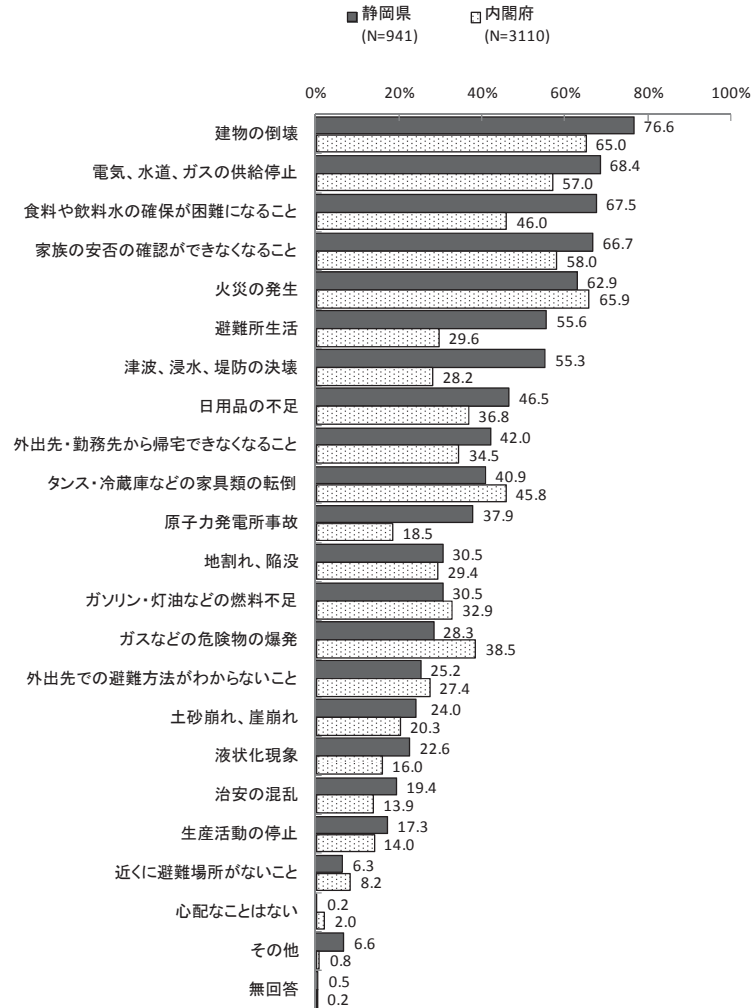
問4 あなたは、南海トラフ地震(東海地震)が起こった場合、どのようなことが心配ですか。(M. A)



大規模地震時の心配事についてたずねたところ、「建物の倒壊」(76.6%)、次いで「電気、水道、ガスの供給停止」(68.4%)、「食料や飲料水の確保が困難になること」(67.5%)、「家族の安否の確認ができなくなること」(66.7%)の順となっている。

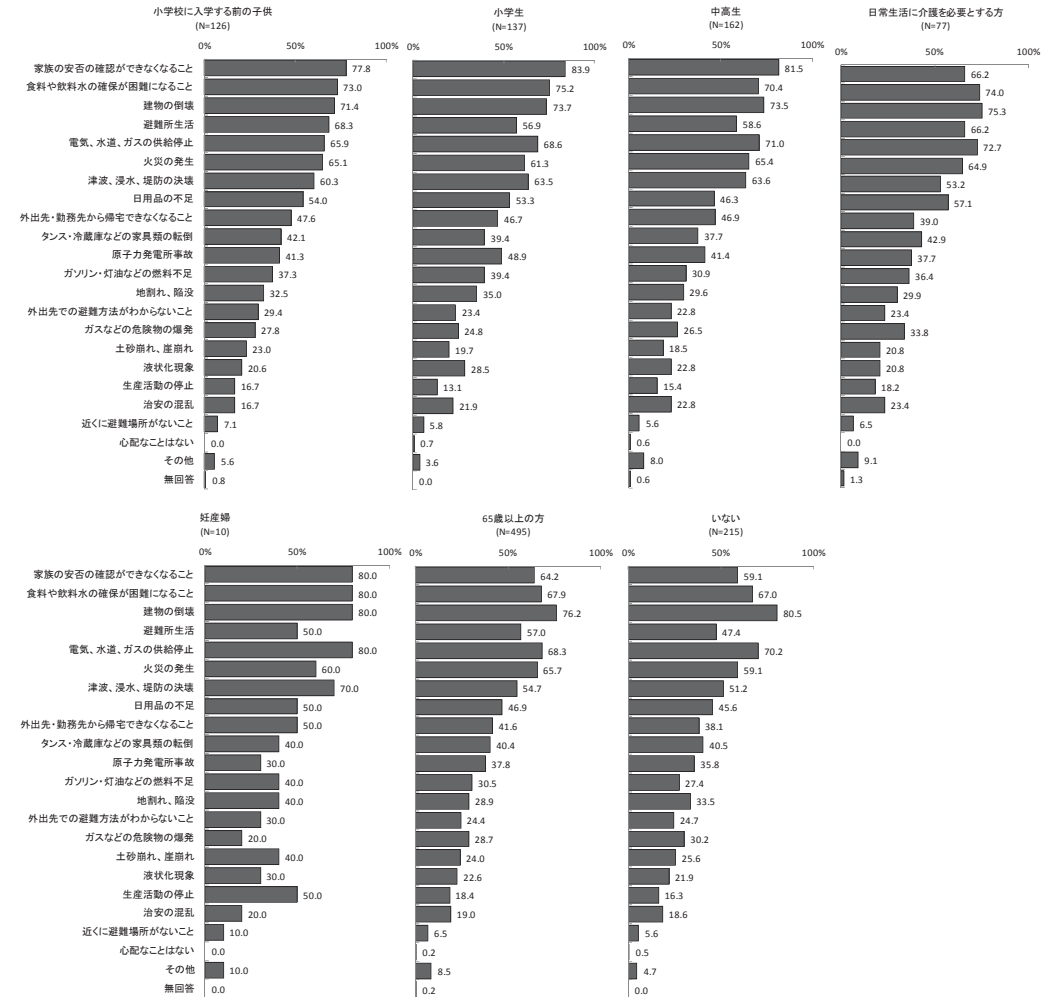
内閣府調査との比較でみると、「建物の倒壊」は『県』(76.6%)が『内閣府』(65.0%)より11.6ポイント高くなっている。また、「火災の発生」は『県』(62.9%)が『内閣府』(65.9%)より3ポイント低くなっている。

地震時の心配事<内閣府調査との比較>



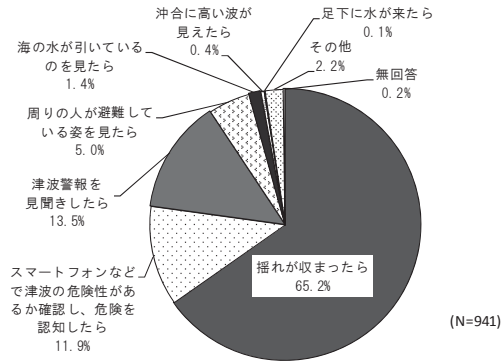
要配慮者等別でみると、「家族の安否確認ができなくなる」が『小学生』のいる世帯(83.9%)、『中学生』のいる世帯(81.5%)、『小学校に入学する前の子供』のいる世帯(77.8%)で特に高くなっている。

地震時の心配事<要配慮者等別>



1-5 津波避難のタイミング【新規設問】

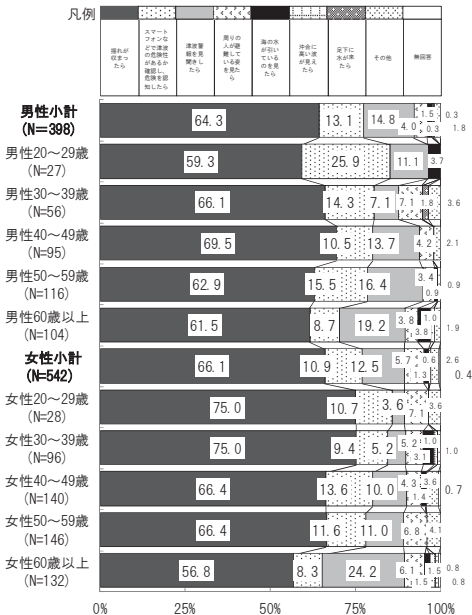
問5 あなたが海岸付近にいる際に突発的な大地震があったとして、どのタイミングで避難すると思うかについてお答えください。



津波避難のタイミングについてたずねたところ、「揺れが収まったら」（65.3%）が最も高くなっており、次いで「スマートフォンなどで津波の危険性があるか確認し、危険を認知したら」（11.9%）、「津波警報を見聞きしたら」（13.5%）、「周りの人が避難しているのを見たら」（5.0%）となっている。

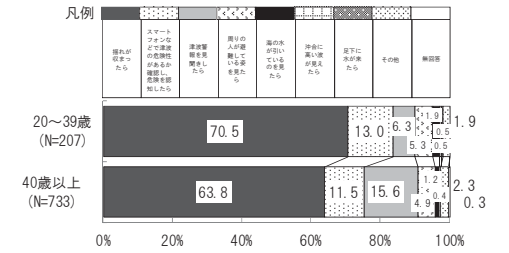
性・年代別で見ると、いずれも「揺れが収まったら」は、半数を超えており、『女性20歳代』（75.0%）、『女性30歳代』（70.5%）が最も高くなっている。

津波避難のタイミング<性・年代別>



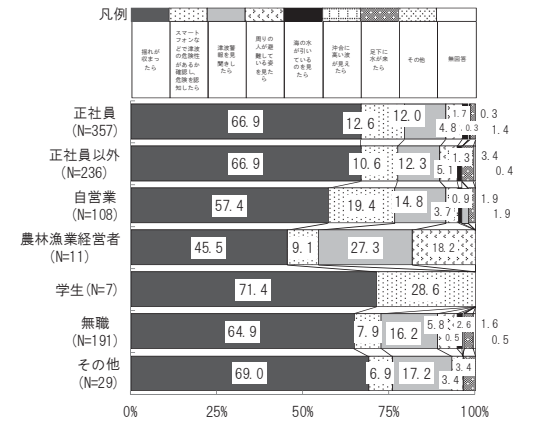
年代別で見ると、「揺れが収まったら」については『20歳~39歳』（70.5%）が『40歳以上』（63.8%）を6.7ポイント上回っている。

津波避難のタイミング<年代別>



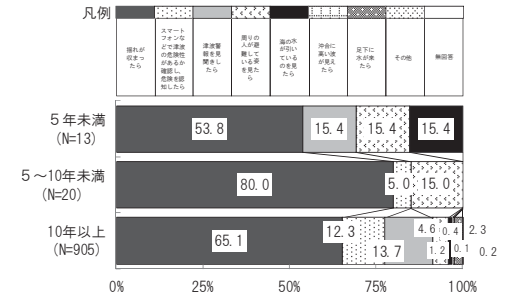
職業別で見ると、『農林漁業経営者』の「津波警報を見聞きしたら」（27.3%）が最も高くなっている。

津波避難のタイミング<職業別>



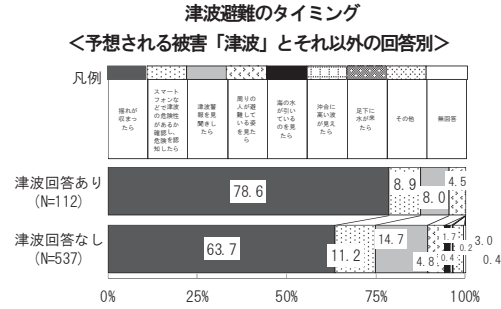
居住年数別で見ると、『5~10年未満』（80.0%）が最も高くなっており、『5年未満』（53.8%）と比べると26.2ポイント高くなっている。

津波避難のタイミング<居住年数別>

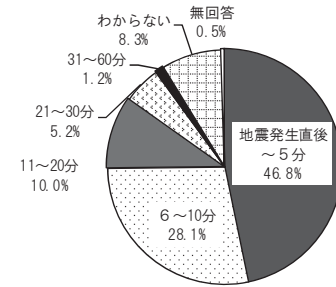


1-6 大規模地震発生時の津波の速さの認知

予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別でみると、「揺れが収まったら」は『津波回答あり』(78.6%)が『津波回答なし』(63.7%)を14.9ポイント上回っており、誤差を考慮しても「揺れが収まったら」は『津波回答あり』が高くなっているといえる。



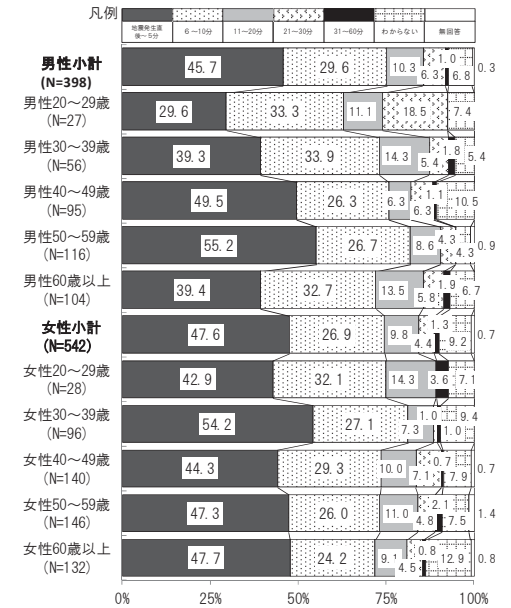
問6 南海トラフ地震(東海地震)が発生した場合、津波は、一番は早いところでは地震発生後どのくらいの時間で沿岸に来ると思いますか。



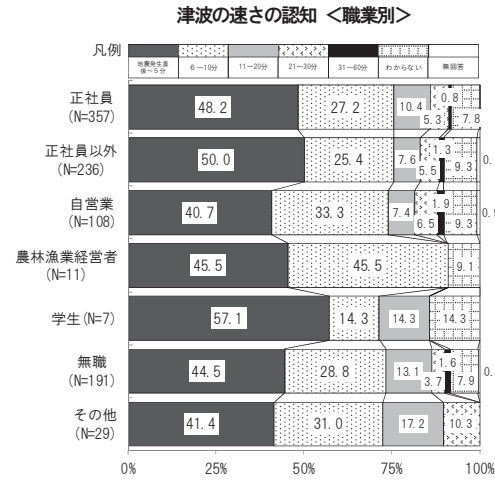
予想される到達時間は、駿河湾や遠州灘の沿岸では地震発生直後～5分程度であるが、南海トラフ地震(東海地震)発生時の津波の到達時間の認知についてたずねたところ、「地震発生直後～5分」(46.8%)が最も高く、次いで「6～10分」(28.1%)、「11～20分」(10.0%)の順となっている。

性・年代別でみると、「地震発生直後～5分」と答えた人は、『男性50代』(55.2%)と『女性30代』(54.2%)が高く、いずれも5割を超えている。一方、『男性20代』(29.6%)では、「地震発生直後～5分」と答えた人が全体で最も低く、次いで『男性30代』(39.3%)、『男性60代』(39.4%)の順となっている。

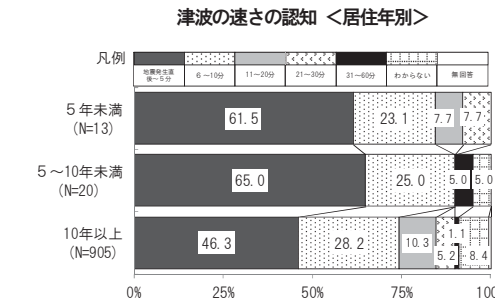
津波の速さの認知 <性・年代別>



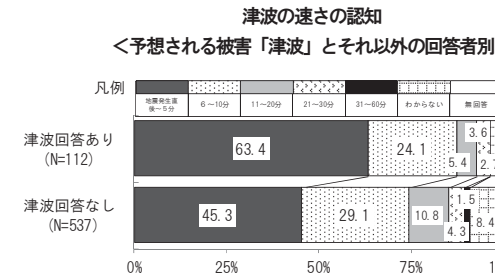
職業別でみると、『自営業』の「地震発生直後～5分」(40.7%)が最も低くなっている。



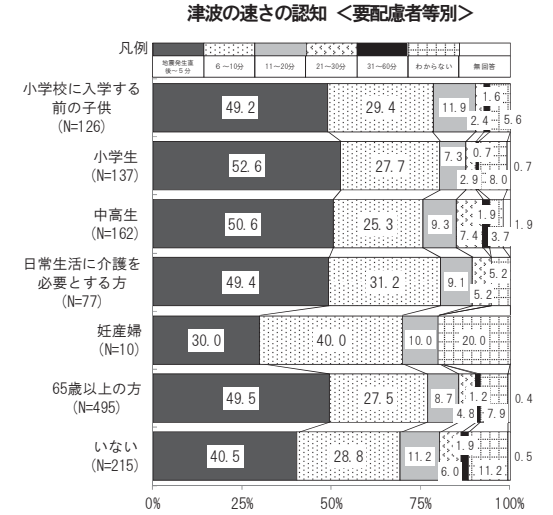
居住年別でみると、「地震発生直後～5分」と答えた人は、『5年未満』(61.5%)と『5～10年未満』(65.0%)が高くどちらも半数を超えている。



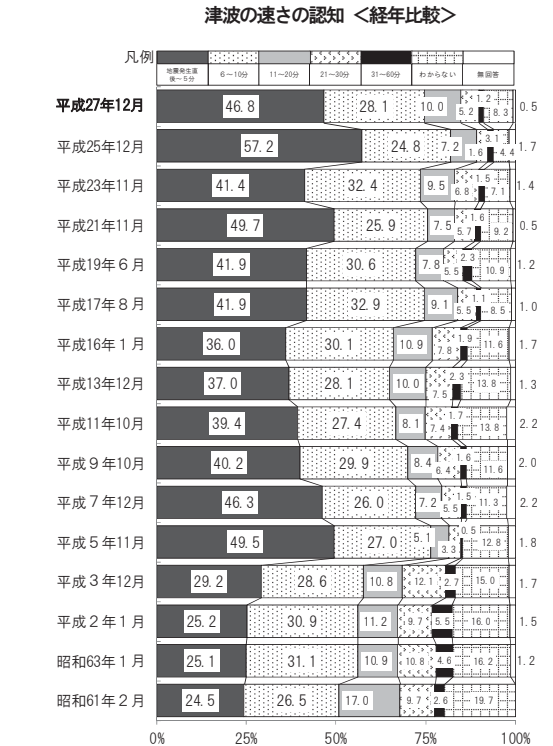
予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別でみると、「地震発生直後～5分」は『津波回答なし』(45.3%)に比べて『津波回答あり』(63.4%)は18.1ポイント高くなっており、誤差を考慮しても「地震発生直後～5分」は『津波回答あり』で高くなっているといえる。



要配慮者等別でみると、「地震発生直後～5分」と答えた人は、『小学生』のいる世帯(52.6%)と『中学生』のいる世帯(50.6%)が高く、半数を超えている。一方、『妊産婦』のいる世帯(30.0%)では、「地震発生直後～5分」と答えた人が全体で最も低くなっている。

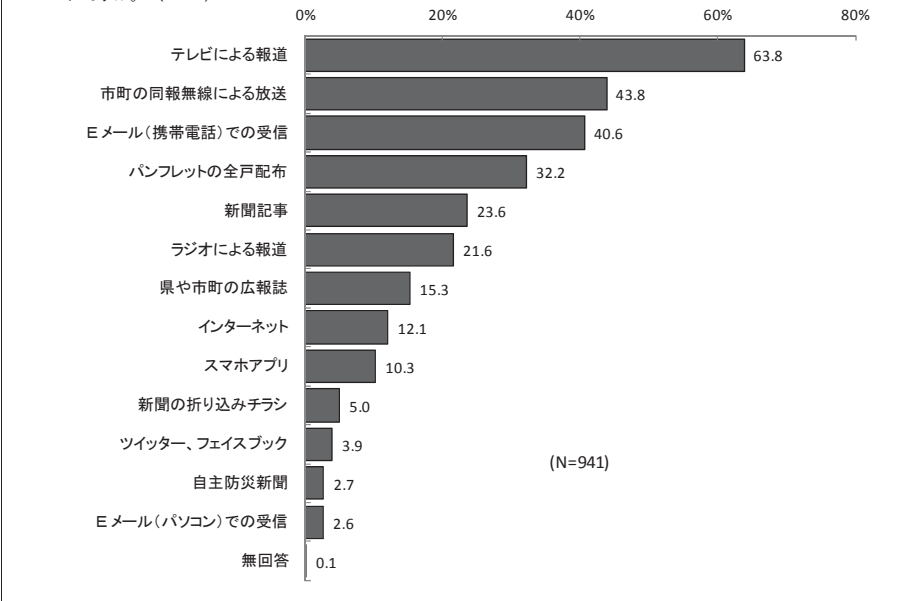


経年比較でみると、「地震発生直後～5分」が今回調査(46.8%)は、平成25年12月の前回調査(57.2%)に比べると、10.4ポイント下回っている。



1-7 南海トラフ地震(東海地震)についての情報を定期的に提供する方法

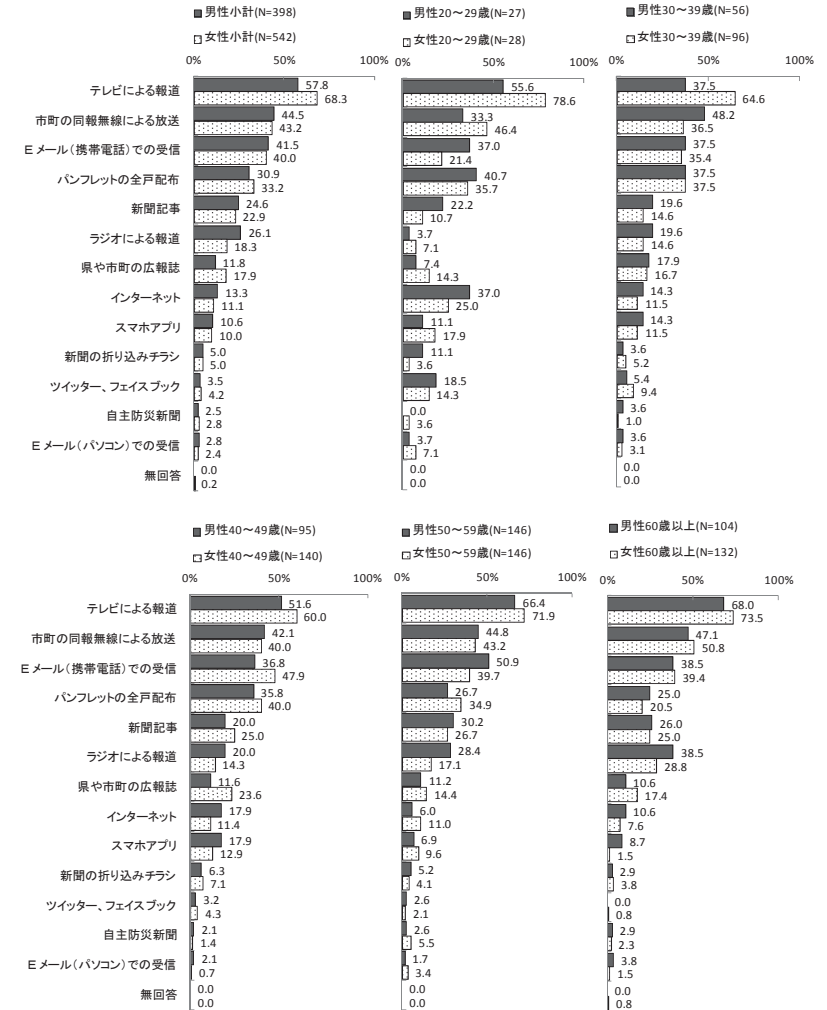
問7 平常時に県や市町から南海トラフ地震等の情報を提供する場合、皆さまに確実に伝わると思う方法は次のうちどれですか。(M.A)



南海トラフ地震(東海地震)を中心とした情報を定期的に提供する方法についてたずねたところ、「テレビによる報道」(63.8%)、次いで「市町の同報無線による放送」(43.8%)、「Eメール(携帯電話)での受信」(40.6%)、「パンフレットの全戸配布」(32.2%)の順となっている。

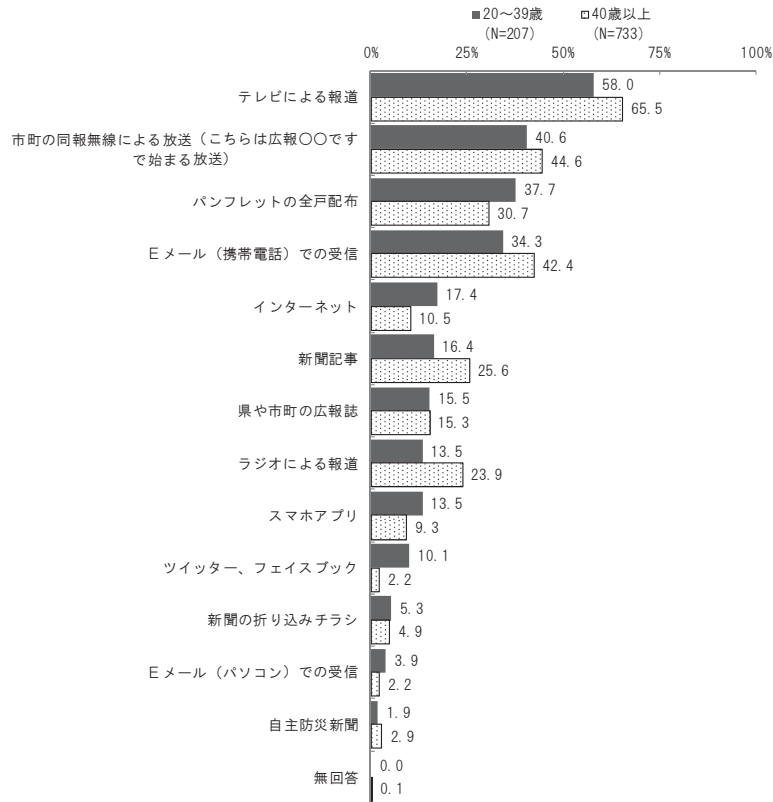
性・年代別で見ると、「テレビによる報道」がいずれも女性で高い傾向が見られ、特に『女性20代』(78.6%)、『女性30代』(64.6%)で高くなっている。「市町の同報無線による放送」では『女性60代以上』(50.8%)が最も高く、『男性20代』(33.3%)と比べると17.5ポイント高くなっている。また、「Eメール(携帯電話)での受信」では『男性50代』(50.9%)が最も高く、『女性20代』(21.4%)と比べると29.5ポイントの差が見られる。

南海トラフ地震(東海地震)についての情報を定期的に提供する方法<性・年代別>



年代別で見ると、「テレビによる報道」は『40歳以上』(65.5%)、『20～39歳』(58.0%)と『40歳以上』が7.5ポイント上回っており、誤差を考慮しても『40歳以上』の方が「テレビによる報道」が高いと言える。「Eメール(携帯電話)での受信」は『40歳以上』(42.4%)で高くなっており、「インターネット」は『20～39歳』(17.4%)が高くなっている。「新聞記事」、「ラジオによる報道」は、誤差を考慮しても『40歳以上』の方が『20～39歳』より高いと言える。「ツイッター、フェイスブック」は、誤差を考慮しても『20～39歳』の方が『40歳以上』より高いと言える。

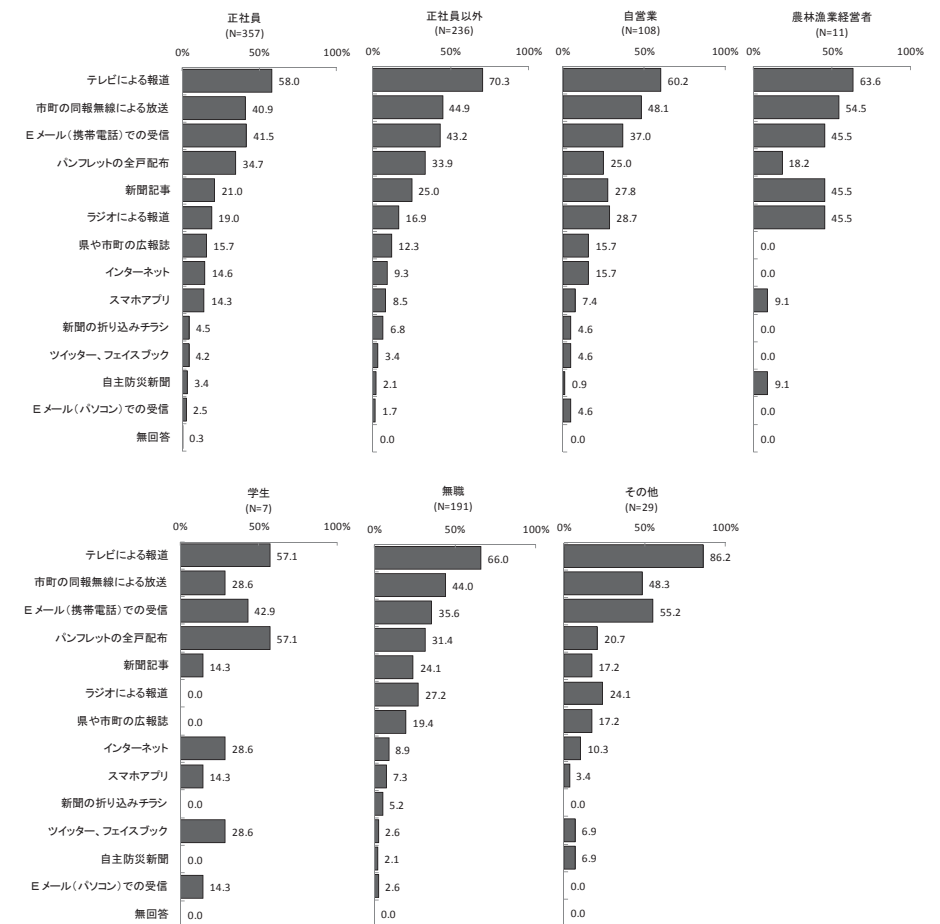
南海トラフ地震(東海地震)についての情報を定期的に提供する方法<年代別>



職業別で見ると、『自営業』は「新聞記事」(27.8%)「ラジオによる報道」(28.7%)、『農林漁業経営者』は「新聞記事」(45.5%)「ラジオによる報道」(45.5%)が他と比べて高くなっている。また「ツイッター、フェイスブック」(28.6%)が学生で高くなっている。

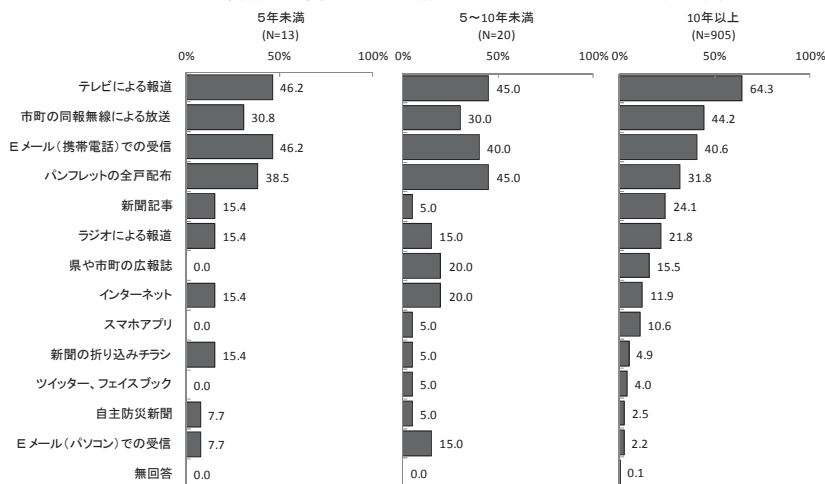
誤差を考慮しても『正社員以外』の「テレビによる報道」は『正社員』より高くなっているといえる。

南海トラフ地震(東海地震)についての情報を定期的に提供する方法<職業別>



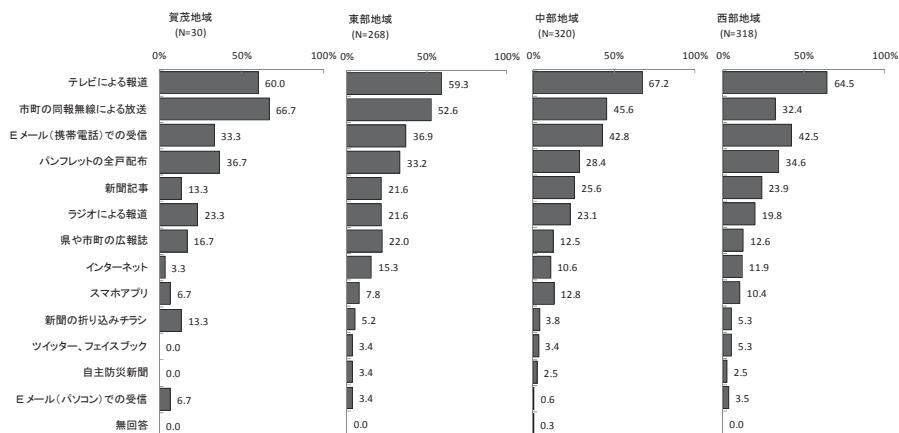
居住年数別みると、『10年以上』の「テレビによる報道」(64.3%)が最も高くなっている。また、『5年未満』(30.8%)、『5～10年未満』(30.0%)で「市町の同報無線による放送」が低くなっている。

南海トラフ地震(東海地震)についての情報を定期的に提供する方法<居住年数別>



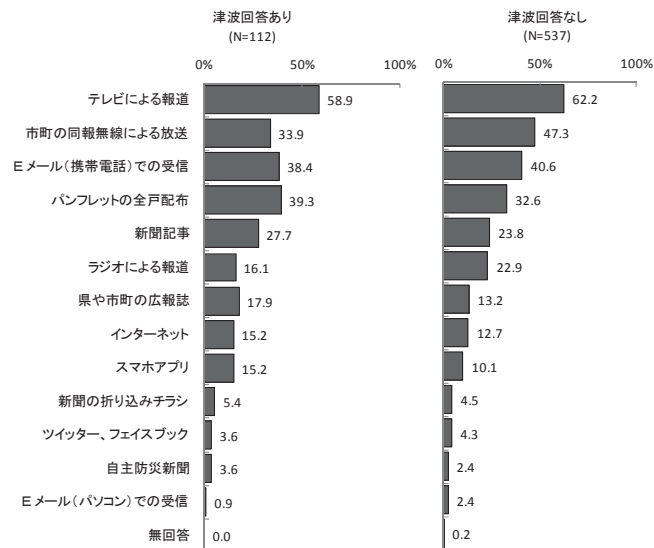
地域別で見ると、「市町の同報無線による放送」が『賀茂』(66.7%)で最も高くなっており、『西部』(32.4%)と比べると34.3ポイントの差が見られる。誤差を考慮しても「市町の同報無線による放送」は『西部』が『中部』、『東部』より低いといえる。また、「県や市町の広報誌」は『東部』が『中部』、『西部』より高いといえる。

南海トラフ地震(東海地震)を中心とした情報を定期的に提供する方法<地域別>



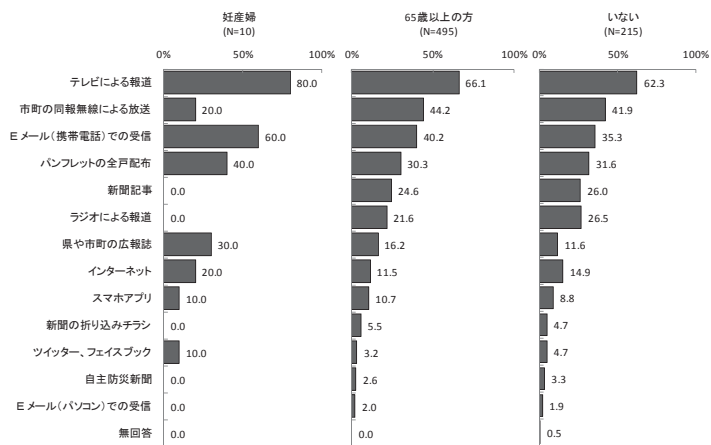
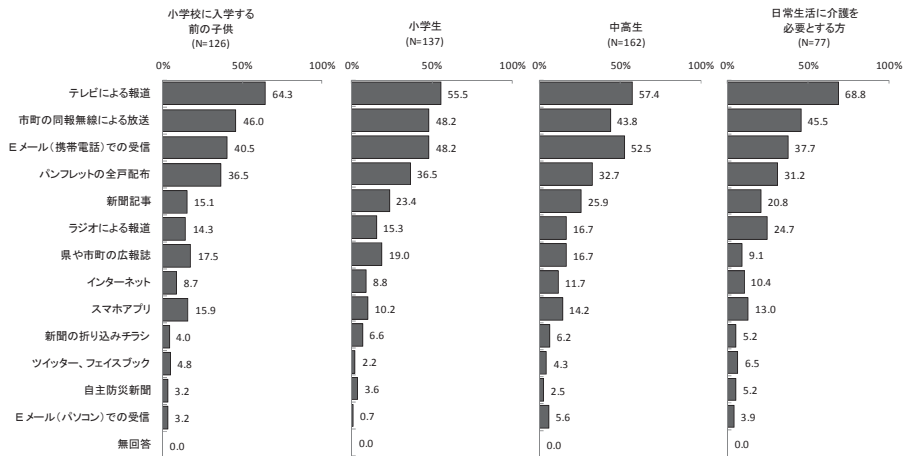
津波回答別で見ると、「市町の同報無線による放送」が『津波回答あり』(33.9%)に比べて『津波回答なし』(47.3%)が13.4ポイント高くなっており、誤差を考慮しても「市町の同報無線による放送」は『津波回答なし』で高くなっているといえる。

南海トラフ地震(東海地震)を中心とした情報を定期的に提供する方法<津波回答別>



要配慮者等別でみると『妊産婦』のいる世帯(60.0%)と『中学生』のいる世帯(52.5%)で「Eメール(携帯電話)での受信」が他と比べて高くなっている。

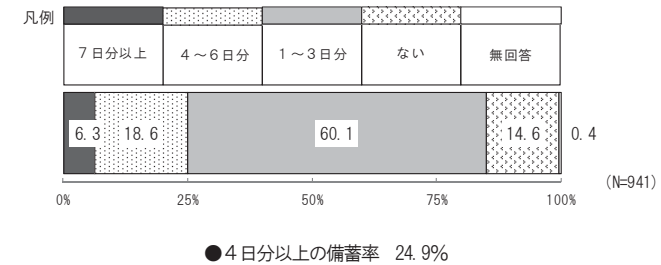
南海トラフ地震(東海地震)を中心とした情報を定期的提供する方法<要配慮者等別>



2 日ごろの防災対策について

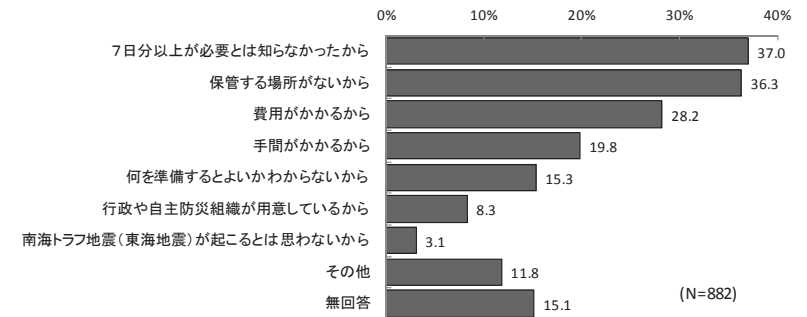
2-1 災害時に利用できる食料の備蓄日数

問8 災害時には、非常食(アルファ米・乾パン・缶詰等)だけでなく、日常的に利用する保存・調理が容易な食品(レトルト食品・インスタントラーメン・果物等)も活用できます。あなたのお宅では、災害時に利用できる食料は家族の何日分ありますか。



<問8で「7日以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

問8-1 県では現在、各家庭で災害時に利用できる食料として、家族の7日分以上の用意を勧めています。あなたのお宅で現在のところ7日分以上の食料を用意していないのはどのような理由からですか。(M.A)

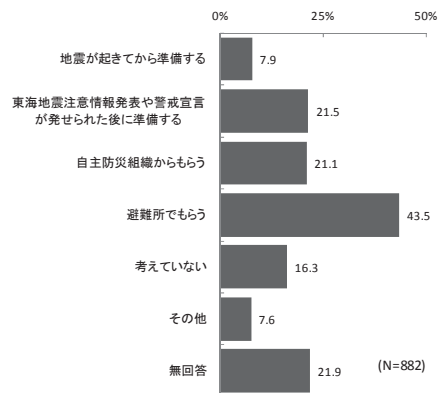


災害時に利用できる食料の備蓄日数についてたずねたところ、「1~3日分」(60.1%)が最も高く、次いで「4日~6日分」(18.6%)、「用意していない」(14.6%)、「7日以上」(6.3%)の順となっている。

また、7日分以上の食料を用意していない理由をたずねたところ、「7日分以上が必要とは知らなかったから」(37.0%)が最も高く、次いで「保管する場所がないから」(36.3%)、「費用がかかるから」(28.2%)の順となっている。

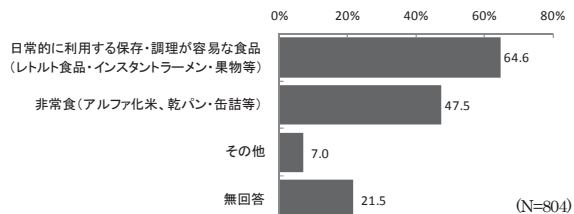
<問8で「7日以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

問8-2 食料が必要となった場合はどのようにして確保しますか。(M. A.)



<問8で「1 用意していない」以外を選んだ方にお伺いします。>

問8-3 災害時に利用できる食料として主に何を用意していますか。(M. A.)

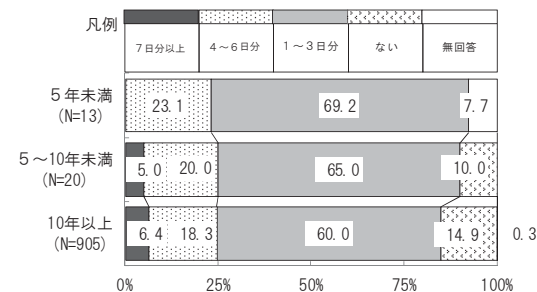


問8で「7日以上」と回答した人以外に、食料確保の手段をたずねたところ、「避難所でもらう」(43.5%)、「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」(21.5%)、「自主防災組織からもらう」(21.1%)の順となっている。

また、問8で用意していると回答した人に用意している食料をたずねたところ、「日常的に利用する保存・調理が容易な食品(レトルト食品・インスタントラーメン・果物等)」(64.6%)が最も高く、次いで「非常食(アルファ化米、乾パン・缶詰等)」(47.5%)となっている。

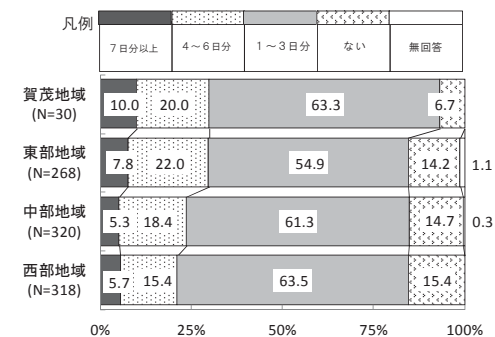
居住年数別で見ると、「7日以上」は『10年以上』(6.4%)が『5~10年未満』(5.0%)に比べて1.4ポイント高くなっている。

災害時に利用できる食料の備蓄日数<居住年数別>

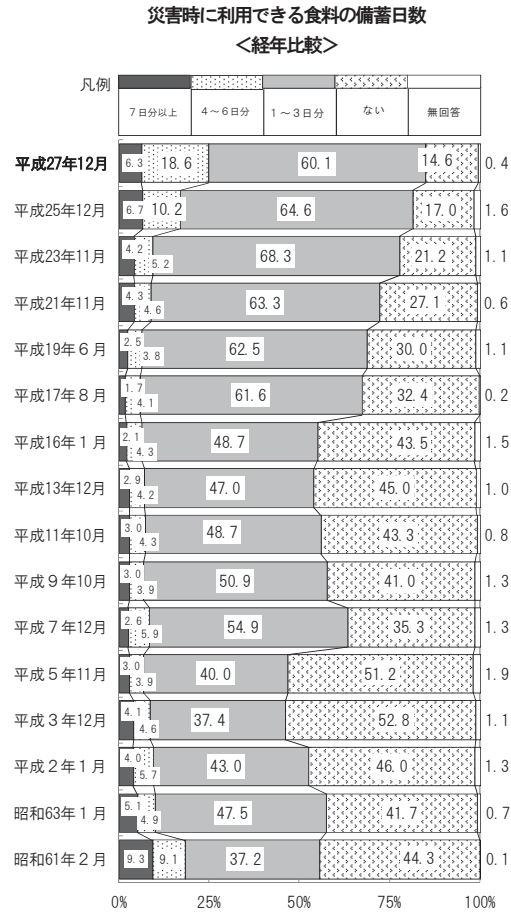


地域別で見ると、「7日以上」は『賀茂』(10.0%)が最も高く、『中部』(5.3%)と比べると4.7ポイントの差が見られる。

災害時に利用できる食料の備蓄日数<地域別>

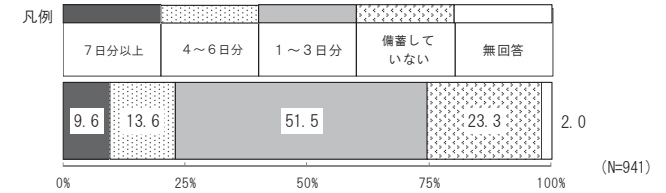


経年比較でみると、平成23年11月、平成25年12月、平成27年12月と、「4～6日分」の備蓄率は増加傾向にある。今回調査では、「4日分以上」の備蓄率は24.9%となり、前回調査（16.9%）より8ポイント上昇している。



2-2 飲料水の備蓄日数

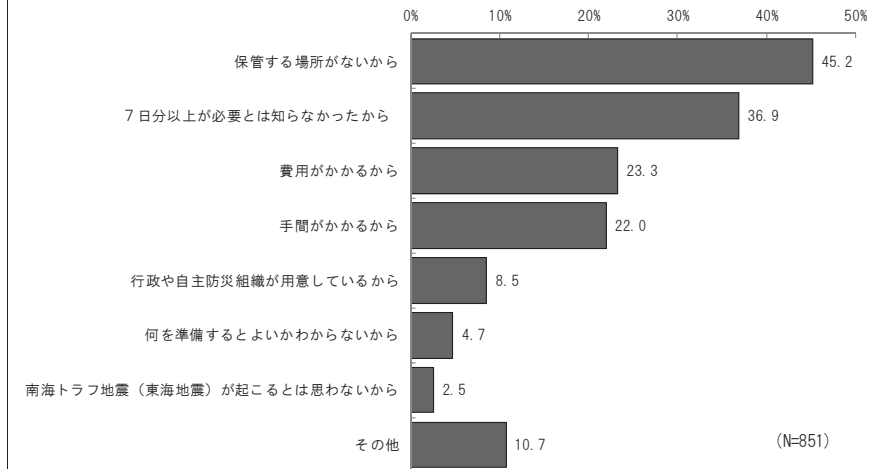
問9 あなたのお宅では、何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり3リットルで計算してください。



● 4日分以上の備蓄率 23.2%

＜問9で「8 7日分以上」以外を選んだ方にお伺いします。＞

問9-1 県では現在、災害時に備えて、各家庭で家族の7日分以上の飲料水の備蓄を勧めています。あなたのお宅で現在のところ7日分以上の飲料水を備蓄していないのはどのような理由からですか。(M.A.)

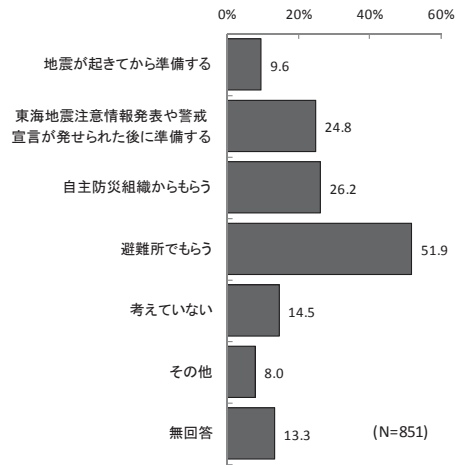


飲料水の備蓄日数についてたずねたところ、「1日分～3日分」（51.5%）が最も高くなっており、「4日分～6日分」（13.6%）、「7日分以上」（9.6%）となっている。

また、7日分以上の飲料水を備蓄していない理由をたずねたところ、「保管する場所がないから」（45.2%）が最も高く、次いで「7日分以上が必要とは知らなかったから」（36.9%）「費用がかかるから」（23.3%）の順となっている。

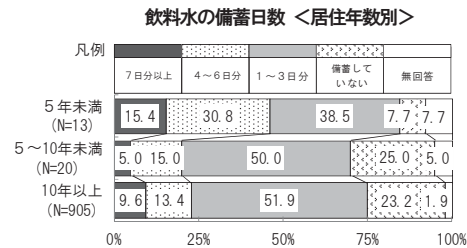
<問9で「8 7日以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

問9-2 飲料水が必要となった場合はどのようにして確保しますか。(M.A.)

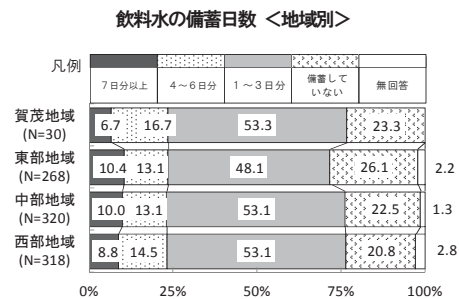


問9で「7日以上」と回答した人以外に、飲料水が必要となった場合の確保手段をたずねたところ、「避難所でもらう」(51.9%)、「自主防災組織からもらう」(26.2%)、「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」(24.8%)の順となっている。

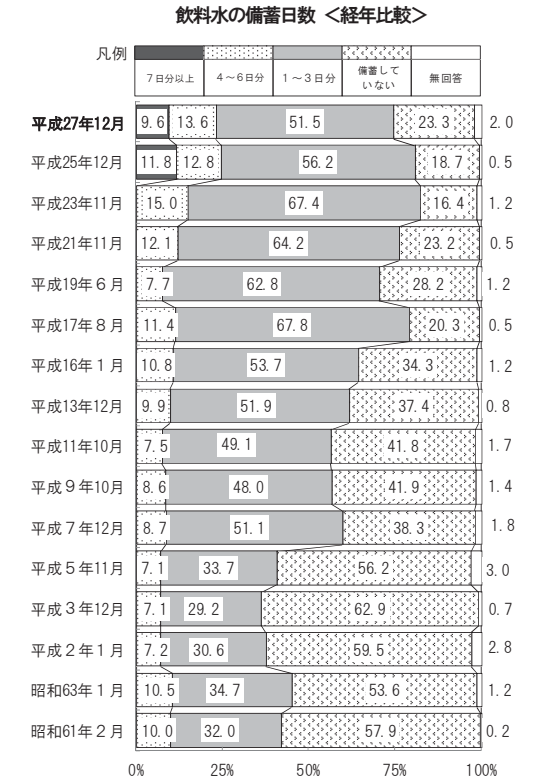
居住年数別でみると、「備蓄していない」は、『5～10年未満』(25.0%)が最も高く、『5年未満』(7.7%)とは17.3ポイントの差が見られる。



地域別でみると、「備蓄していない」は、『東部』(26.1%)が最も高く、次いで『賀茂』(23.3%)となっている。



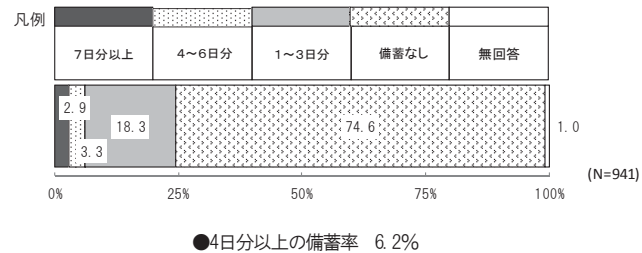
経年比較でみると、「4日以上」は、今回調査(23.2%)では、平成25年12月の前調査(24.6%)より1.4ポイント低下している。



※「7日以上」の選択肢は平成25年度から設定した。

2-3 携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数【新規設問】

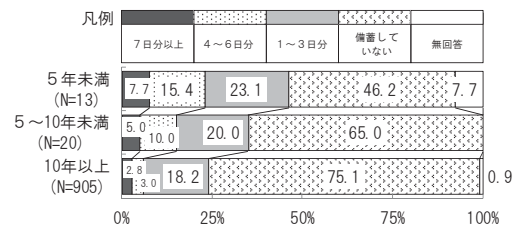
問10 あなたのお宅では、何日分の携帯トイレ・簡易トイレを備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり5回分で計算してください。



携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数の備蓄日数についてたずねたところ、「備蓄していない」家庭は74.6%、「1～3日分」用意している家庭は18.3%、「4～6日分」用意している家庭は3.3%で、「7日以上」用意している家庭は2.9%の順となっている。

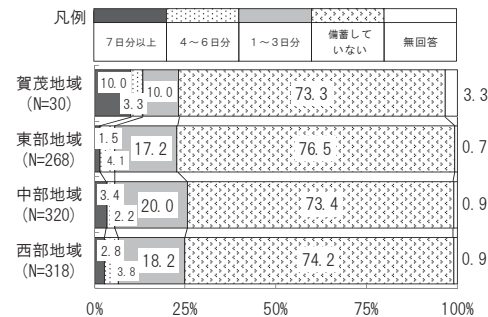
居住年数別でみると、「7日以上」の家庭は、『5年未満』（7.7%）が最も高く、『10年以上』（2.8%）とは4.9ポイントの差が見られる。

携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数<居住年数別>



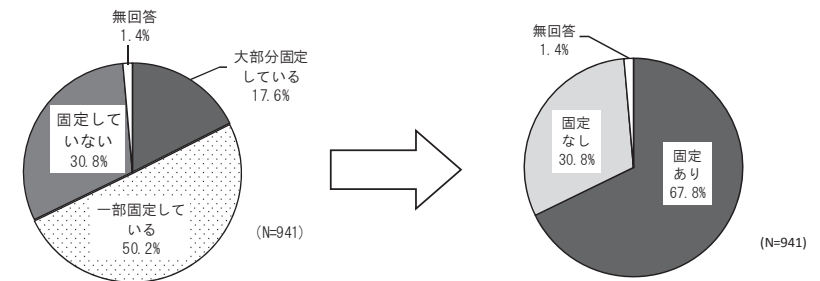
地域別でみると、「7日以上」家庭は、『賀茂』（10.0%）が最も高く、『東部』（1.5%）とは8.5ポイントの差が見られる。

携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数<地域別>



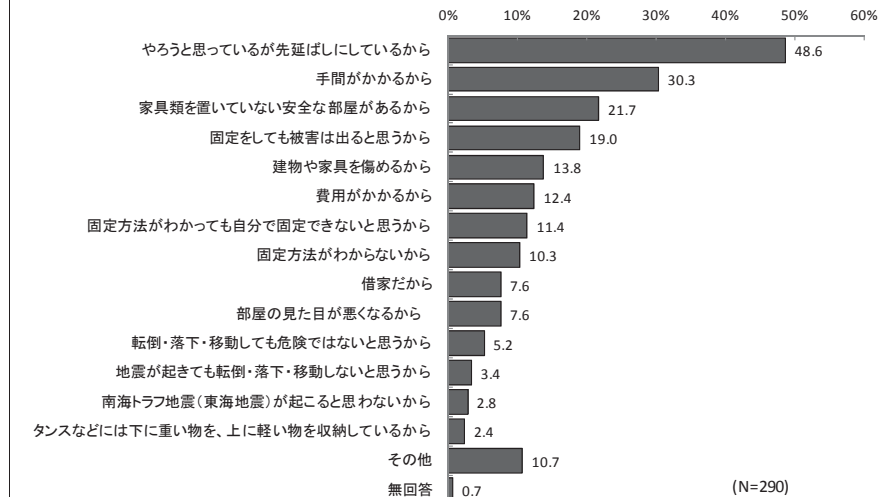
2-4 家具類の固定

問11 あなたのお宅では、地震に備えて家具類の固定をしていますか。



<問11で「3 固定していない」を選んだ方にお伺いします。>

問11-1 どのような理由からですか。(M.A.)



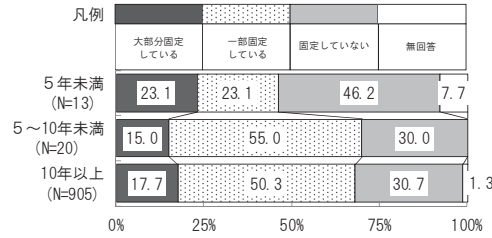
家具類の固定状況についてたずねたところ、「大部分固定している」（17.6%）と「一部固定している」（50.2%）を合わせると、固定実施率は67.8%となっている。内閣府調査では、「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」と回答した人が40.7%となっており、静岡県は27.1ポイント高くなっている。

また、問11で「固定していない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「やろうと思っているが先延ばしにしているから」（48.6%）、「手間がかかるから」（30.3%）、「家具類を置いていない安全な部屋があるから」（21.7%）、「固定をしても被害は出ると思うから」（19.0%）の順となっている。

2-5 ブロック塀・門柱などの安全点検

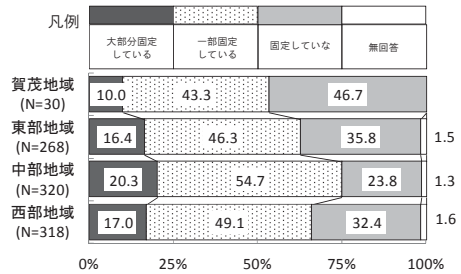
居住年数別でみると、家具の固定実施率（「大部分固定している」+「一部固定している」）は、『5～10年未満』（70.0%）が最も高く、『5年未満』（46.2%）とは23.8ポイントの差が見られる。

家具類の固定実施状況<居住年数別>



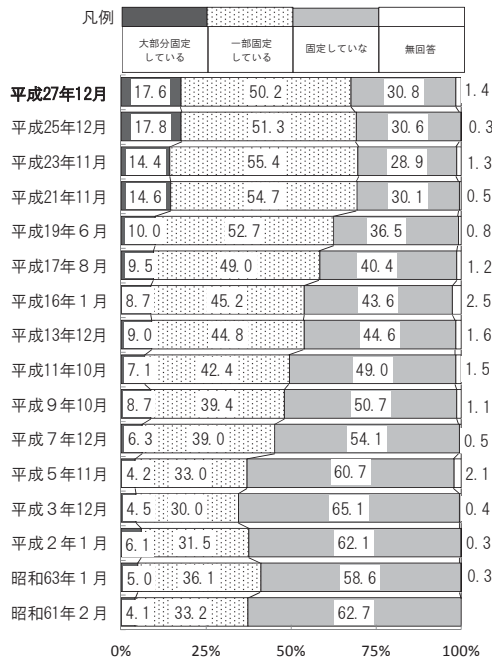
地域別でみると、家具の固定実施率（「大部分固定している」+「一部固定している」）は、『中部』（75.0%）が最も高く、『賀茂』（53.3%）とは21.7ポイントの差が見られる。

家具類の固定実施状況<地域別>



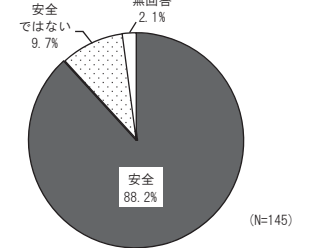
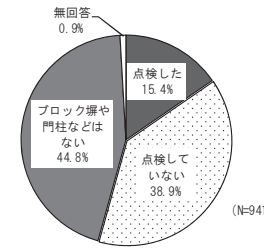
経年比較でみると、家具の固定実施率（「大部分固定している」+「一部固定している」）が、今回調査（67.8%）は平成25年12月の前回調査（69.1%）と比べ1.3ポイント低下している。

家具類の固定実施状況<経年比較>



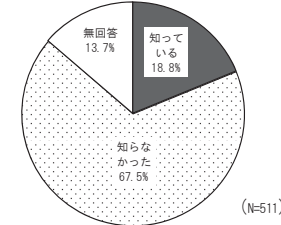
問12 あなたのお宅では、ブロック塀や門柱などの安全性について点検していますか。

<問12で「1 点検した」を選んだ方にお伺いします>
問12-1 点検結果はいかがでしたか。



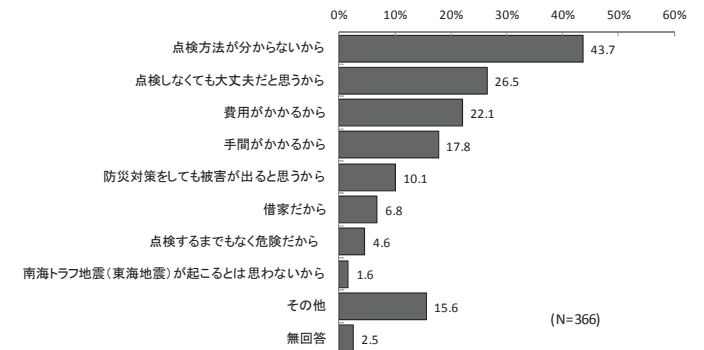
<問12で「1 点検した および2 点検していない」を選んだ方にお伺いします。>

問12-2 現在、静岡県では危険なブロック塀の撤去、改善に対して補助する制度がありますが、このことをご存知ですか。【新規設問】



<問12で「2 点検していない」を選んだ方にお伺いします。>

問12-3 どのような理由からですか。(M. A.)

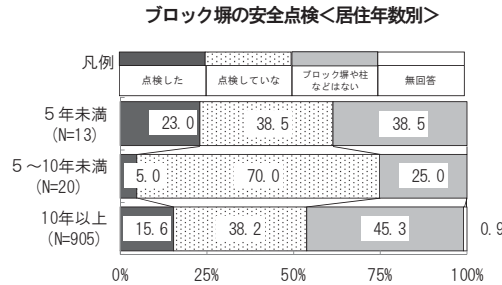


ブロック塀・門柱などの安全性の点検についてたずねたところ、「ブロック塀や門柱などはない」(44.8%)が最も高く、次いで「点検していない」(38.9%)、「点検した」(15.4%)の順となっている。

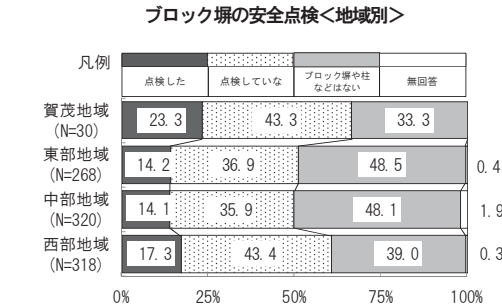
問12で「点検をした」と回答した人に、結果をたずねたところ、「安全」(88.2%)が最も高く、次いで「安全ではない」(9.7%)となっている。また、問12で「点検していない」と回答した人の理由については、「点検方法が分からないから」(43.7%)が最も高く、次いで「点検しなくても大丈夫だと思うから」(26.5%)、「費用がかかるから」(22.1%)の順となっている。

問12で「点検した」および「点検していない」と回答した人に、ブロック塀の撤去、改善の補助制度の認知についてたずねたところ、「知らなかった」(67.5%)、「知っている」(18.8%)の順となっている。

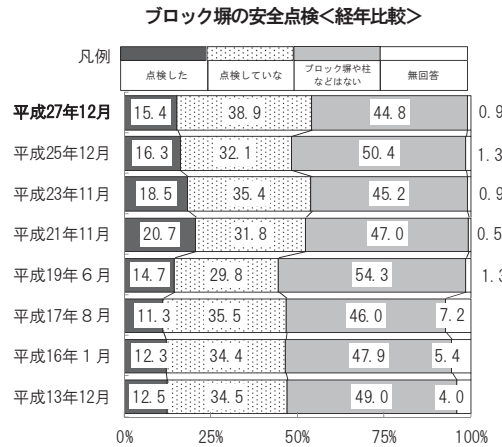
居住年別でみると、ブロック塀の安全性点検率は、「点検していない」が『5～10年未満』(70.0%)と最も高く、一番低い『10年以上』(38.2%)とは31.8ポイントの差が見られる。



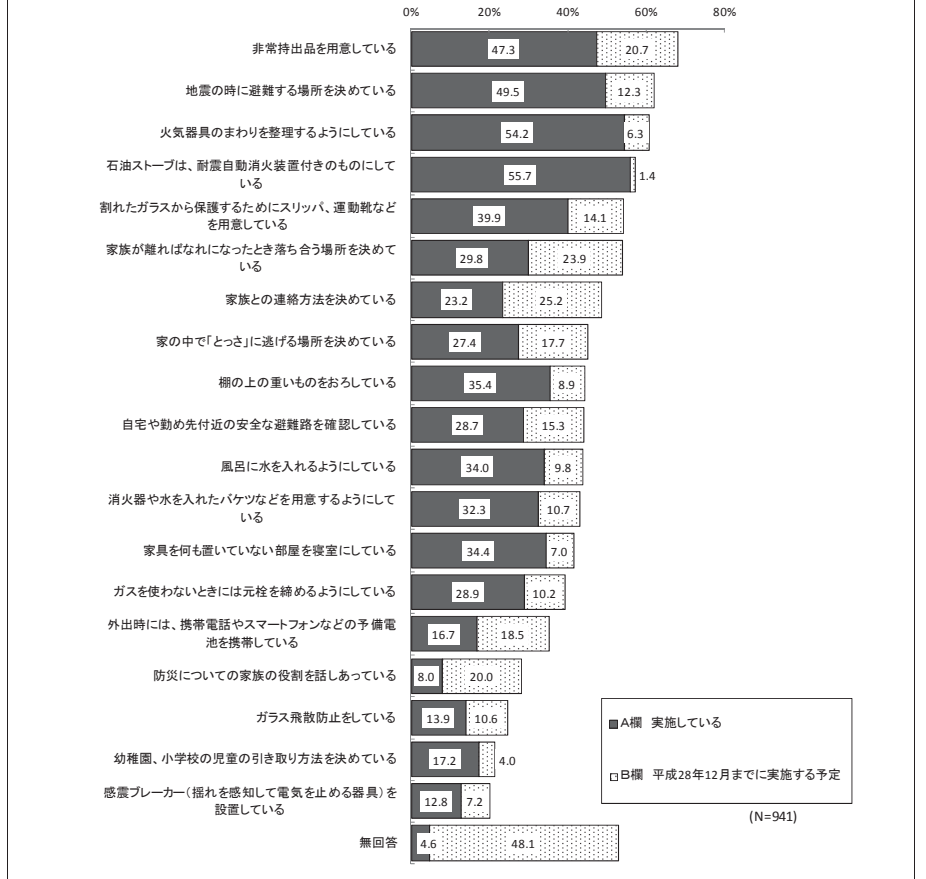
地域別でみると、ブロック塀の安全性点検率は「点検した」が、『賀茂』(23.3%)と最も高く、『中部』(14.1%)とは9.2ポイントの差が見られる。



経年比較でみると、ブロック塀の安全性点検率は「点検していない」が、前回調査(32.1%)より、今回調査(38.9%)の方が6.8ポイント増加している。



問13 次にあげるものの中で、南海トラフ地震(東海地震)に備えて実施している防災対策がありますか。あてはまるものをA欄にいくつでもお答えください。また、今後、1年以内(平成28年12月まで)にあらためて実施しようと考えている防災対策はありますか。次の中からあてはまるものをB欄にいくつでもお答えください。(M. A.)



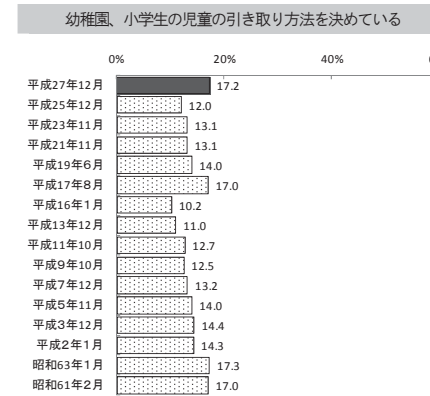
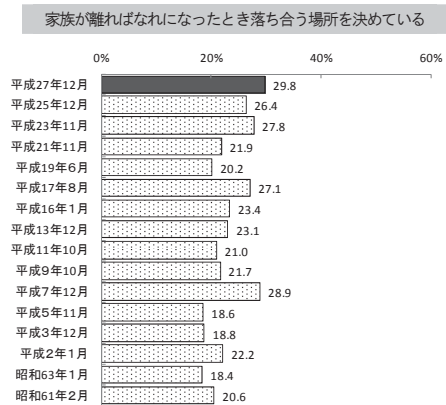
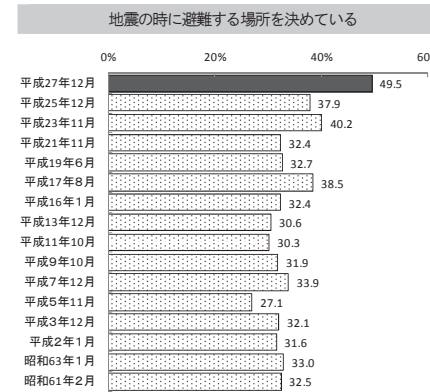
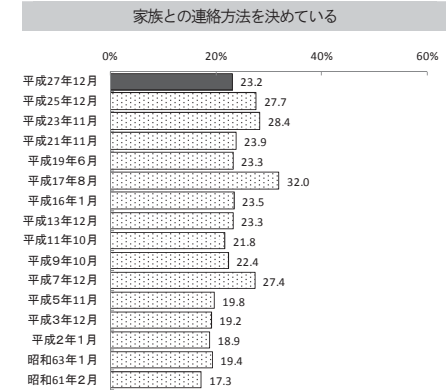
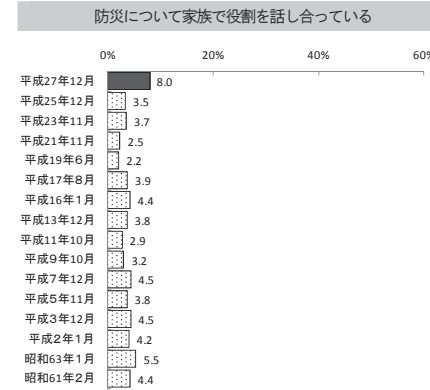
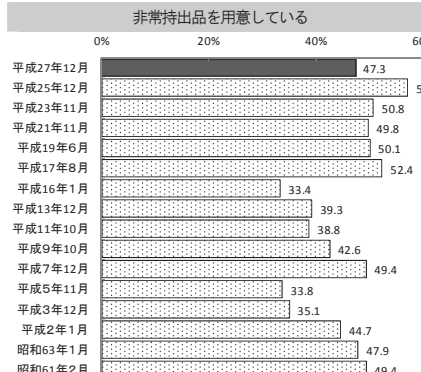
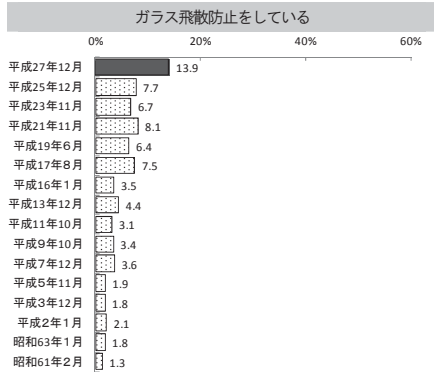
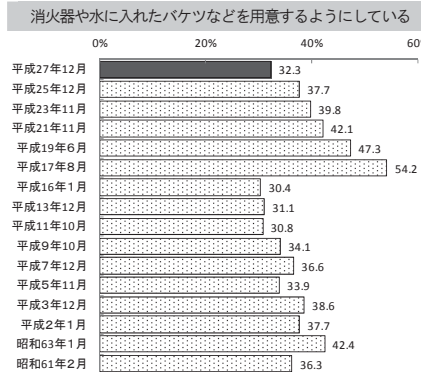
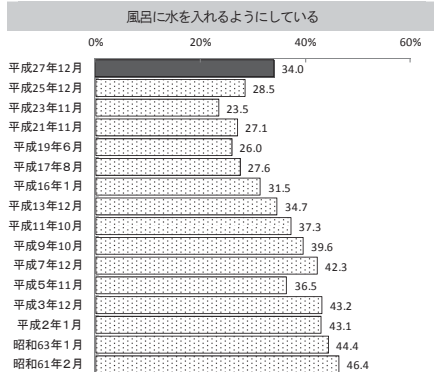
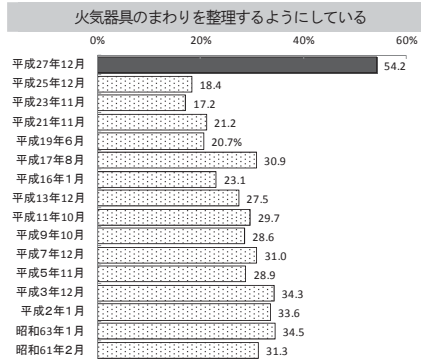
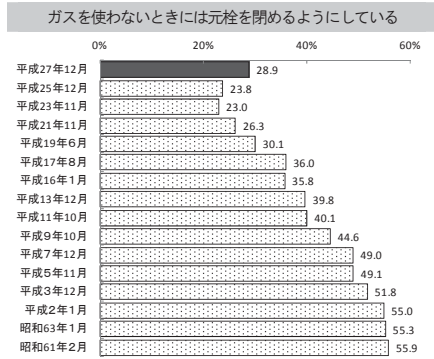
南海トラフ地震(東海地震)に備えて行っている防災対策についてたずねたところ、実施していることは「石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにしている」(55.7%)が最も高く、次いで「火気器具のまわりを整理するようにしている」(54.2%)、「地震の時に避難する場所を決めている」(49.5%)の順となっている。

平成28年12月までに実施する予定は、「家族との連絡方法を決めている」(25.2%)が最も高く、次いで「家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めている」(23.9%)、「非常持出品を用意している」(20.7%)、「防災についての家族の役割を話し合っている」(20.0%)の順となっている。

「実施している」と「平成28年12月までに実施する予定」の数字を合わせた項目では、「非常持ち出し品を用意している」(68.0%)、「地震の時に避難する場所を決めている」(61.8%)、「火気器具のまわりを整理するようにしている」(60.5%)の3項目が6割を超えている。

経年比較でみると、「火気器具のまわりを整理するようにしている」が今回調査（54.2%）は平成25年12月の前回調査（18.4%）に比べて35.8ポイント高くなっている。

大規模地震に備えての防災対策 <経年比較>



経年比較でみると、日常面での備えの上位1位「石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにしている」は、今回調査（55.7%）が前回調査（31.2%）より24.5ポイント上昇している。また、上位2位「火気器具のまわりを整理するようにしている」は、今回調査（54.2%）が前回調査（18.4%）より35.8ポイント上昇している。3位「非常持出品を用意している」は、今回調査（47.3%）が前回調査（57.2%）より9.9ポイント低下している。

行動面での備えは、上位4項目ともに前回調査と比べてポイント上昇の傾向となっているが、5位「家族との連絡方法を決めている」は今回調査（23.2%）が前回調査（27.7%）より4.5ポイント低下している。

日常面での備え 上位5位（平成25年）＜経年比較＞

上位5位	平成27年 12月	前同月	平成25年 12月	平成23年 11月	平成21年 11月	平成19年 6月	平成17年 6月	平成16年 7月	平成13年 12月	平成11年 10月	平成9年 10月	平成7年 12月	平成5年 11月	平成3年 12月	平成2年 1月	昭和63年 1月	昭和61年 2月
1位 石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにしている	55.7 (24.5)	31.2	10.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2位 火気器具のまわりを整理するようにしている	54.2 (35.8)	18.4	17.2	21.2	20.7	30.9	23.1	27.5	29.7	28.6	31.0	28.9	34.3	33.6	34.5	31.3	
3位 非常持出品を用意している	47.3 (-9.9)	57.2	50.8	49.8	50.1	52.4	33.4	39.3	38.8	42.6	49.4	33.8	35.1	44.7	47.9	49.4	
4位 割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意している	39.9 (8.7)	31.2	21.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5位 棚の上の重いものをおろしている	35.4 (11.6)	23.8	20.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

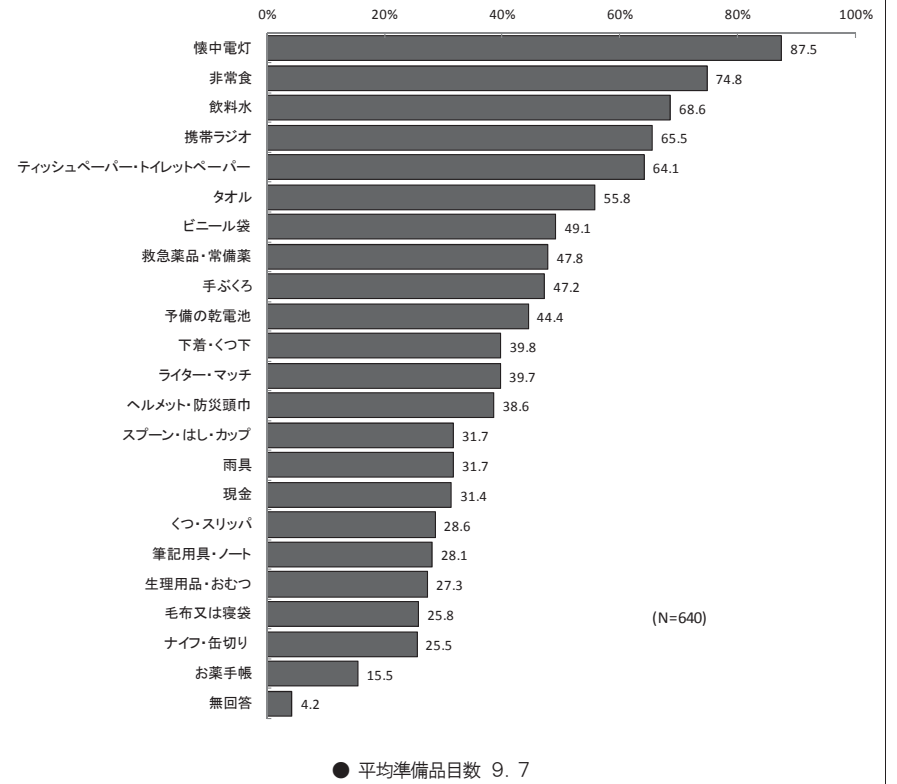
行動面での備え 上位5位（平成25年）＜経年比較＞

上位5位	平成27年 12月	前同月	平成25年 12月	平成23年 11月	平成21年 11月	平成19年 6月	平成17年 6月	平成16年 7月	平成13年 12月	平成11年 10月	平成9年 10月	平成7年 12月	平成5年 11月	平成3年 12月	平成2年 1月	昭和63年 1月	昭和61年 2月
1位 地震の時に避難する場所を決めている	49.5 (11.8)	37.9	40.2	32.4	32.7	38.5	32.4	30.6	30.3	31.9	33.9	27.1	32.1	31.6	33.0	32.5	
2位 家具が寝ればなれになったとき落ち合う場所を決めている	29.8 (3.4)	26.4	27.8	21.9	20.2	27.1	23.4	23.1	21.0	21.7	28.9	18.6	18.8	22.2	18.4	20.6	
3位 自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認している	28.7 (9.5)	19.2	14.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4位 家の中で「とっさ」に逃げる場所を決めている	27.4 (3.3)	24.1	19.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5位 家族との連絡方法を決めている	23.2 (-4.5)	27.7	28.4	23.9	23.3	32.0	23.5	23.3	21.8	22.4	27.4	19.8	19.2	18.9	19.4	17.3	

※「石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにしている」、「割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意している」、「棚の上の重いものをおろしている」、「自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認している」、「家の中で「とっさ」に逃げる場所を決めている」の5項目は平成27年度に設定した。

＜問13で「8 非常持出品を用意している」を選んだ方にお伺いします。＞

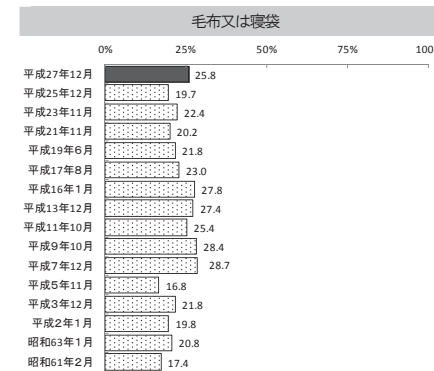
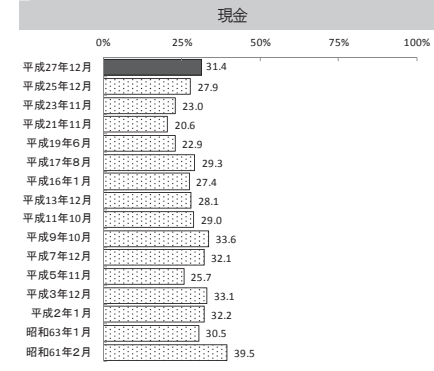
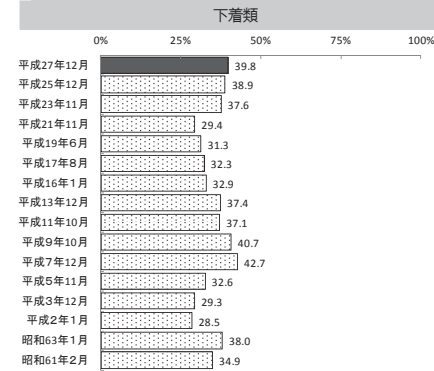
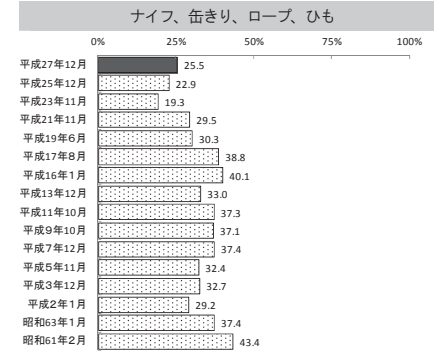
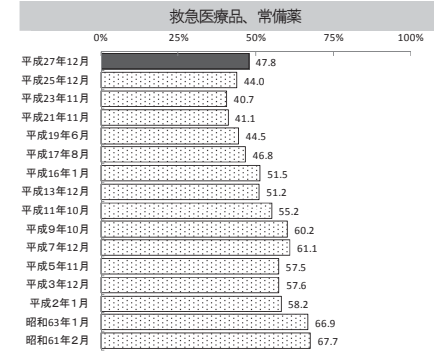
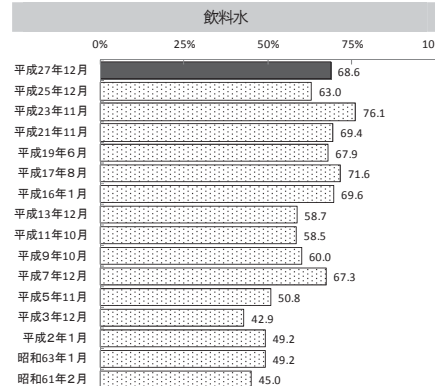
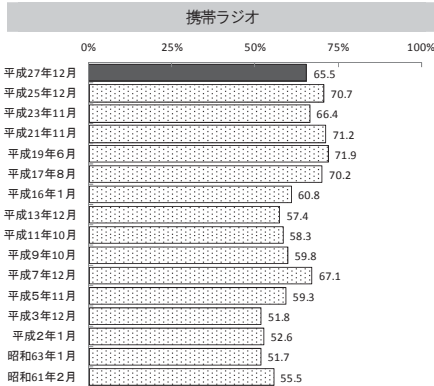
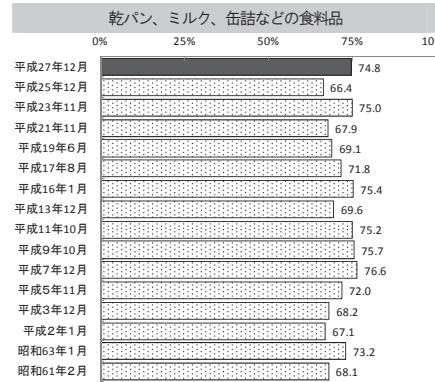
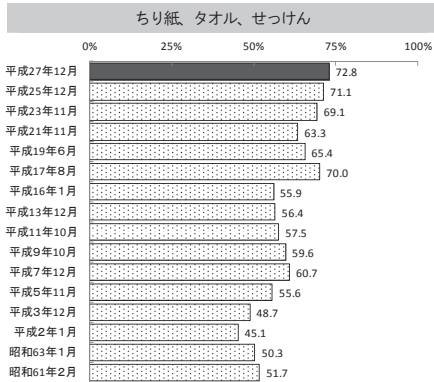
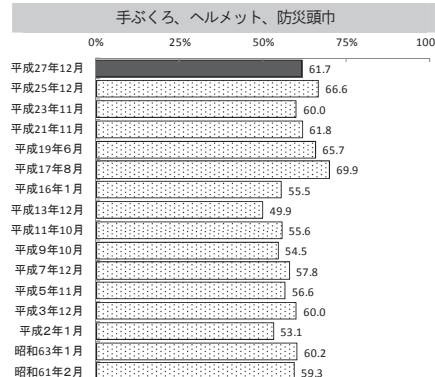
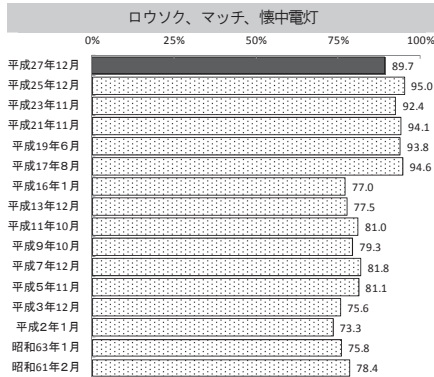
問13-1 非常持出品として何をを用意している、もしくは用意する予定ですか。（M. A.）



問13で「非常持出品を用意している」と回答した人に何をを用意しているかをたずねたところ、「懐中電灯」（87.5%）が最も高く、次いで「非常食」（74.8%）、「飲料水」（68.6%）、「携帯ラジオ」（65.5%）、「ティッシュペーパー・トイレットペーパー」（64.1%）の順となっている。

用意している非常持出品を経年比較みると、今回調査では「ロウソク、マッチ、懐中電灯」（89.7%）、「手ぶくろ、ヘルメット、防災頭巾」（61.7%）、「携帯ラジオ」（65.5%）、「前回調査より低くなっている。

用意している非常持出品 <経年比較>

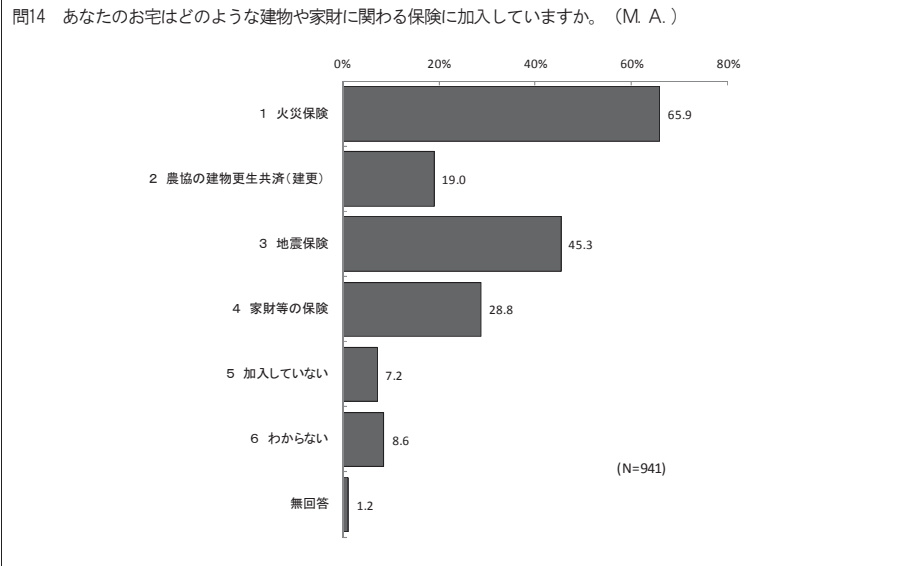


平均準備品目数
経年比較

平成27年12月	9.7	(22項目中)
平成25年12月	9.9	(23項目中)
平成23年11月	9.6	(23項目中)
平成21年11月	9.3	(23項目中)
平成19年6月	9.5	(23項目中)
平成17年8月	10.1	(23項目中)
平成16年1月	6.2	(14項目中)
平成13年12月	6.0	(14項目中)
平成11年10月	6.2	(14項目中)
平成9年10月	6.4	(14項目中)
平成7年12月	6.6	(13項目中)
平成5年11月	5.9	(13項目中)
平成3年12月	5.7	(12項目中)
平成2年1月	5.5	(12項目中)
昭和63年1月	6.0	(12項目中)
昭和61年2月	6.2	(12項目中)

※経年比較については、質問項目が追加されているため、複数の質問項目を集約して割合を算出しているものがある。

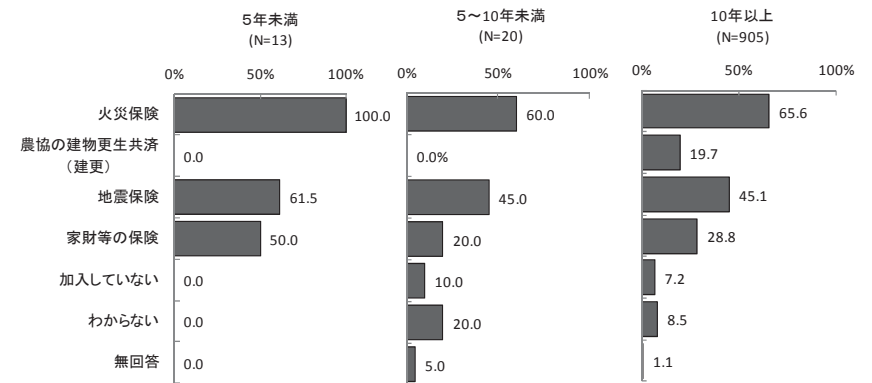
2-7 建物や家財に関わる保険加入状況について



建物や家財に関わる保険の加入についてたずねたところ、「火災保険」(65.9%)が最も高く、次いで「地震保険」(45.3%)、「家財等の保険」(28.8%)の順となっている。

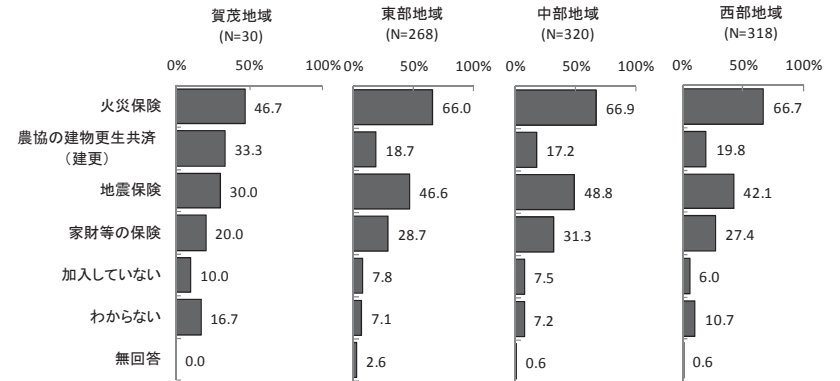
保険加入 <居住年数別>

指定避難地の認知について居住年数別で見ると、いずれも火災保険が『5年未満』(100.0%)が最も高く、「地震保険」も『5年未満』(61.5%)が最も高くなっている。



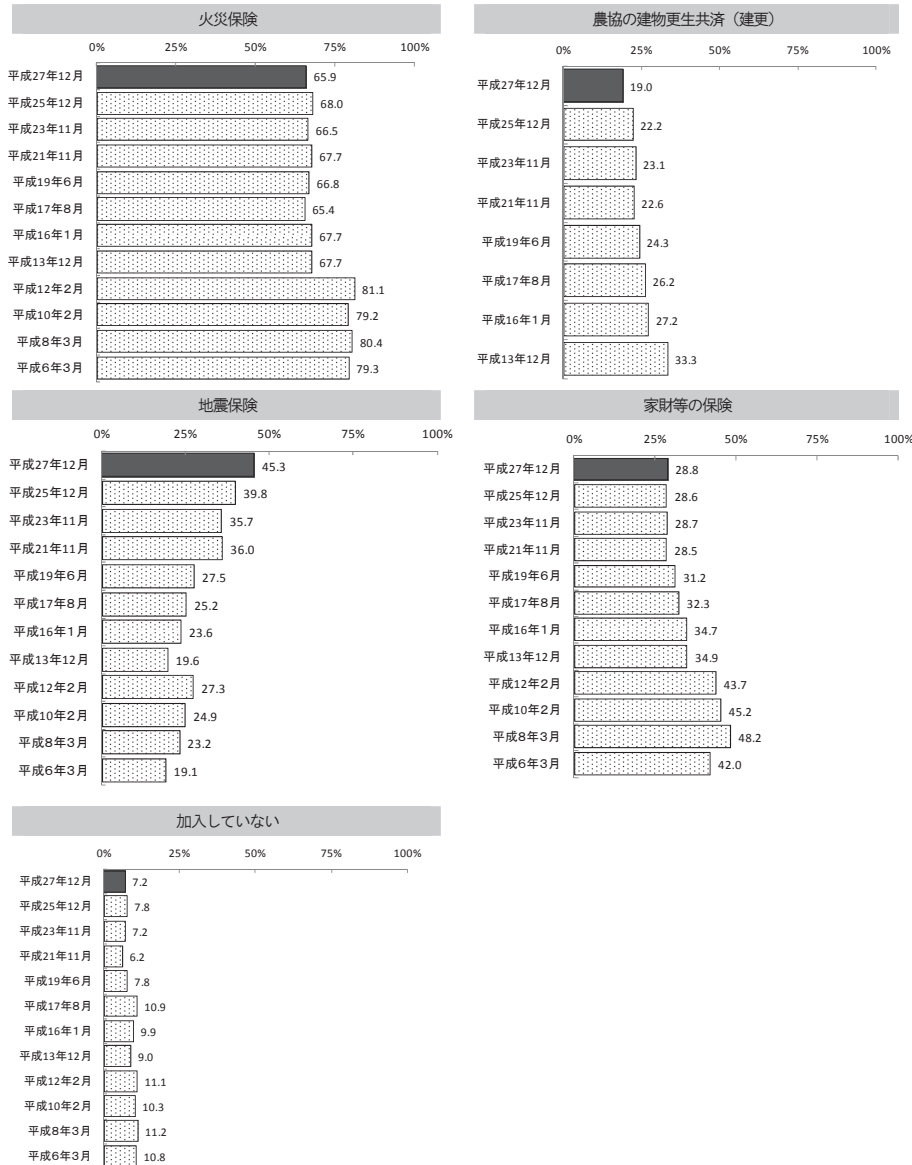
保険加入 <地域別>

地域別で見ると、『賀茂』の「農協の建物更生共済(建更)」(33.3%)が最も高くなっているが、逆に「火災保険」は『賀茂』(46.7%)が最も低くなっている。



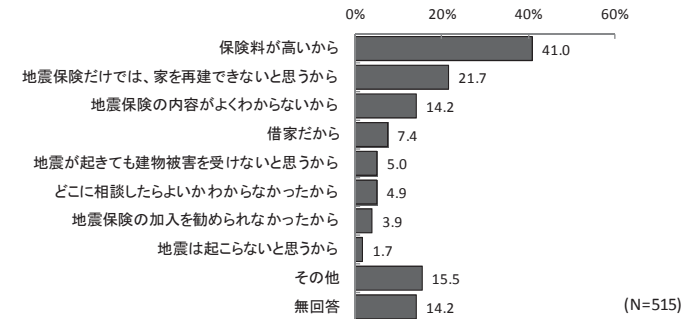
経年比較でみると、今回調査では「地震保険」(45.3%)が前回調査より5.5ポイント上昇し、「農協の建物更生共済(建更)」(19.0%)が前回調査より3.2ポイント減少している。

保険加入 <経年比較>



<問14で「3 地震保険」を選ばなかった方にお伺いします。>

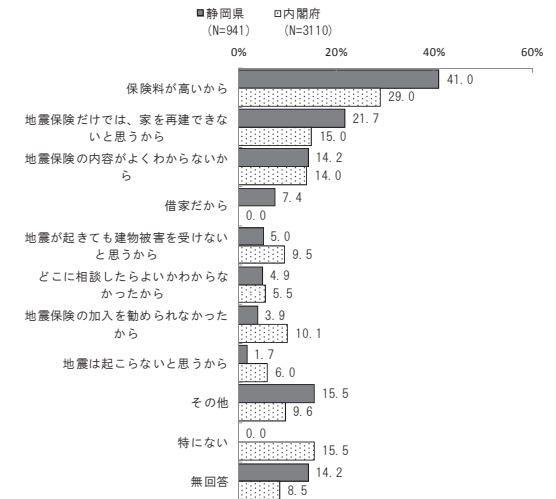
問14-1 地震保険に加入していない理由は何ですか。(M.A.)【新規設問】



地震保険に加入していない理由についてたずねたところ、「保険料が高いから」(41.0%)が最も高く、次いで「地震保険だけでは、家を再建できないと思うから」(21.7%)、「地震保険の内容がよくわからないから」(14.2%)の順となっている。

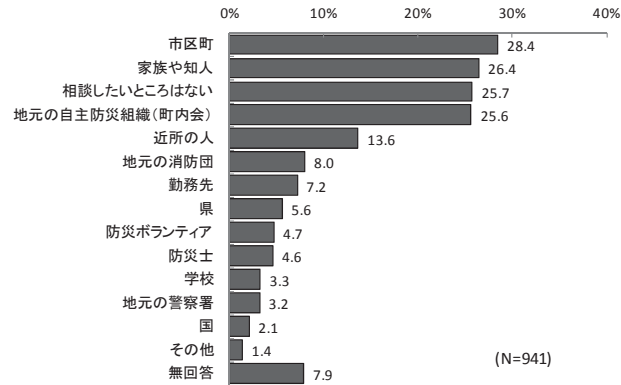
地震保険加入 <内閣府調査との比較>

内閣府調査との比較でみると、「保険料が高いから」が41.0%と『内閣府』(29.0%)より12.0ポイント下回っている。



2-8 災害対策の検討に相談したい人や組織【新規設問】

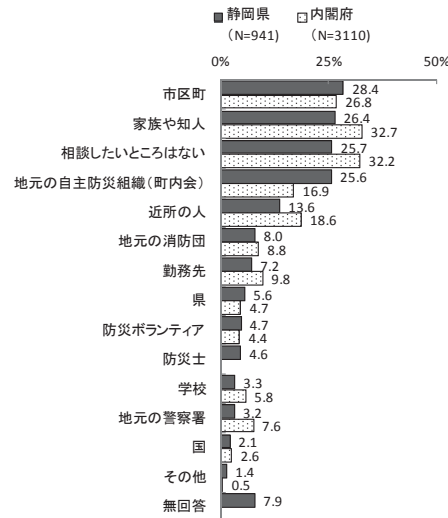
問15 あなたは、日常において災害対策を検討するにあたり具体的に相談したいところはありますか。(M. A.)



対策相談先についてたずねたところ、「市区町」(28.4%)が最も高く、次いで「家族や知人」(26.4%)、「相談したいところはない」(25.7%)の順となっている。

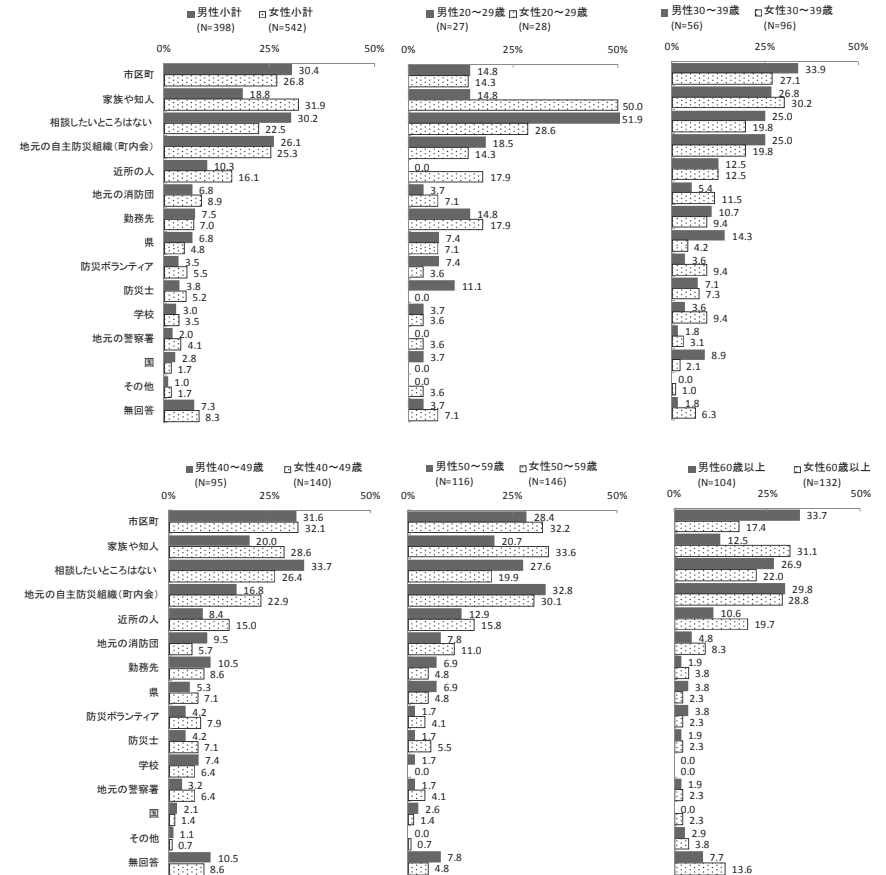
対策相談先 <内閣府調査との比較>

内閣府調査との比較でみると、「地元の自主防災組織(町内会)」は25.6%と、『内閣府』(16.9%)より8.7ポイント上回っている。一方「家族や知人」は26.7%と、『内閣府』(32.7%)より6ポイント、「近所の人」は13.6%と、『内閣府』(18.6%)より5ポイント、「相談したいところはない」は25.7%と、『内閣府』(32.2%)より6.5ポイント下回っている。



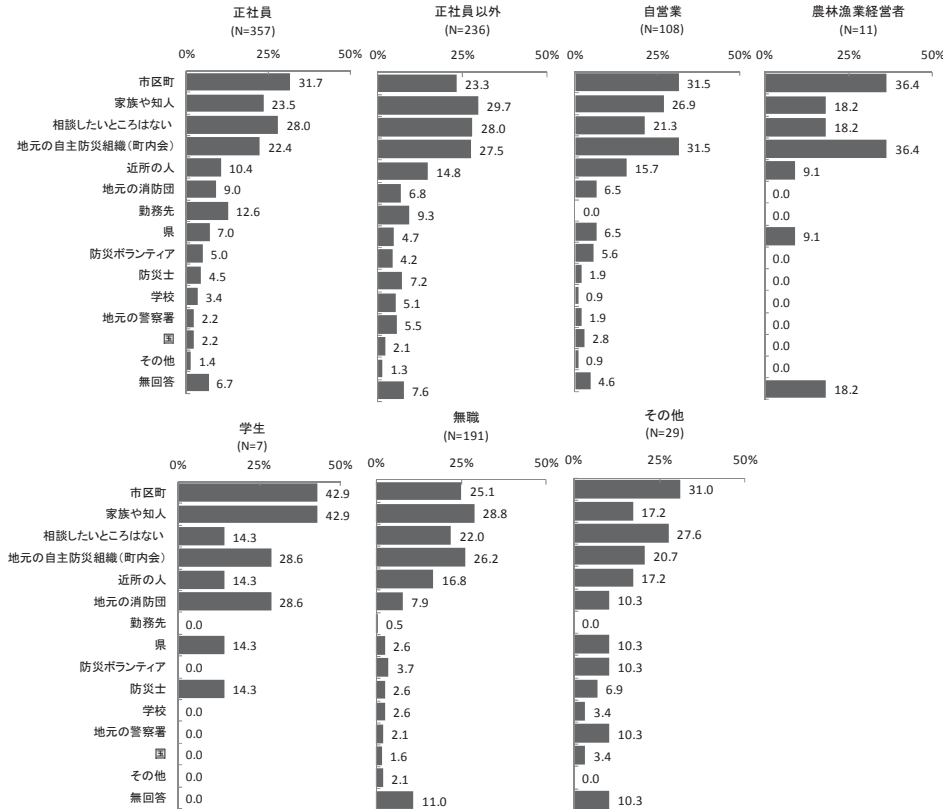
対策相談先を性・年代別でみると、「家族や知人」は『女性』(31.9%)が『男性』(18.8%)より13.1ポイント高くなっている。特に『女性20代』(50.0%)は『男性20代』(14.8%)より35.2ポイント高くなっており、次いで『女性50代』(33.6%)が『男性50代』(20.7%)より12.9ポイント、「『女性40代』(28.6%)が『男性40代』(20.0%)より8.5ポイント高くなっている。一方「市区町」は『女性60代』(17.4%)が『男性60代』(33.7%)より16.3ポイント下回っている。「近所の人」は『男性20代』(0.0%)が最も少ない。

対策相談先<性・年代別>



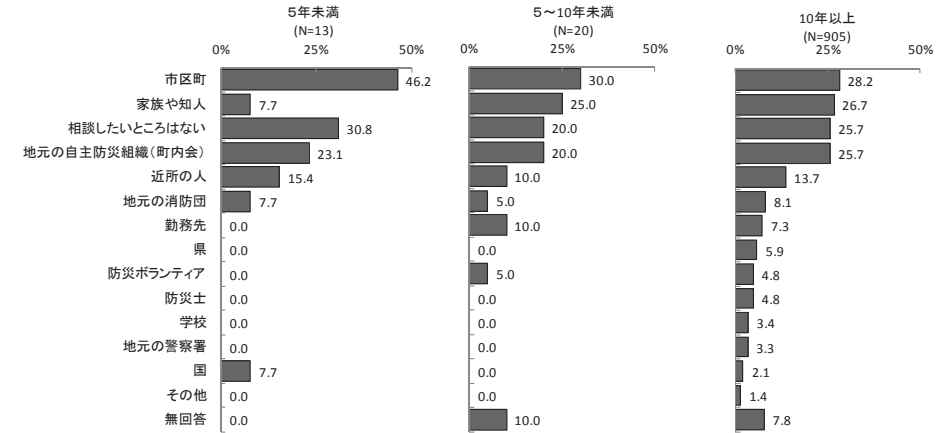
職業別で見ると、「地元の自主防災組織（町内会）」は『農林漁業経営者』（36.4%）が最も高く、次いで『自営業』（31.5%）となっている。「勤務先」は『正社員』（12.6%）が最も高く、次いで『正社員以外』（9.3%）となっている。「相談したいところはない」は『正社員』（28.0%）が高くなっている。

対策相談先<職業別>



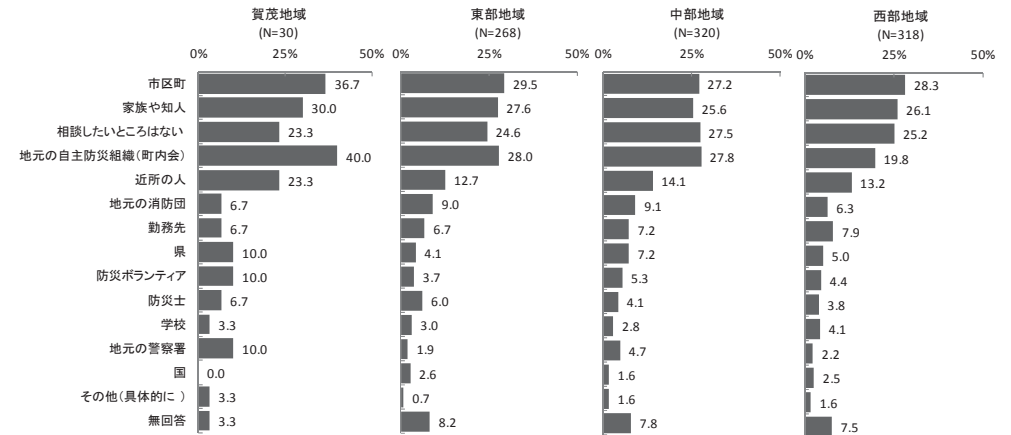
居住年数別で見ると、『10年以上』は「市区町」、「家族や知人」、「相談したいところはない」、「地元の自主防災組織（町内会）」をはじめ、様々な機関と相談すると回答している。

対策相談先<居住年数別>

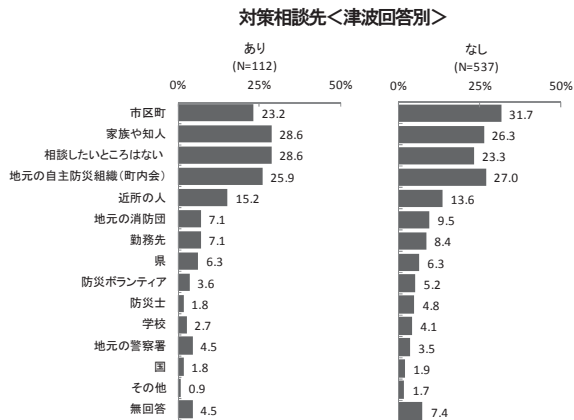


地域別で見ると、「市区町」は『賀茂』（36.7%）が最も高くなっている。また、「地元の自主防災組織（町内会）」も『賀茂』（40.0%）が最も高くなっており、次いで『東部』（28.0%）、『中部』（27.8%）、『西部』（19.8%）となっている。最も低い『西部』（19.8%）とは20.2ポイントの差が見られる。

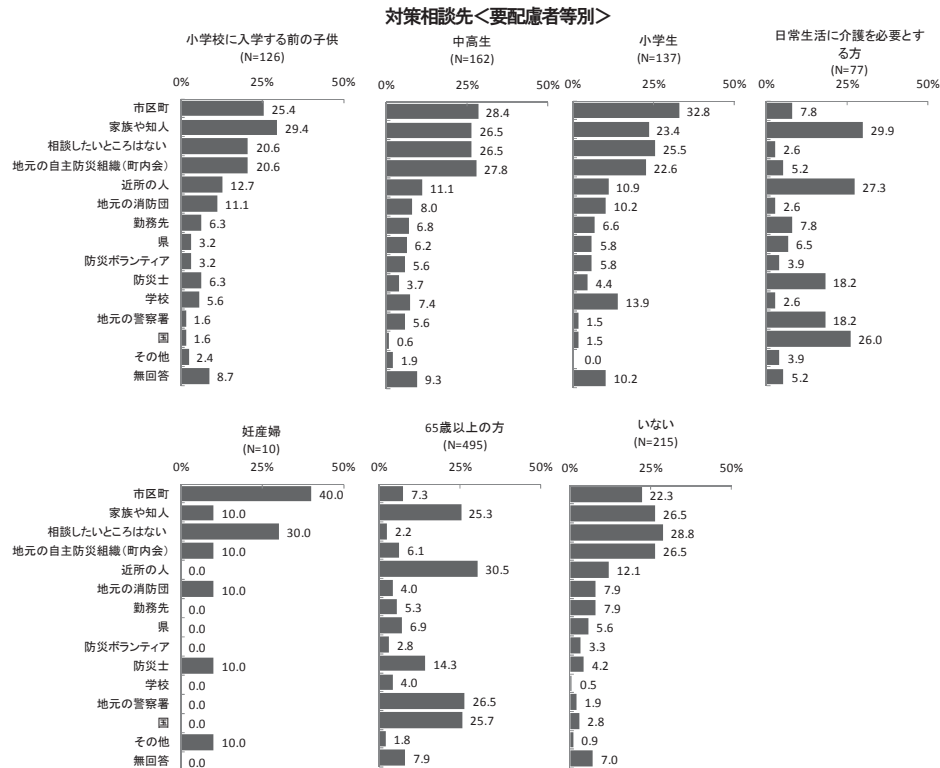
対策相談先<地域別>



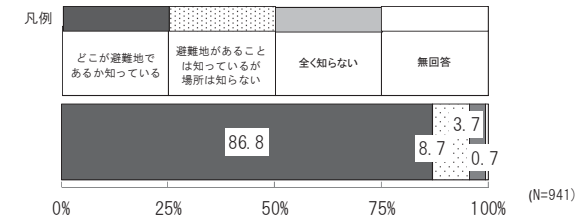
津波回答別で見ると、『津波回答あり』(23.2%)の「市区町」は『津波回答なし』(31.7%)より8.5ポイント下回っている。



要配慮者等別で見ると、「家族や知人」と「近所の人」、「防災士」、「地元の警察署」、「国」は『日常生活に介護を必要とする方』のいる世帯、『65歳以上の方』のいる世帯で特に高いという傾向が見られる。

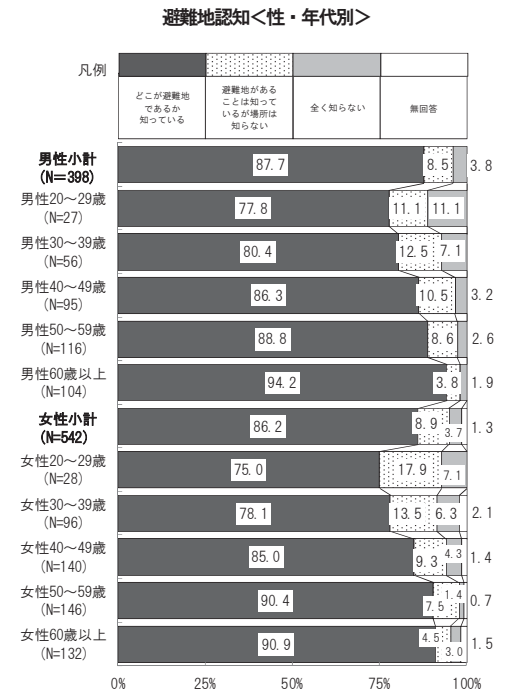


問16 東海地震が予知され警戒宣言が発せられたときや、突然、南海トラフ地震(東海地震)が起きたときの避難のため、市町はあらかじめ避難地を指定していますが、あなたの住む地域の避難地をご存知ですか。



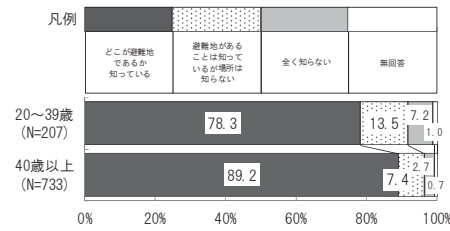
市町の指定避難地の認知についてたずねたところ、「どこが避難地であるか知っている」(86.8%)が最も高く、次いで「避難地があることは知っているが場所は知らない」(8.7%)、「全く知らない」(3.7%)の順となっている。

性・年代別で見ると、「どこが避難地であるか知っている」は『男性60代以上』(94.2%)が最も高くなっている。最も低い『女性20代』(75.0%)では19.2ポイントの差が見られる。



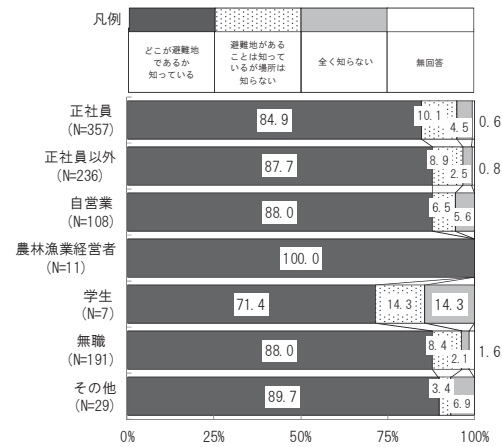
年代別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は『40歳以上』(89.2%)、『20～39歳』(78.3%)と『40歳以上』が10.9ポイント上回っており、誤差を考慮しても『40歳以上』の「どこが避難地であるか知っている」が高くなっているといえる。

避難地認知<年代別>



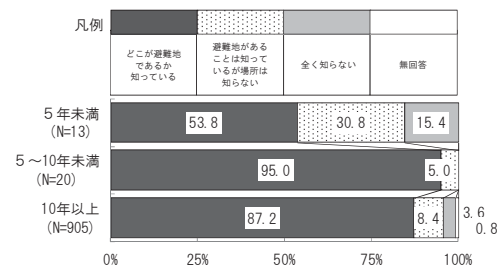
職業別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は『農林漁業経営者』(100%)が高くなっている。最も低い『学生』(71.4%)では28.6ポイントの差が見られる。

避難地認知<職業別>



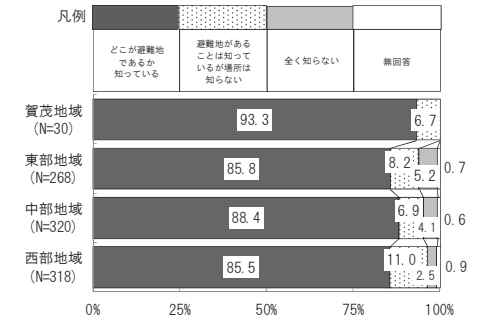
居住年数別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は『5～10年未満』(95.0%)が高くなっている。最も低い『5年未満』(53.8%)では41.2ポイントの差が見られる。

避難地認知<居住年数別>



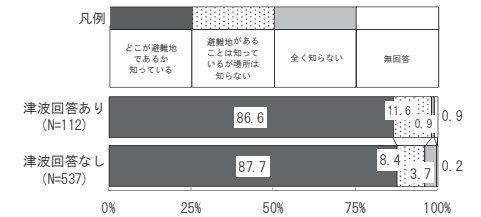
地域別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は『賀茂』(93.3%)が高くなっている。最も低い『西部』(85.5%)では7.8ポイントの差が見られる。

避難地認知<地域別>



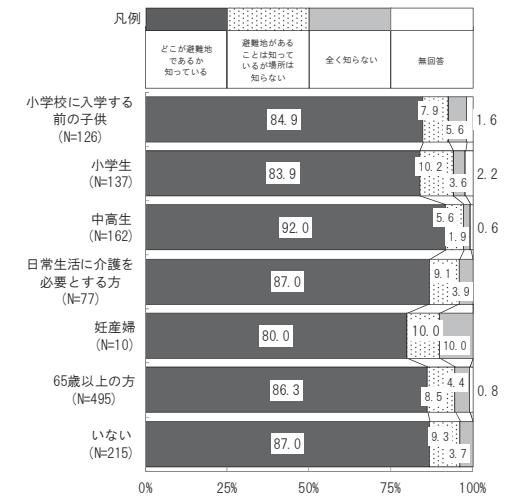
津波回答別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は『津波回答あり』(86.6%)と『津波回答なし』(87.7%)では1.1ポイントの差が見られる。

避難地認知<津波回答別>



要配慮者等別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は『中学生』のいる世帯(92.0%)のいる世帯が最も高く、次いで『日常生活に介護を必要とする方』のいる世帯(87.0%)、『65歳以上の方』のいる世帯(86.3%)となっている。

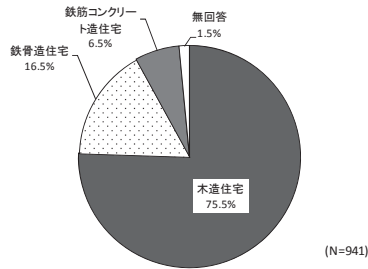
避難地認知<要配慮者等別>



3 住宅の耐震補強について

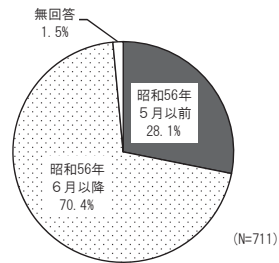
3-1 家屋の構造と耐震診断

問17 あなたのお住まいの家は、次のどれにあたりますか。



<問17で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺いします。>

問17-1 あなたのお住まいの「木造住宅」は、いつ建てられた住宅ですか。

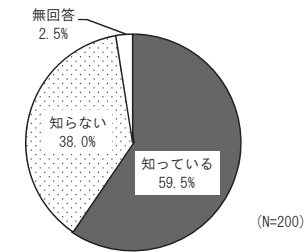


家屋の構造をたずねたところ、「木造住宅」(75.5%)が最も高く、次いで「鉄骨造住宅」(16.5%)、「鉄筋コンクリート造住宅」(6.5%)の順となっている。

問17で「木造住宅」と回答した人の時期についてたずねたところ、建築基準法が改正された『昭和56年6月以降』(70.4%)が7割を超えている。

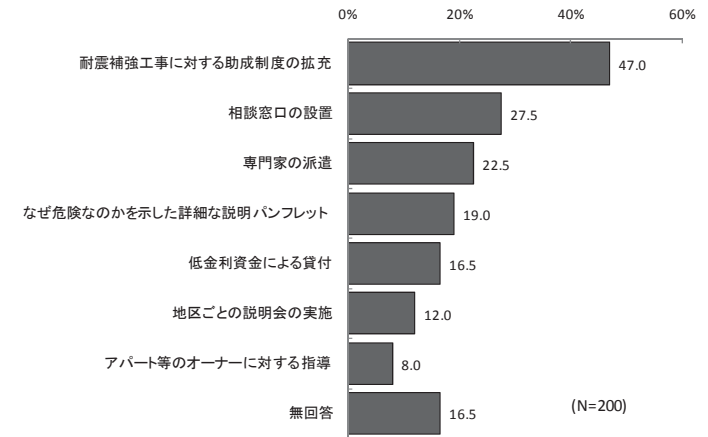
<問17-1で「1 昭和56年5月以前」を選んだ方にお伺いします。>

問17-2 市町では、昭和56年5月以前に建てられた木造住宅の耐震診断を無料で実施していることを知っていますか。



<問17-1で「1 昭和56年5月以前」を選んだ方にお伺いします。>

問17-3 今後、あなたのお住まいの家の耐震化をする場合、県や市町に対して要望することがあります。次の中からあてはまるものをお選びください。(M. A.)



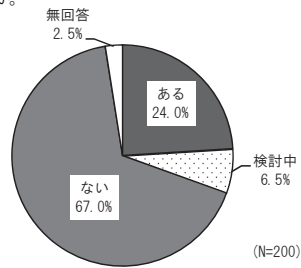
市町で昭和56年5月以前に建てられた木造住宅の耐震診断を無料で実施していることを知っているかたずねたところ、『知っている』(59.5%)が6割近くとなっている。

また、耐震化について県や市町に対して要望することがありますかをたずねたところ、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」(47.0%)、次いで「相談窓口の設置」(27.5%)、「専門家の派遣」(22.5%)の順となっている。

3-2 プロジェクト“TOUKAI-0”の認知

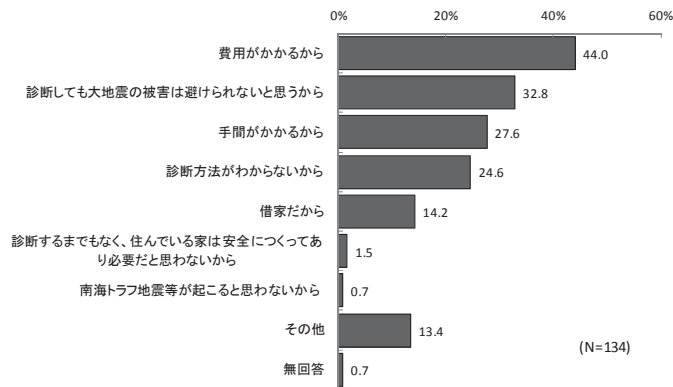
<問17-1で「1 昭和56年5月以前」を選んだ方にお伺いします。>

問17-4 耐震診断をしたことがありますか。



<問17-4で「3 ない」を選んだ方にお伺いします。>

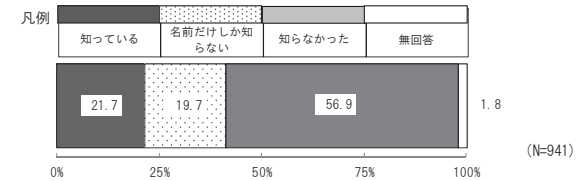
問17-5 耐震診断をしないのはなぜですか。(M. A.)



昭和56年5月以前に建てられた木造住宅に住んでいる方に耐震診断の有無についてたずねたところ、耐震診断したことが「ない」(67.0%)が最も多く、次いで「ある」(24.0%)、「検討中」(6.5%)の順となっており、耐震診断したことが「ない」という人が6割を超えている。

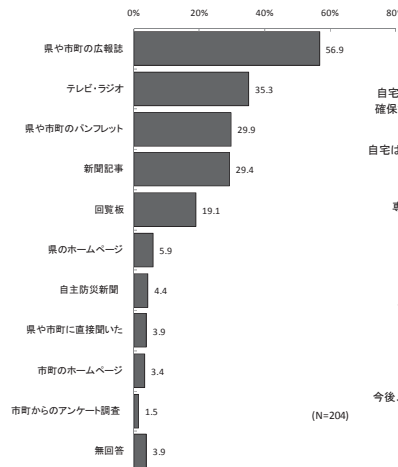
問17-4で耐震診断をしたことが「ない」と回答した人に耐震診断をしない理由をたずねたところ、「費用がかかるから」(44.0%)が最も高く、次いで「診断しても大地震の被害は避けられないと思うから」(32.8%)、「手間がかかるから」(27.6%)の順となっている。

問18 現在、静岡県では木造住宅の耐震化促進事業『プロジェクト“TOUKAI(東海・倒壊)ー0(ゼロ)”』を推進しています。この事業の内容は、①専門家による無料耐震診断 ②耐震補強計画策定への補助 ③耐震補強工事への補助の3つの項目からなっています。あなたは、このことをご存知ですか。



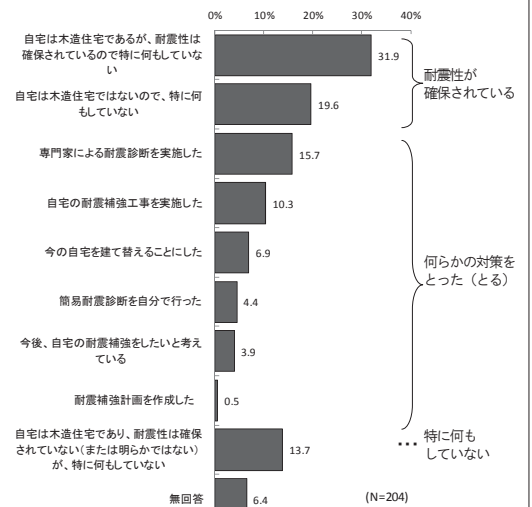
<問18で「1 知っている」「2 名前だけしか知らない」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問18-1 あなたは『プロジェクト“TOUKAI(東海・倒壊)ー0(ゼロ)”』をどのようにして知りましたか。(M. A.)



<問18で「1 知っている」「2 名前だけしか知らない」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問18-2 あなたは『プロジェクト“TOUKAI(東海・倒壊)ー0(ゼロ)”』を知って、何か行った行動(現在行っている場合を含む)はありますか。次の中からあてはまるものをお選びください。(M. A.)



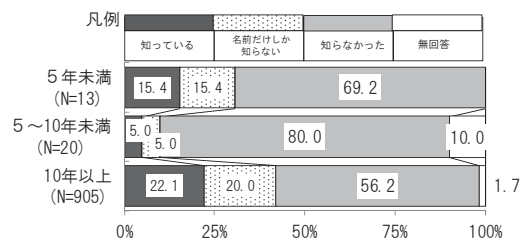
『プロジェクト「TOUKAI（東海・倒壊）ー0（ゼロ）」の認知についてたずねたところ、「知らなかった」(56.9%)が最も高く、次いで「知っている」(21.7%)、「名前だけしか知らない」(19.7%)となっている。

ある程度内容を理解している人（「知っている」）の認知方法については、「県や市町の広報誌」(56.9%)が最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」(35.3%)と「県や市民のパンフレット」(29.9%)、「新聞記事」(29.4%)の順となっている。

また、認知後の行動についてたずねたところ、「自宅は木造住宅であるが、耐震性は確保されているので特に何もしていない」(31.9%)が最も高く、次いで「自宅は木造住宅ではないので、特に何もしていない」(19.6%)、「専門家による耐震診断を実施した」(15.7%)の順となっている。具体的に取った行動としては、「専門家による耐震診断を実施した」(15.7%)が高くなっている。

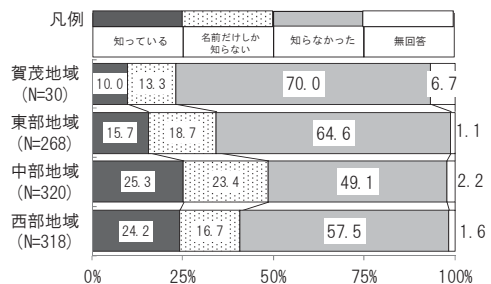
プロジェクト「TOUKAIー0」の認知率
＜居住年数別＞

居住年数別で見ると、知っている人（「知っている」＋「名前だけしか知らない」）は、『10年以上』(42.1%)が最も高く、最も低い『5～10年未満』(10.0%)とは32.1ポイントの差が見られる。



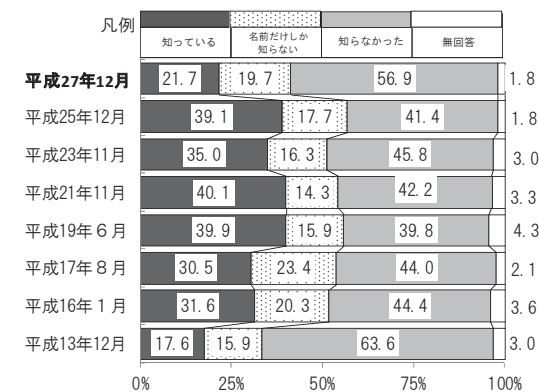
プロジェクト「TOUKAIー0」の認知率
＜地域別＞

地域別で見ると、知っている人（「知っている」＋「名前だけしか知らない」）は、『中部』(48.7%)が最も高く、最も低い『賀茂』(23.3%)とは25.4ポイントの差が見られる。



経年比較で見ると、知っている人（「知っている」＋「名前だけしか知らない」）は、今回調査(41.4%)では前回調査(56.8%)より15.4ポイント減少している。

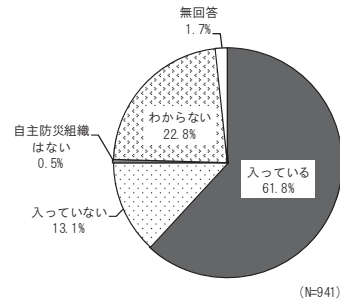
プロジェクト「TOUKAIー0」の認知率
＜経年比較＞



4 自主防災組織・防災訓練について

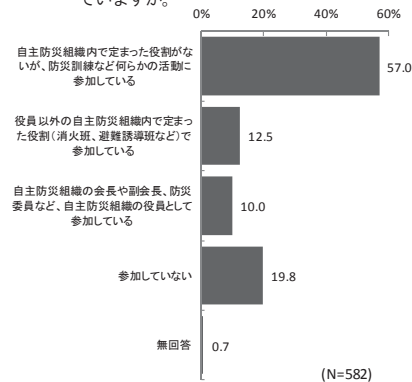
4-1 自主防災組織への加入と活動状況

問19 あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。



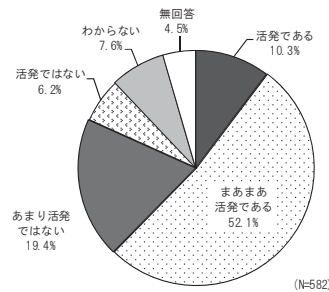
<問19で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。>

問19-1 あなた自身は、自主防災組織の活動に参加していますか。



<問19で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。>

問19-2 あなたの地区の自主防災組織の活動は活発だと思いますか。



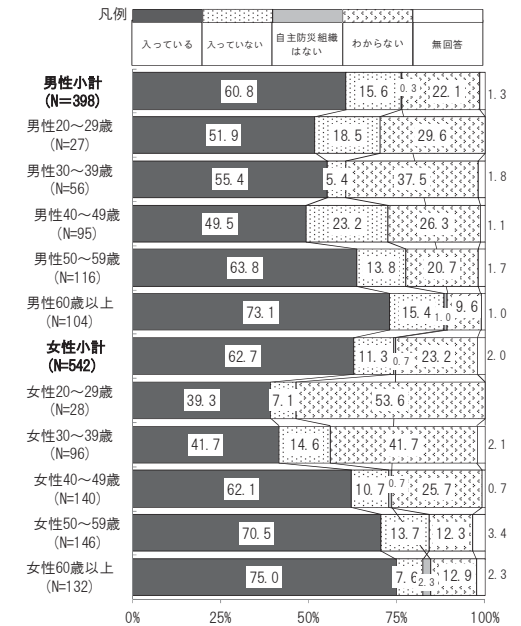
自主防災組織への加入についてたずねたところ、「入っている」(61.8%)が最も高く、次いで「わからない」(22.8%)、「入っていない」(13.1%)、「自主防災組織はない」(0.5%)の順となっている。

また、問19で自主防災組織に「入っている」と回答した人に、自主防災組織の活動に参加しているかたずねたところ、「自主防災組織内で定まった役割がないが、防災訓練など何らかの活動に参加している」(57.0%)が最も高く、次いで「参加していない」(19.8%)、「役員以外の自主防災組織内で定まった役割(消火班、避難誘導班など)で参加している」(12.5%)、「自主防災組織の会長や副会長、防災委員など、自主防災組織の役員として参加している」(10.0%)の順となっている。

さらに、自主防災組織の活動状況についてたずねたところ、「活発である」と「まあまあ活発である」を合わせると62.4%となり、6割程度の人が地区の自主防災組織の活動が活発だと感じている。

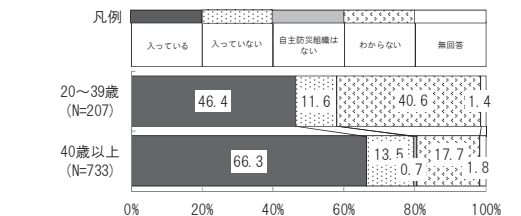
性・年代別で見ると、「入っている」は『女性60代以上』(75.0%)が最も高く、次いで『男性60代以上』(73.1%)、『女性50代』(70.5%)、『男性50代』(63.8%)、『女性40代』(62.1%)の順となっている。また、「わからない」は『女性20代』(53.6%)、『女性30代』(41.7%)、『男性30代』(37.5%)の順となっている。

自主防災組織への加入状況<性・年代別>



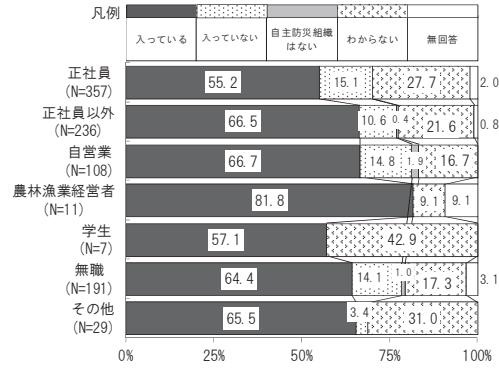
年代別で見ると、「入っている」は『40歳以上』(66.3%)、『20~39歳』(46.4%)と『40歳以上』が19.9ポイント高くなっており、誤差を考慮しても『40歳以上』の「入っている」が高くなっているといえる。

自主防災組織への加入状況<年代別>



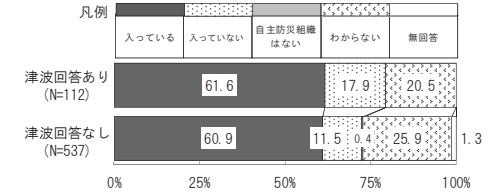
職業別でみると、『農林漁業経営者』(81.8%)
が最も高くなっている。

自主防災組織への加入状況<職業別>



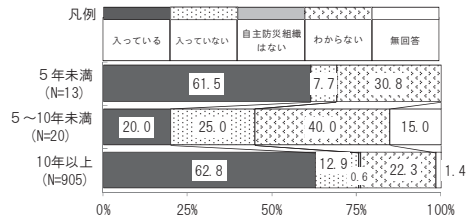
予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の
回答者別でみると、『津波回答あり』(61.6%)、『津波
回答なし』(60.9%) とともに、「入っている」が6割を
超えている。

自主防災組織への加入状況
<予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別>



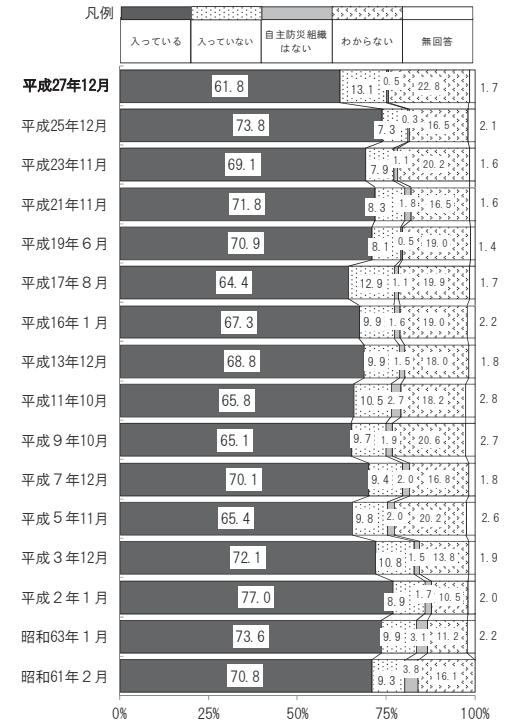
居住年数別でみると、「入っている」は、最も
高い『10年以上』(62.8%)と、最も低い『5~10
年未満』(20.0%)では42.8ポイントの差が見ら
れる。

自主防災組織への加入状況<居住年数別>



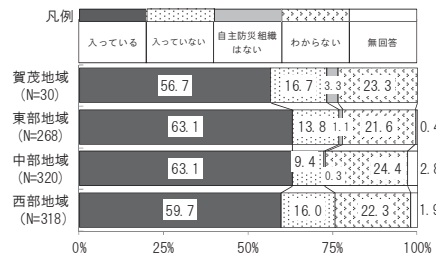
経年比較でみると、平成2年1月の調査で、
「入っている」(77.0%)が最も高くなっており、
以降は7割前後を推移しているが、今回調査
(61.8%)は、前回調査(73.8%)より12ポイント
減少している。

自主防災組織への加入状況 <経年比較>



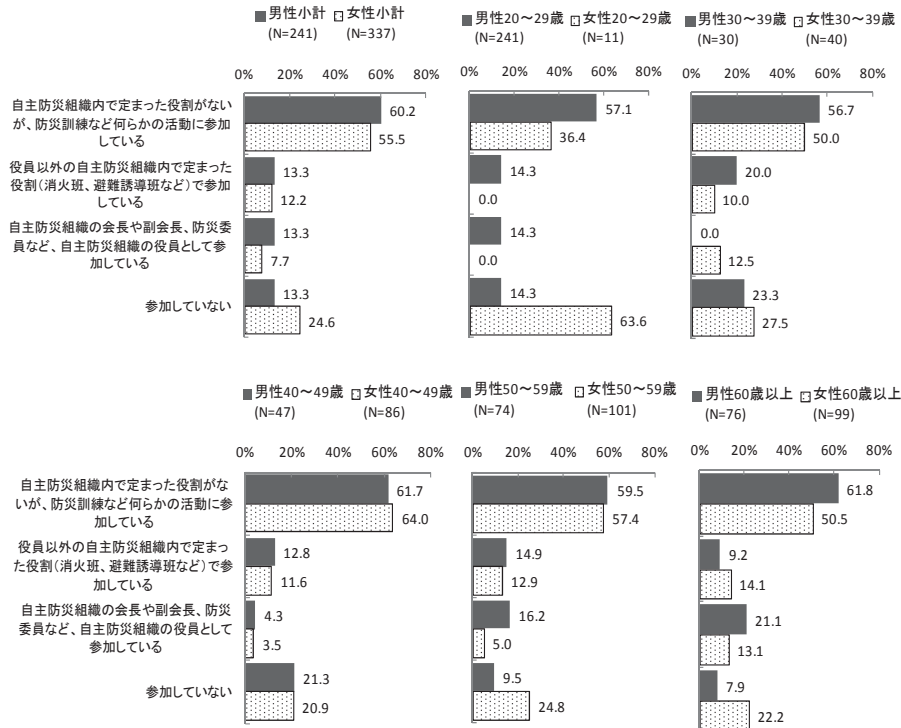
地域別でみると、『東部』(63.1%)、『中部』
(63.1%)が高く、次いで『西部』(59.7%)、
『賀茂』(56.7%)の順となっている。

自主防災組織への加入状況<地域別>



参加している自主防災組織の活動を性・年代別で見ると、「自主防災組織内で定まった役割がないが、防災訓練など何らかの活動に参加している」は、『女性40代』(64.0%)が最も高くなっている。「役員以外の自主防災組織内で定まった役割(消火班、避難誘導班など)で参加している」は、『男性50代』(14.9%)が最も高くなっている。「自主防災組織の会長や副会長、防災委員など、自主防災組織の役員と参加している」は、『男性60代以上』(21.1%)が最も高くなっている。「参加していない」は『女性20代』(63.6%)が最も高くなっている。

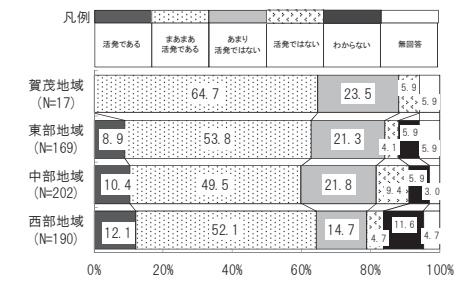
参加している自主防災組織の活動内容 ＜性・年代別＞



◇男女の自主防災組織での活動率◇
男性 86.7%
女性 75.4%

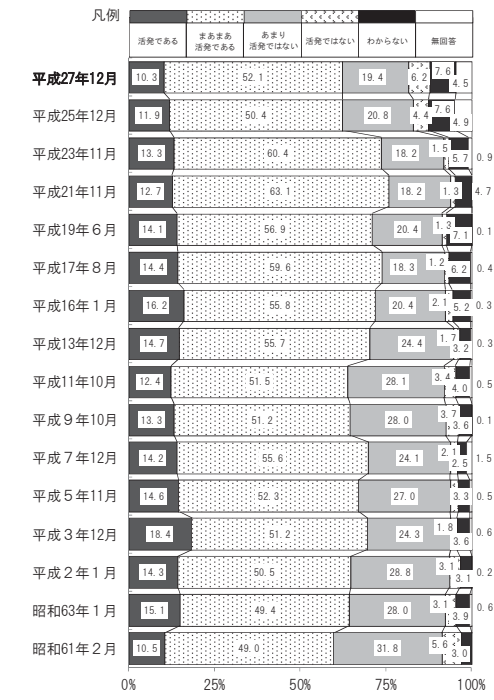
自主防災組織の活動状況を地域別で見ると、「活発である」+「まあまあ活発である」は、『賀茂』(64.7%)が最も高く、次いで『西部』(64.2%)、『東部』(62.7%)、『中部』(59.9%)の順となっている。

自主防災組織の活動状況＜地域別＞



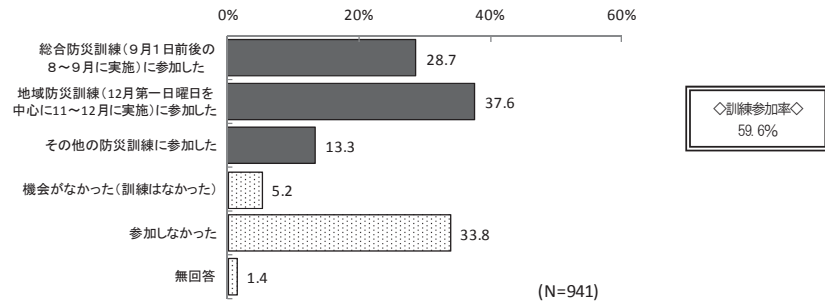
自主防災組織の活動状況を経年比較で見ると、「活発である」+「まあまあ活発である」は、今回調査(62.4%)が、前回調査(62.3%)より0.1ポイント上昇している。

自主防災組織の活動状況＜経年比較＞



4-2 地震防災訓練への参加状況

問20 あなたは、過去1年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。(M. A.)

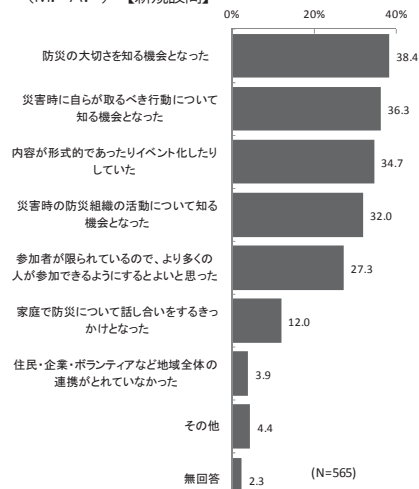
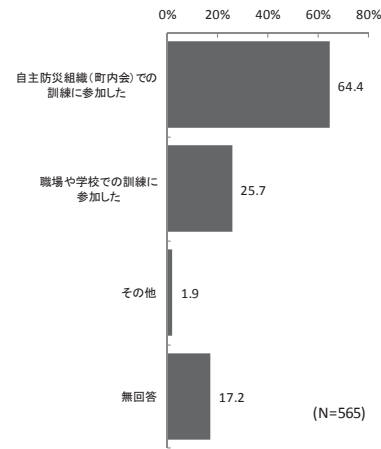


<問20で「1 総合防災訓練(9月1日前後の8~9月に実施)に参加した」「2 地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11~12月に実施)に参加した」「3 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

<問20で「1 総合防災訓練(9月1日前後の8~9月に実施)に参加した」「2 地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11~12月に実施)に参加した」「3 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

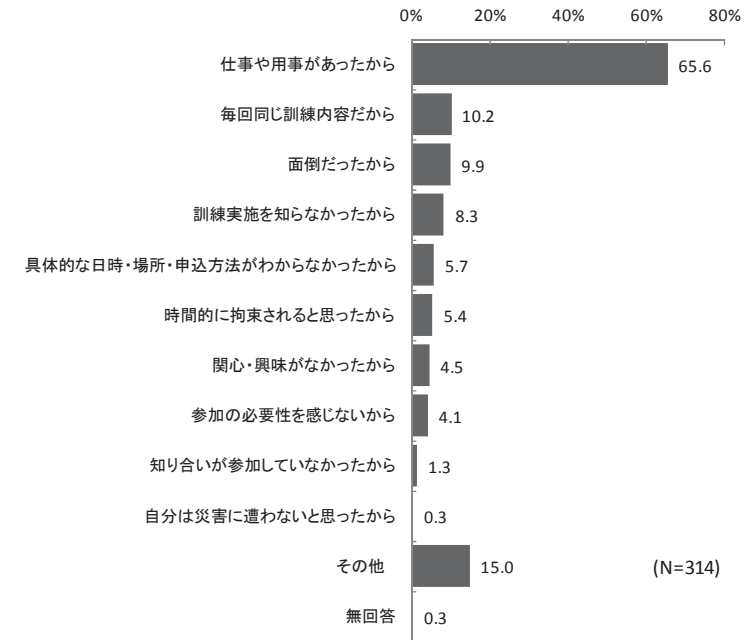
問20-1 その防災訓練はどちらで参加しましたか。(M. A.)

問20-2 参加してみてどのようなことを感じましたか。(M. A.)【新規設問】



<問20で「6 参加しなかった」を選んだ方にお伺いします。>

問20-3 参加しなかった理由は何ですか。(M. A.)



過去1年間の地震防災訓練参加状況についてたずねたところ、「地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11~12月に実施)に参加した」(37.6%)が最も高く、次いで「参加しなかった」(33.8%)、「総合防災訓練(9月1日前後の8~9月に実施)に参加した」(28.7%)、「その他の防災訓練に参加した」(13.3%)、「機会がなかった(訓練はなかった)」(5.2%)の順となっており、いずれかの訓練に参加した人は59.6%となっている。

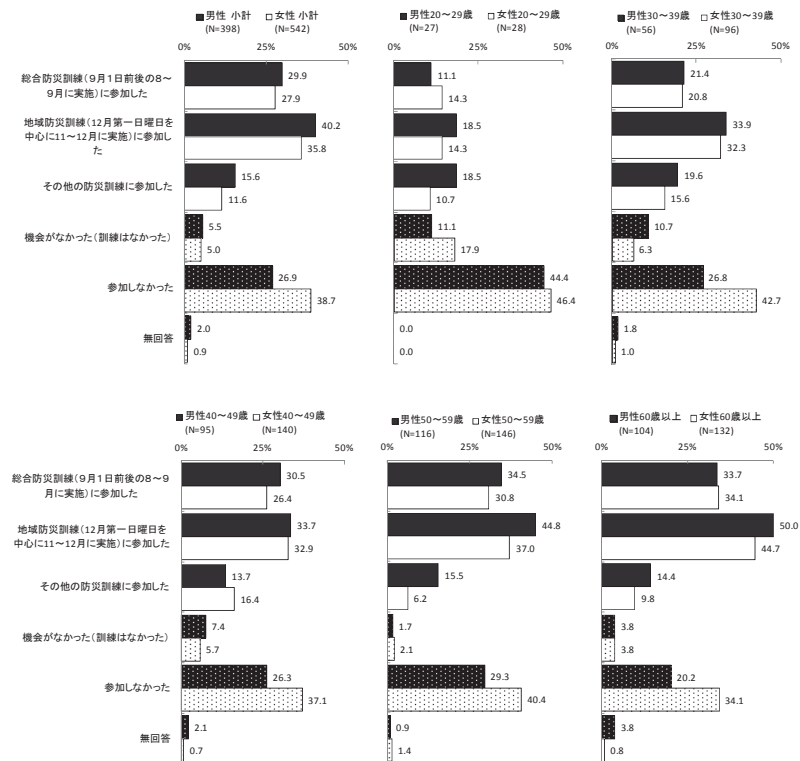
また、問20で地震防災訓練に「参加した」と回答した人の参加形態についてたずねたところ、「自主防災組織(町内会)での訓練に参加した」(64.4%)が最も高く、次いで「職場や学校での訓練に参加した」(25.7%)となっている。

また、参加してみてどのようなことを感じたかをたずねたところ、「防災の大切さを知る機会となった」(38.4%)が最も多く、次いで「災害時に自らが取るべき行動について知る機会となった」(36.3%)「内容が形式的であったりイベント化したりしていた」(34.7%)の順となっている。

一方、問20で地震防災訓練に「参加しなかった」と回答した人の理由は、「仕事や用事があったから」(65.6%)が最も高く、次いで「毎回同じ訓練内容だから」(10.2%)、「面倒だったから」(9.9%)、「訓練実施を知らなかったから」(8.3%)、「具体的な日時・場所・申込方法がわからなかったから」(5.7%)の順となっている。

性・年代別で見ると「地域防災訓練（12月第一日曜日を中心に11月～12月に実施）に参加した」は「総合防災（9月1日前後の8～9月に実施）に参加した」より高くなっている。また、「地域防災訓練（12月第一日曜日を中心に11月～12月に実施）に参加した」と答えた人は女性より男性の方が高くなっている。

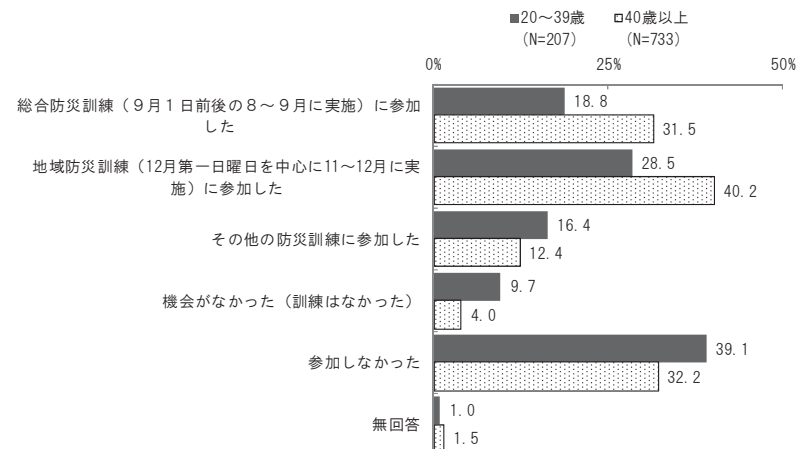
地震防災訓練の参加状況<性・年代別>



◇男女の地震防災訓練の参加率◇
男性 65.6%
女性 55.4%

年代別で見ると「地域防災訓練（12月第一日曜日を中心に11月～12月に実施）に参加した」が『40歳以上』（40.2%）、『20～39歳』（28.5%）と『40歳以上』が11.7ポイント上回っている。

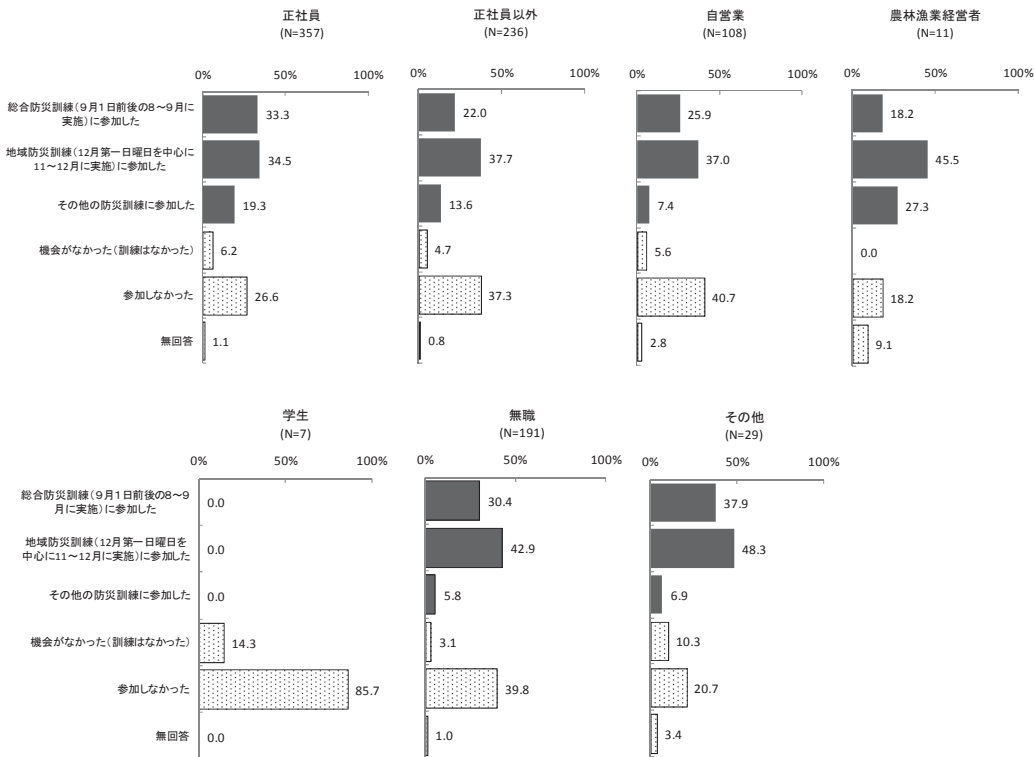
地震防災訓練の参加状況<年代別>



◇年代別の地震防災訓練の参加率◇
20～39歳 50.2%
40歳以上 62.3%

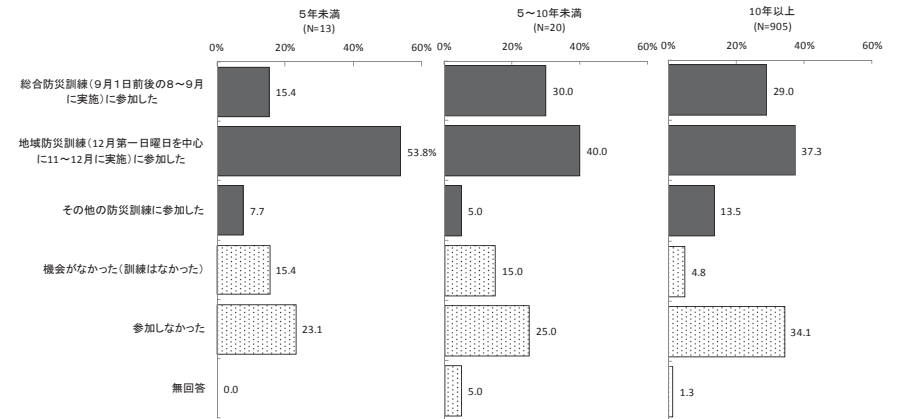
職業別で見ると「地域防災訓練（12月第一日曜日を中心に11月～12月に実施）」に参加したは『農林漁業経営者』、『無職』等で高くなっている。「参加しなかった」は『学生』（85.7%）が最も高く、次いで『自営業』（40.7%）、『無職』（39.8%）の順となっている。

地震防災訓練の参加状況<職業別>



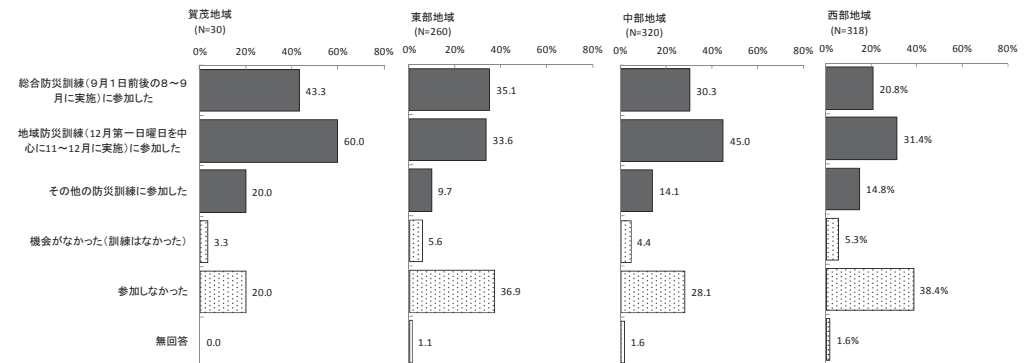
居住年数別で見ると、「総合防災訓練（9月1日前後の8～9月に実施）」に参加したは『5年～10年未満』（30.0%）が最も高く、次いで『10年以上』（29.0%）となっている。「地域防災訓練（12月第一日曜日を中心に11～12月に実施）」に参加したは、『5年未満』（53.8%）と最も高くなっている。一方、「参加しなかった」は『10年以上』（34.1%）が最も高くなっている。

地震防災訓練の参加状況<居住年数別>

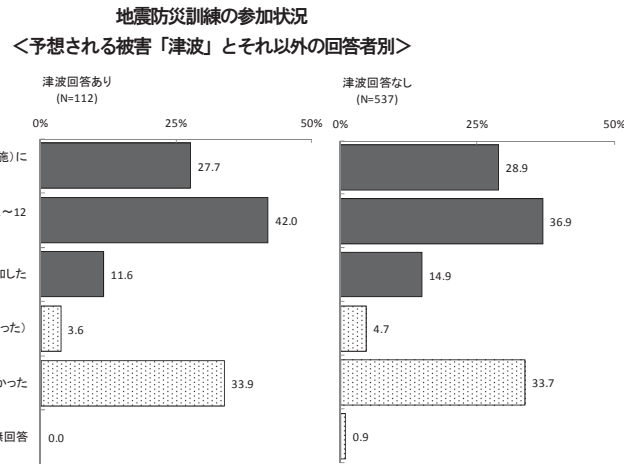


地域別で見ると、「総合防災訓練（9月1日前後の8～9月に実施）」に参加したは『賀茂』（43.3%）が最も高く、最も低い『西部』（20.8%）とは22.5ポイント差がある。同じく、「地域防災訓練（12月第一日曜日を中心に11～12月に実施）」に参加したは『賀茂』（60.0%）が最も高く、最も低い『西部』（31.4%）とは28.6ポイントの差がある。一方、「参加しなかった」は『西部』（38.4%）が最も高くなっている。

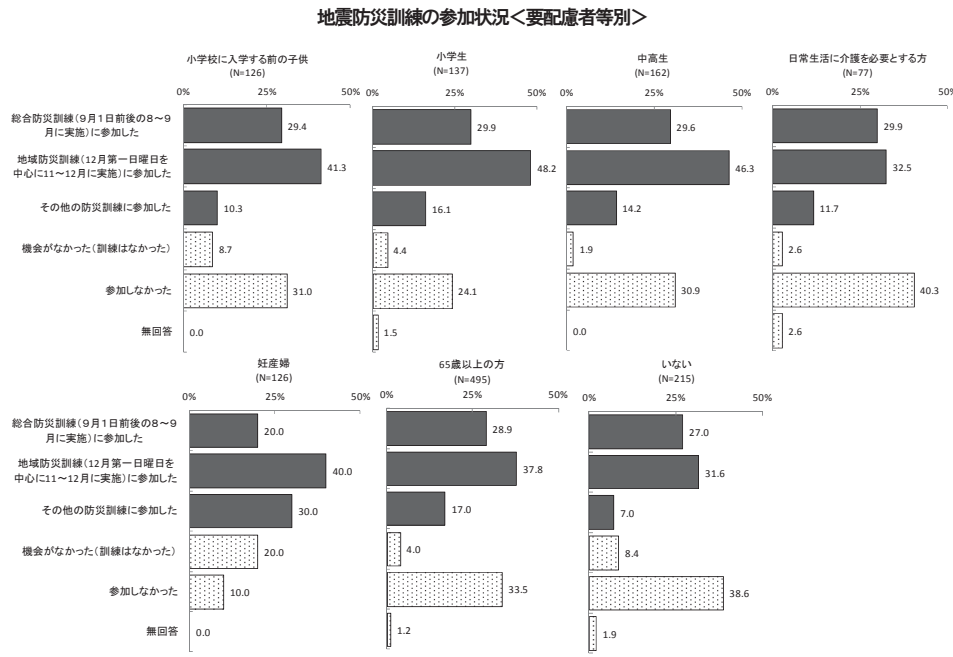
地震防災訓練の参加状況<地域別>



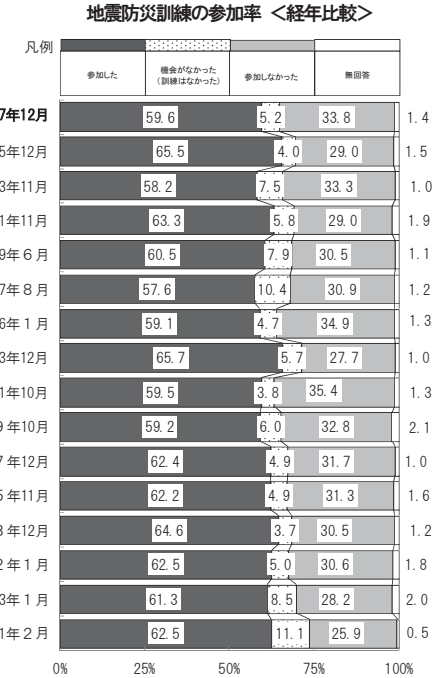
予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の回答者別でみると、『津波回答あり』(42.0%)は「地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11~12月に実施)」に参加した」が高く、『津波回答なし』(36.9%)と5.1ポイント差がある。



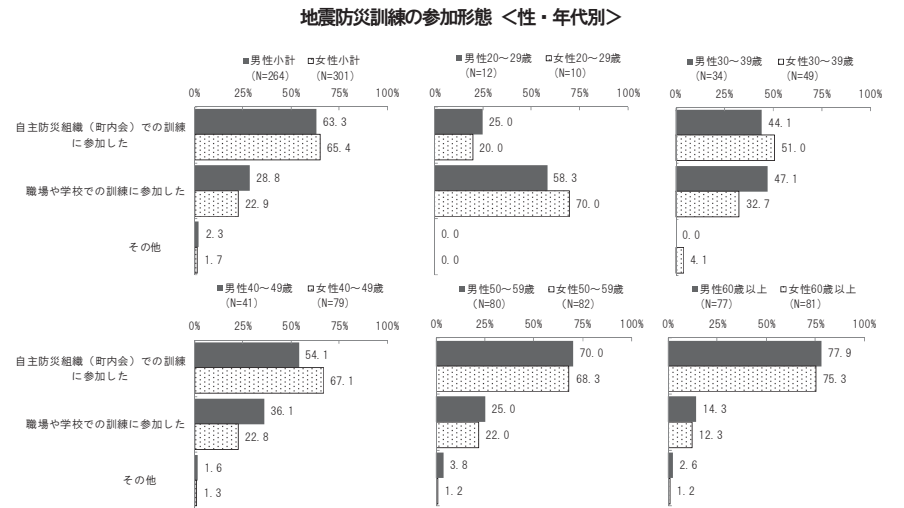
要配慮者等別でみると、「地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11~12月に実施)」に参加したは『小学生』のいる世帯(48.2%)で最も高く、次いで「中学生」のいる世帯(46.3%)となっている。一方、「参加しなかった」は『日常生活に介護を必要とする人』のいる世帯(40.3%)が最も高くなっている。



経年比較でみると、いずれの調査においても「参加した」が6割前後を占めているが、今回調査(59.6%)は、前回調査(65.5%)より5.9ポイント減少している。「機会がなかった(訓練はなかった)」(5.2%)は、前回調査(4.0%)より1.2ポイント上昇している。

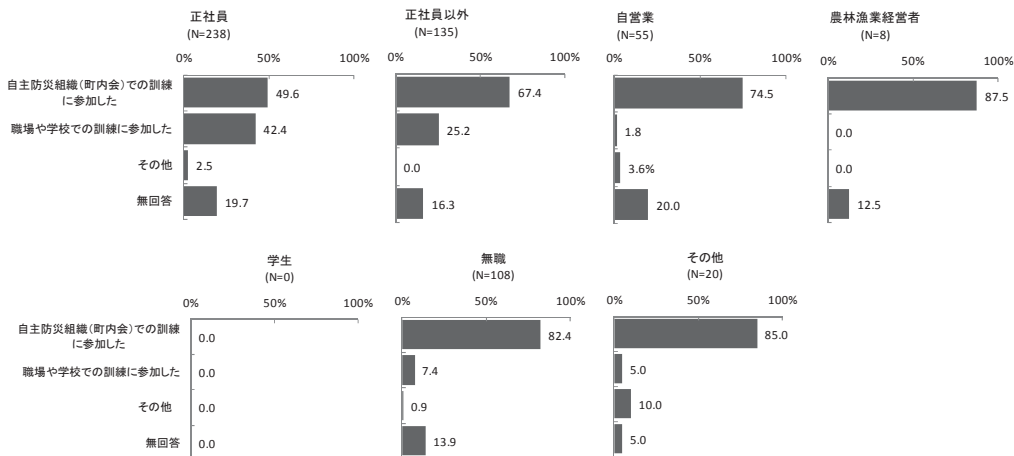


地震防災訓練の参加形態を性・年代別でみると、男女ともに年代が上がるにつれて「自主防災組織(町内会)」での参加率が高くなり、「職場や学校」が低くなっている。



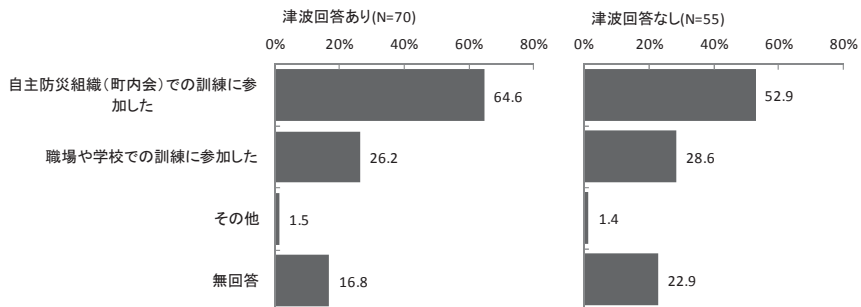
職業別でみると、「自主防災組織（町内会）での訓練に参加した」は『農林漁業経営者』が(87.5%)と最も高くなっており、『正社員』（49.6%）が最も低くなっている。「職場や学校での訓練に参加した」は『正社員』（42.4%）が最も高くなっている。

地震防災訓練の参加形態<職業別>



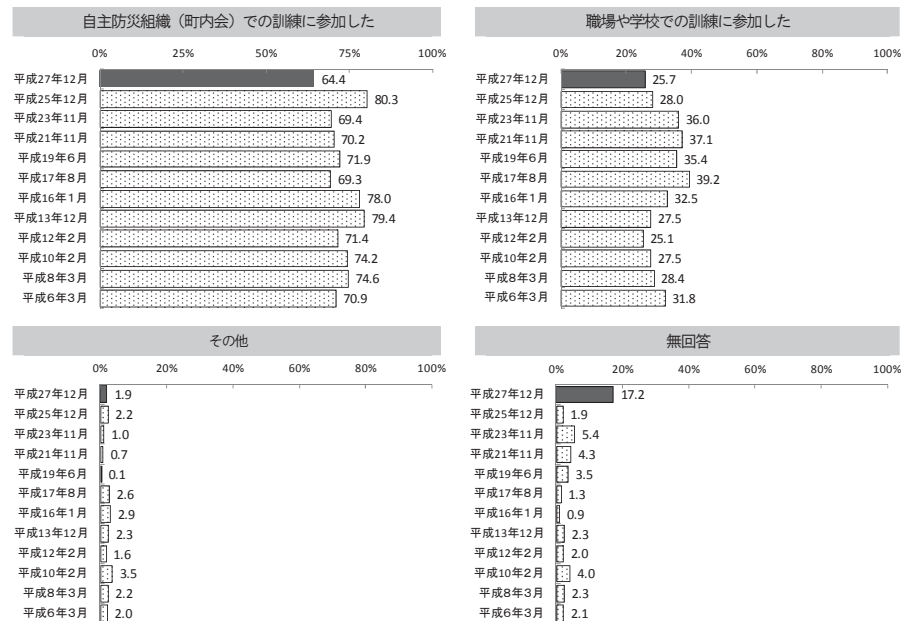
予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の回答者別でみると、『津波回答あり』（64.6%）は「自主防災訓練組織（町内会）での訓練に参加した」が高く、『津波回答なし』（52.9%）と11.7ポイント差が見られる。

地震防災訓練の参加形態
<予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別>



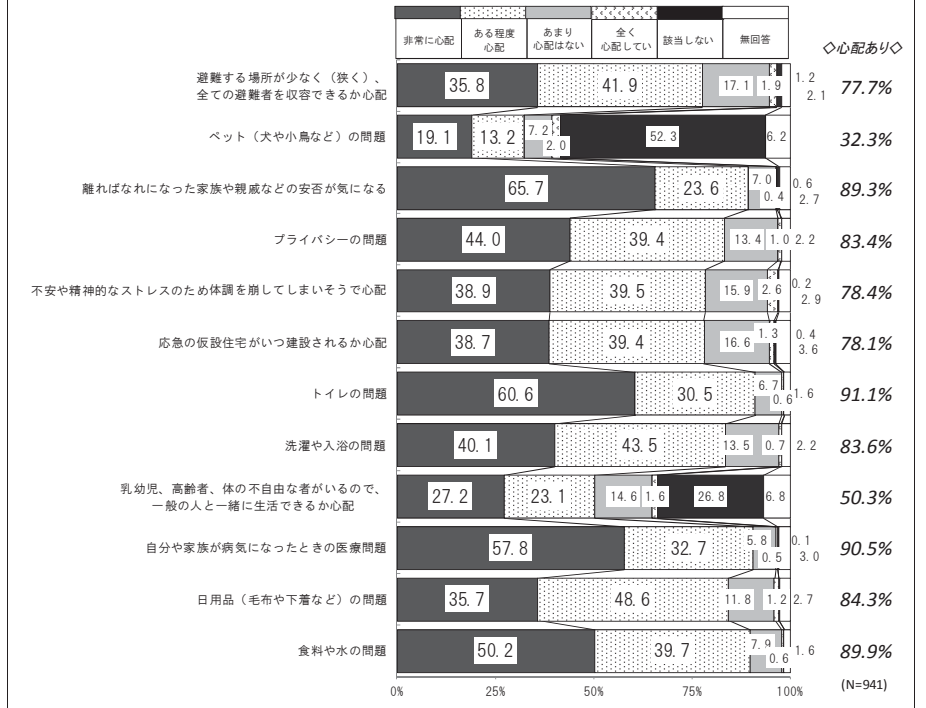
地震防災訓練の参加形態を経年比較でみると、「自主防災組織（町内会）での訓練に参加した」は、今回調査(64.4%)が、前回調査(80.3%)より15.9ポイント減少している。「職場や学校での訓練に参加した」は、今回調査(25.7%)が、前回調査(28.0%)より2.3ポイント減少している。

地震防災訓練の参加形態<経年比較>



4-3 避難所で避難生活を送る場合の心配ごと

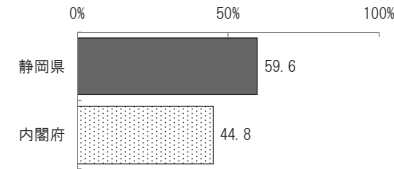
問21 あなたは避難所で避難生活を送る場合、どのようなことが心配ですか。次の1~12について、あてはまる項目にそれぞれ1つずつ○をつけてください。



避難所で避難生活を送る場合の心配ごとについてたずねると、「非常に心配」については、『離ればなれになった家族や親戚などの安否確認が気になる』(65.7%)、『トイレの問題』(60.6%)、『自分や家族が病気になったときの医療問題』(57.8%)の3項目が高くなっている。また、心配ありと答えた項目(「非常に心配」+「ある程度心配」)の上位5項目をみると、『トイレの問題』(91.1%)、『自分や家族が病気になったときの医療問題』(90.5%)、『食料や水の問題』(89.9%)、『離ればなれになった家族や親戚などの安否確認が気になる』(89.3%)、『日用品(毛布や下着など)の問題』(84.3%)となっており、いずれも8割を超えている。

地震防災訓練の参加率 <内閣府調査との比較>

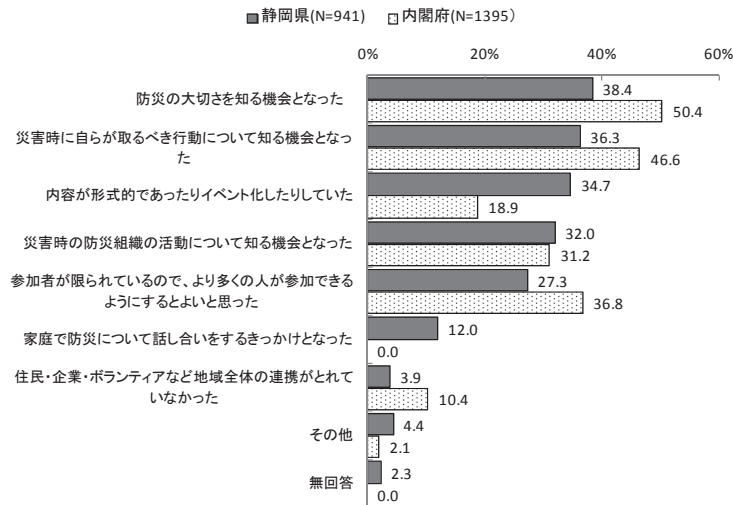
内閣府調査との比較でみると、地震防災訓練の参加率(何らかの訓練に参加)は『静岡県』(59.6%)、『内閣府』(44.8%)と、『静岡県』が14.8ポイント高くなっている。



※静岡県は、過去1年間の参加率である。内閣府は過去についての数字であり、見学者を含む。

訓練参加感想を内閣府調査との比較でみると、「防災の大切さを知る機会となった」は38.4%と、『内閣府』(50.4%)より12ポイント下回っている。また、「災害時に自らが取るべき行動について知る機会となった」は36.3%と、『内閣府』(46.6%)より10.3ポイント下回っている。一方、「内容が形式的であったりイベント化したりしていた」は34.7%と、『内閣府』(18.9%)より15.3ポイント上回っている。

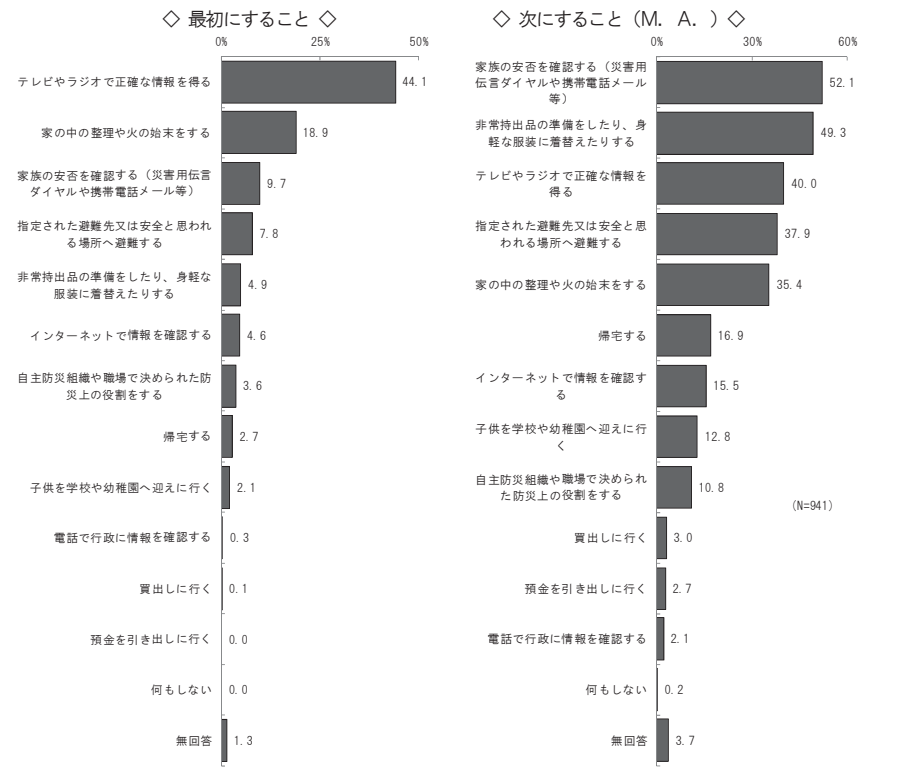
参加してどのようなことを感じたか <内閣府調査との比較>



5 南海トラフ地震(東海地震)が突然発生したときの行動について

5-1 突然地震が発生したときの行動

問22 平日の午前11時頃に突然地震が起こった場合、揺れがおさまったらあなたがまず最初のことを下記の項目の中から1つ選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に○をつけてください。



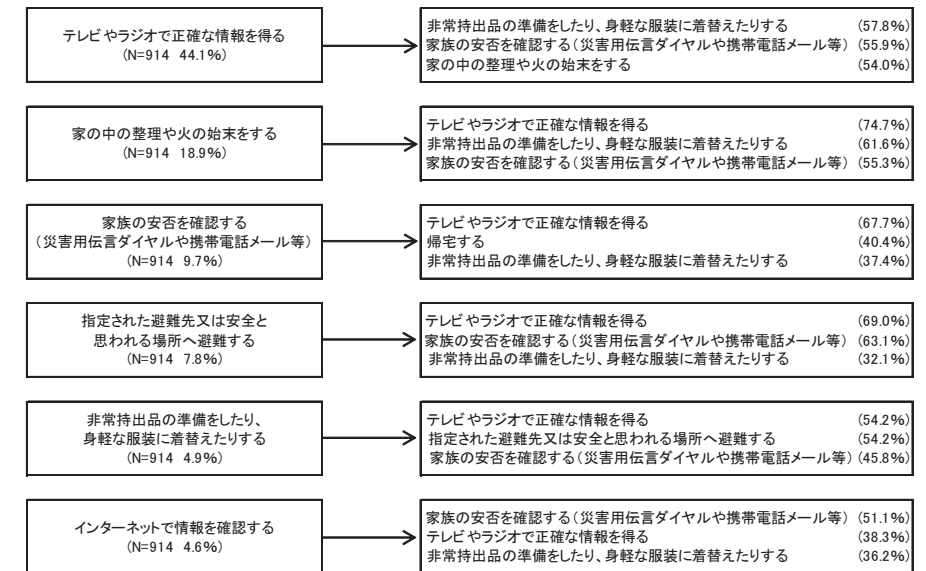
地震が突然発生したときの行動についてたずねたところ、まず最初にすることは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(44.1%)が最も高く、次いで「家の中の整理や火の始末をする」(18.9%)、「家族の安否を確認する(災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等)」(9.7%)の順となっている。

次にすることは、「家族の安否を確認する(災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等)」(52.1%)が最も高く、次いで「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」(49.3%)、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(40.0%)、「家の中の整理や火の始末をする」(35.4%)の順となっており、これら4項目が3割を超えている。

地震が突然発生したときの行動の流れをみると、まず最初にすることに「テレビやラジオで正確な情報を得る」を選んだ人は、次にすることでは「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」、「家族の安否を確認する(災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等)」、「家の中の整理や火の始末をする」を上位に挙げている。

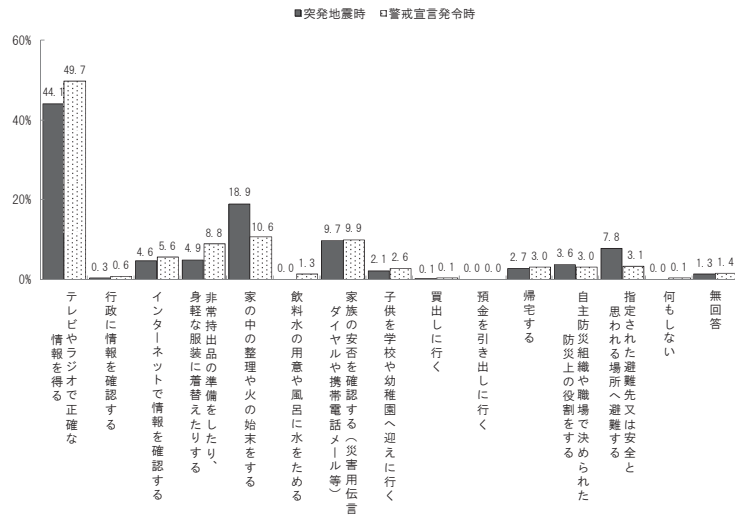
また、まず最初にすることに「家の中の整理や火の始末をする」を選んだ人は、次にすることでは「テレビやラジオで正確な情報を得る」、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」、「家族の安否を確認する(災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等)」を上位に挙げている。

地震が突然発生した時の行動の流れ 上位6位

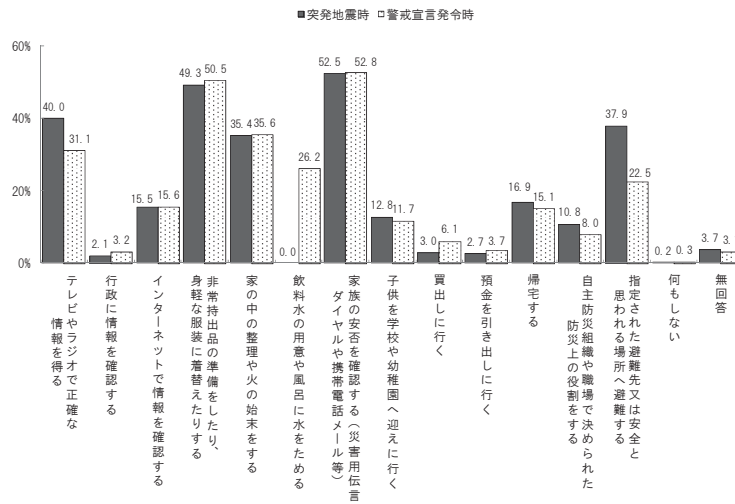


突発地震時 警戒宣言発令時の行動比較

— 最初にする行動 —



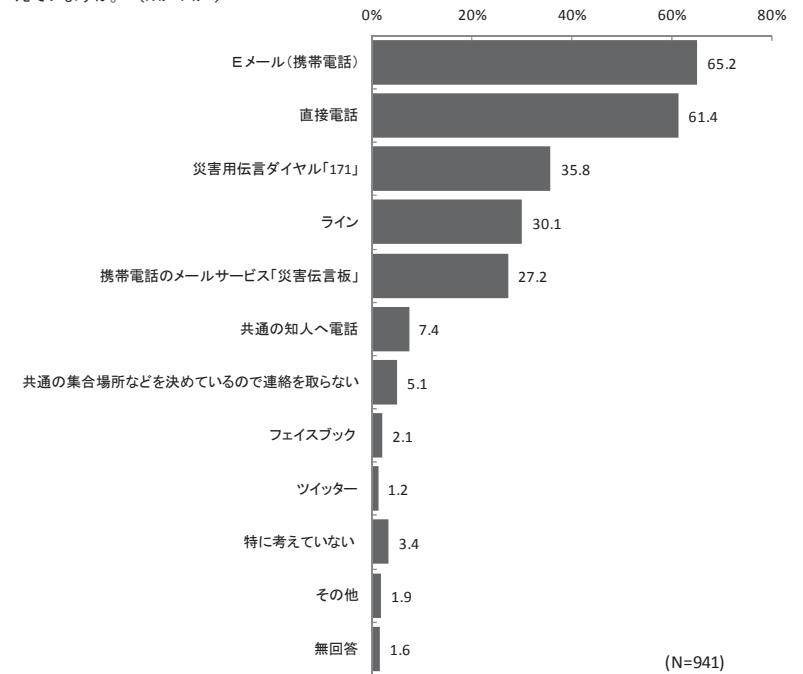
— 次にする行動 —



※警戒宣言発令時の行動は問27にて調査した項目。※突発地震時の「飲料水の用意や風呂に水をためる」は設問から除外した。

5-2 家族との安否確認手段【新規設問】

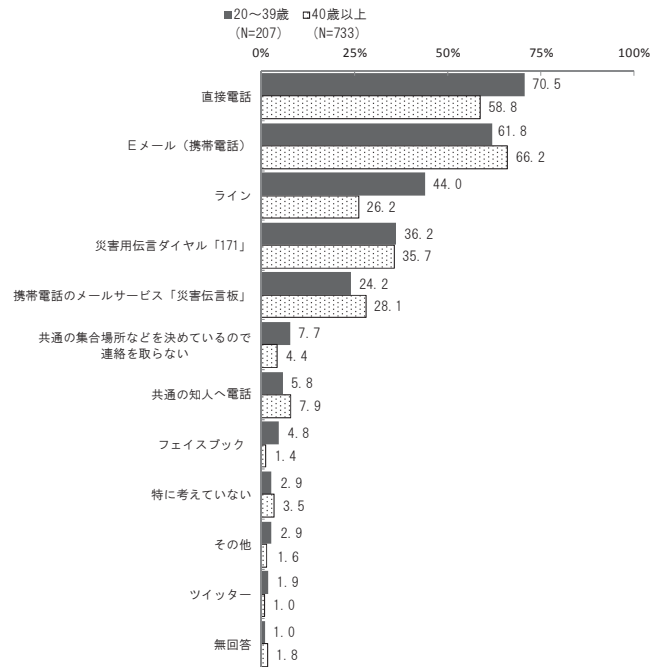
問23 家族が離ればなれとなっている時に突然、地震が起こった場合、家族の安否を確認する手段として何を使うことを考えていますか。(M. A.)



家族が離ればなれとなっている時に突然、地震が起こった場合、家族の安否を確認する手段として何を使うことを考えているかたずねたところ、「Eメール(携帯電話)」(65.2%)が最も高く、次いで「直接電話」(61.4%)、「災害用伝言ダイヤル(171)」(35.8%)、「ライン」(30.1%)、「携帯電話のメールサービス「災害伝言板」」が高くなっている。

年代別で見ると、「ライン」は『20～39歳』（44.0%）、『40歳以上』（26.2%）と『20～39歳』が17.8ポイント高くなっている。また、「携帯電話のメールサービス「災害伝言板」」は『40歳以上』（28.1%）、『20～39歳』（24.2%）と『40歳以上』が3.9ポイント高くなっている。

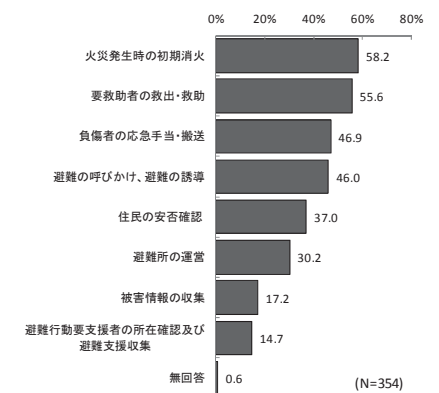
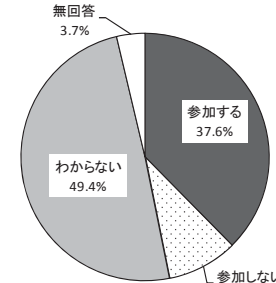
家族との安否確認手段<年代別>



5-3 地震発生後の防災活動への参加

問24 突然、地震が起こった場合、あなたは自主的に地域の防災活動に参加しますか。

<問24で「参加する」を選んだ方にお伺いします。>
問24-1 どのような活動に参加することを考えていますか。(M. A.)

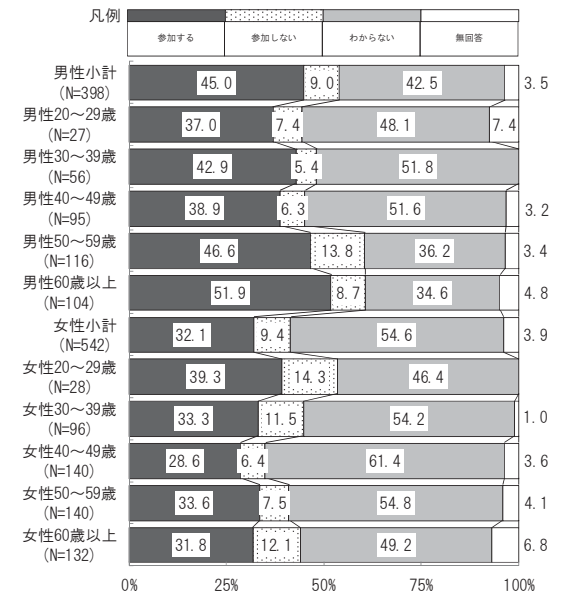


地震発生後の防災活動についてたずねたところ、「わからない」（49.4%）が最も高く、次いで「参加する」（37.6%）、「参加しない」（9.2%）の順となっている。また、問24で「参加する」と回答した人の参加意向については、「火災発生時の初期消火」（58.2%）が最も高く、次いで「要救助者の救出・救助」（55.6%）、「負傷者の応急手当・搬送」（46.9%）の順となっている。

地震発生後の防災活動への参加率を性・年代別

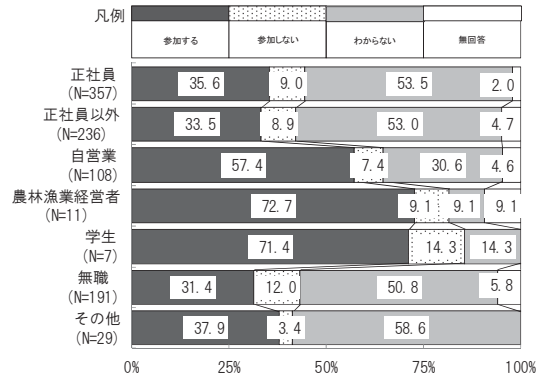
で見ると、地震発生後の防災活動に「参加する」は、『男性』が45.0%、『女性』が32.1%となっており、年代別においても20代を除き、『男性』が『女性』よりも高くなっている。また、「参加する」は、最も高い『男性60代以上』（51.9%）と、最も低い『女性40代』（28.6%）では23.3ポイントの差が見られる。

地震発生後の防災活動への参加<性・年代別>



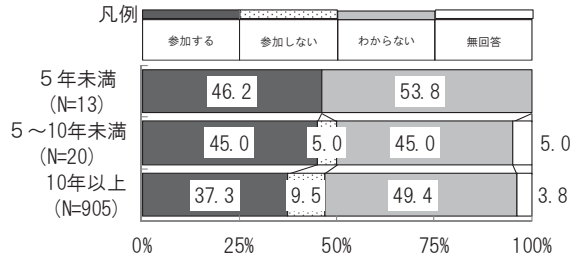
職業別でみると、「参加する」は『農林漁業経営者』（72.7%）が最も高く、次いで『学生』（71.4%）、『自営業』（57.4%）の順となっている。

地震発生後の防災活動への参加<職業別>



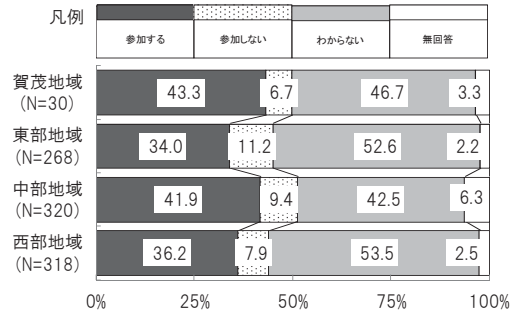
居住年数別でみると、「参加する」は、最も高い『5年未満』（46.2%）と、最も低い『10年以上』（37.3%）では8.9ポイントの差が見られる。

地震発生後の防災活動への参加<居住年数別>



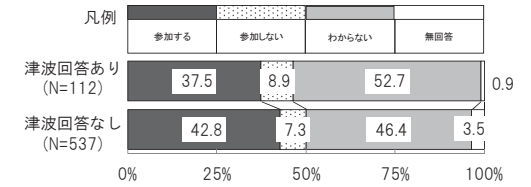
地域別でみると、「参加する」は、最も高い『賀茂』（43.3%）と、最も低い『東部』（34.0%）では9.3ポイントの差が見られる。

地震発生後の防災活動への参加<地域別>



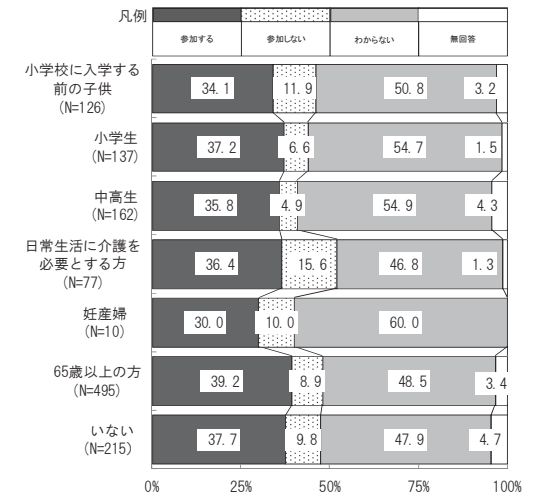
予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の回答者別でみると、「参加する」は、『津波回答あり』（37.5%）、『津波回答なし』（42.8%）となっており、『津波回答なし』のほうが5.3ポイント上回っている。

地震発生後の防災活動への参加<予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別>



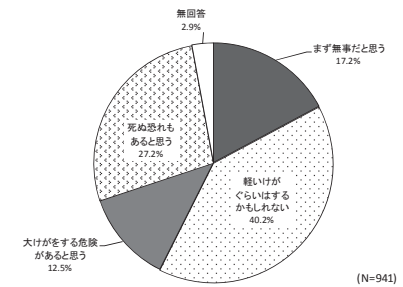
要配慮者等別でみると、自主的に防災活動に『参加する』人は、「65歳以上の方」（39.2%）が高く、4割近くとなっている。

地震発生後の防災活動への参加<要配慮者等別>



5-4 地震が突然発生したときの自分自身の安全性

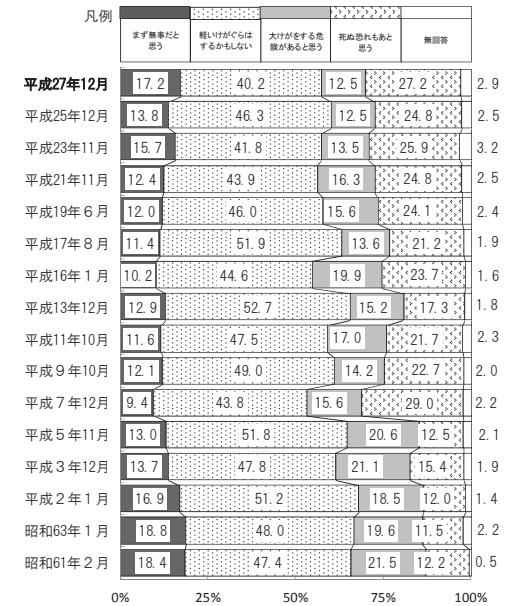
問25 突然、地震が起こった場合、あなた自身の安全についてどう考えていますか。



地震が突然発生したときの自分自身の安全性についてたずねると、「軽いけががぐらいはするかもしれない」(40.2%)が最も高く、次いで「死め恐れもあると思う」(27.2%)、「まず無事だと思う」(17.2%)、「大げな危険があると思う」(12.5%)の順となっている。

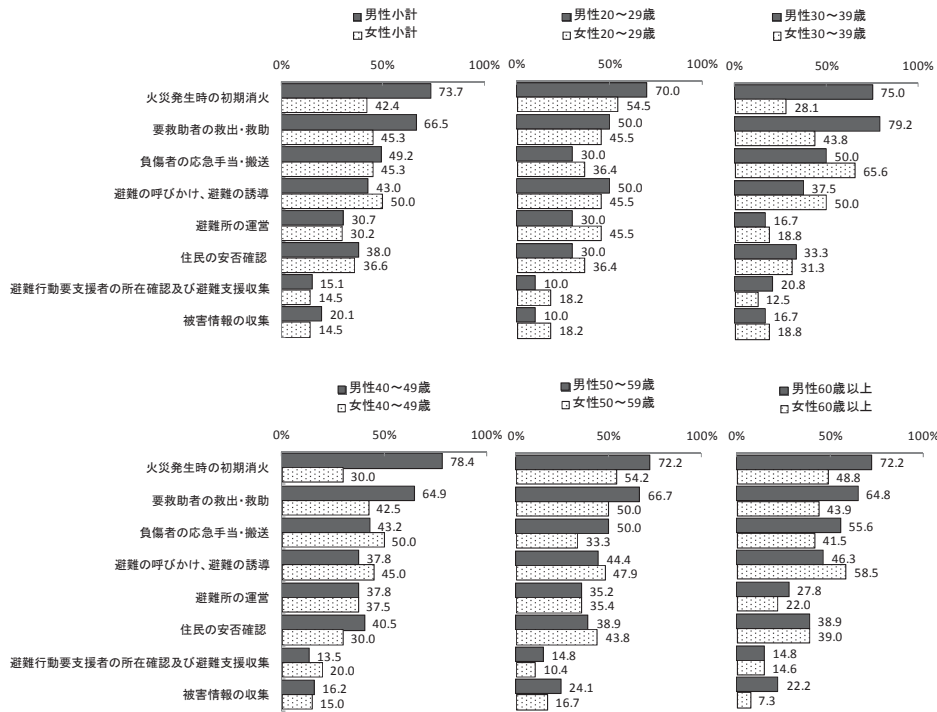
地震が突然発生したときの自分自身の安全性 <経年比較>

経年比較でみると、「死め恐れもあると思う」が、阪神・淡路大震災(平成7年1月)の起きた『平成7年12月の調査』(29.0%)において過去最高になった以降は、平成13年度を除き、2割超で推移しているが、今回調査(27.2%)では平成25年12月の前回調査(24.8%)よりも2.4ポイント高くなっている。また、「まず無事だと思う」も今回調査(17.2%)では平成25年12月の前回調査(13.8%)よりも3.4ポイント高くなっている。



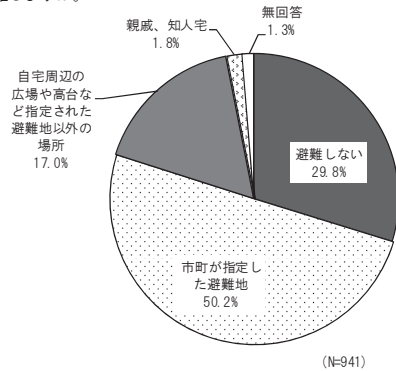
参加意向のある地震発生後の防災活動を性・年代別で見ると、「火災発生時の初期消火」は『男性』(73.7%)が『女性』(42.4%)より31.3ポイント上回っている。特に『男性30代』(75.0%)と『女性30代』(28.1%)は46.9ポイント差があり、『男性40代』(78.4%)と『女性40代』(30.0%)は48.4ポイント差が見られる。また、「要救助者の救出・救助」『男性』(66.5%)が『女性』(45.3%)より21.2ポイント上回っている。特に『男性30代』(79.2%)と『女性30代』(43.8%)は35.4ポイント差があり、『男性40代』(64.9%)と『女性40代』(42.5%)は22.4ポイント差が見られる。一方「避難の呼びかけ、避難の誘導」は『女性』(50.0%)が『男性』(43.0%)より7ポイント上回っている。特に『女性30代』(50.0%)と『男性30代』(37.5%)は12.5ポイント差があり、『女性40代』(45.0%)と『男性40代』(37.8%)は7.2ポイント差が見られる。

参加意向のある地震発生後の防災活動<性・年代別>



5-5 地震が突然発生したときの避難行動

問26 あなたがご自宅にいるときに、突然地震が起こった場合、あなたやご家族は一時的に避難しますか。また、避難する場合はどこに避難しますか。

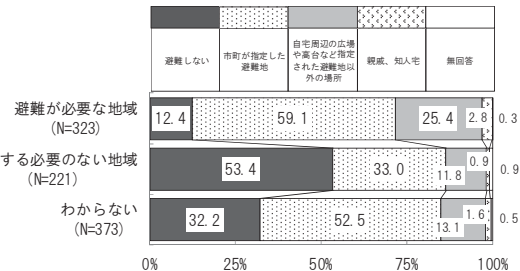


地震が突然発生したときの避難行動についてたずねたところ、「市町が指定した避難地」(50.2%)が最も高く、次いで「避難しない」(29.8%)、「自宅周辺の広場や高台など指定された避難地以外の場所」(17.0%)、「親戚、知人宅」(1.8%)の順となっている。屋外である「市町が指定した避難地」と「自宅周辺の広場や高台など指定された避難地以外の場所」への避難は67.2%となっている。

地震が突然発生したときの避難行動
＜避難該当地域であるかの認識別＞

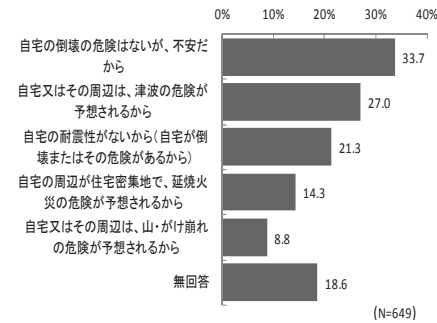
避難該当地域であるかの認識別でみると、『避難が必要な地域』では、「市町が指定した避難地」(59.1%)が最も高くなっている。『避難する必要のない地域』では、「避難しない」(53.4%)が最も高くなっている。

一方、『避難が必要な地域』においても12.4%が「避難しない」としている。



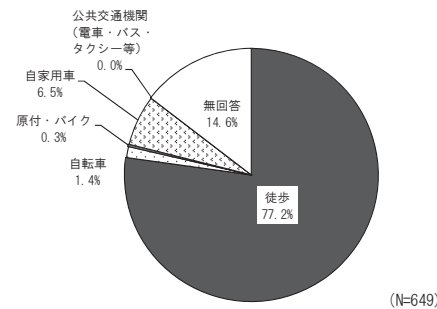
＜問26で「1 避難しない」以外を選んだ方にお伺いします。＞

問26-1 避難する理由は何ですか。(M. A.)



＜問26で「1 避難しない」以外を選んだ方にお伺いします。＞

問26-2 避難するときの交通手段は何ですか。



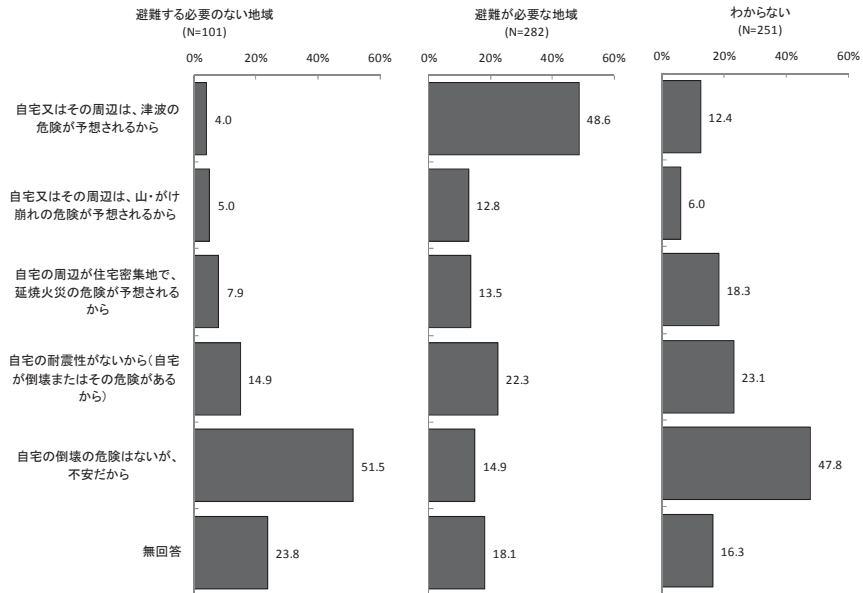
問26で「避難しない」以外を回答した人の避難する理由についてたずねたところ、「自宅の倒壊の危険はないが、不安だから」(33.7%)が最も高く、次いで「自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」(27.0%)、「自宅の耐震性がないから(自宅が倒壊またはその危険があるから)」(21.3%)、「自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから」(14.3%)、「自宅又はその周辺は、山・がけ崩れの危険が予想されるから」(8.8%)の順となっている。

問26-1で津波の危険が予想されると回答した人に避難開始時間をたずねたところ、「地震発生直後～5分」(54.5%)が最も高く、次いで「6～10分」(25.0%)、「11～20分」(9.8%)、「わからない」(6.3%)の順となっている。

問26で「避難しない」以外を回答した人の避難するときの交通手段についてたずねたところ、「徒歩」(77.2%)が最も高く8割近くを占めており、次いで「自家用車」(6.5%)、自転車(1.4%)の順となっている。

問26で「避難しない」以外を回答した人の避難する理由について、避難該当地域であるかの認識別でみると、『避難が必要な地域』では、「自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」(48.6%)が高くなっている。『避難する必要のない地域』では、「自宅の倒壊の危険はないが、不安だから」(51.5%)が他より高くなっている。

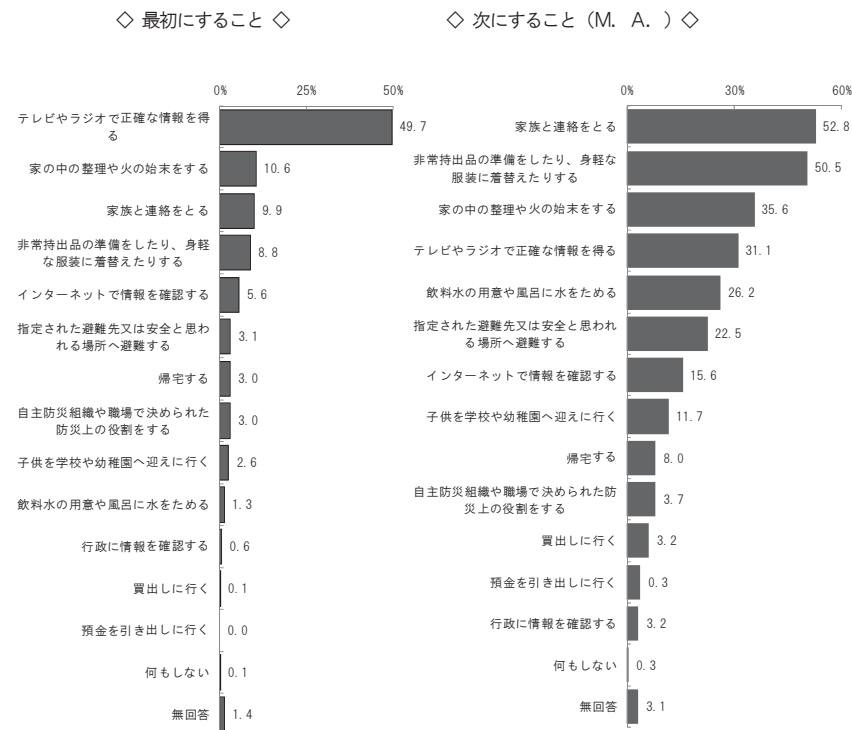
避難する理由<避難該当地域であるかの認識別>



6 警戒宣言が発せられたときの行動について

6-1 警戒宣言発令時の行動

問27 平日の午前11時頃に警戒宣言が発せられたと仮定して、あなたがまず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に○をつけてください。



警戒宣言発令時の行動についてたずねたところ、まず最初にすることは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(49.7%)が最も高く、次いで「家の中の整理や火の始末をする」(10.6%)、「家族と連絡をとる」(9.9%)の順となっている。

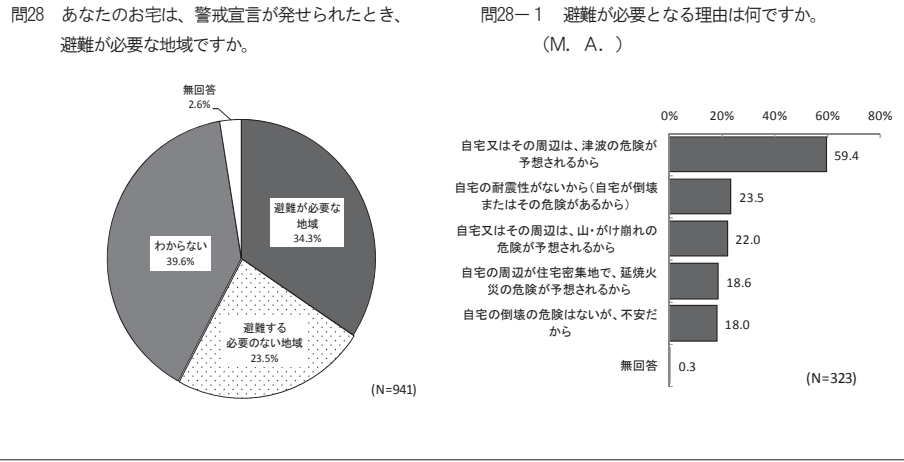
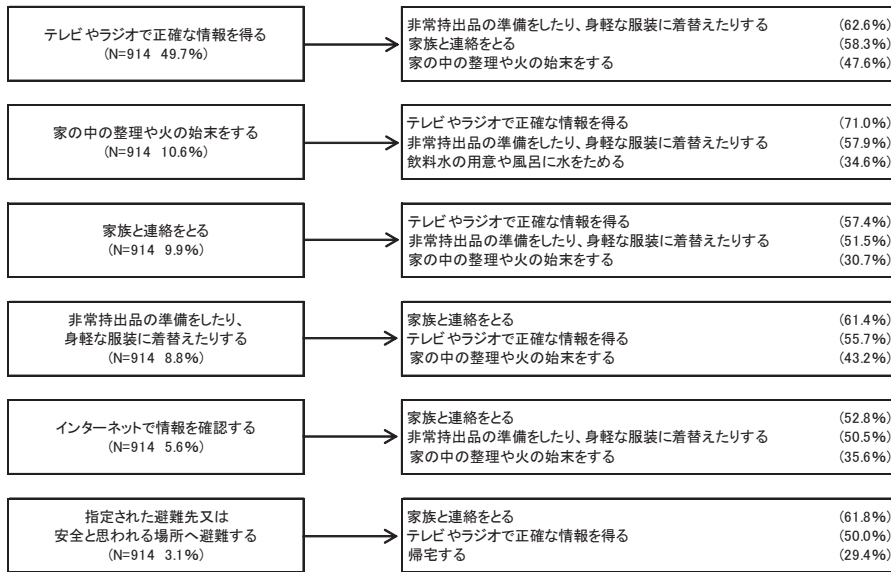
次にすることは、「家族と連絡をとる」(52.8%)が最も高く、次いで「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」(50.5%)、「家の中の整理や火の始末をする」(35.6%)、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(31.1%)となっており、これら4項目が3割を超えている。

6-2 避難該当地域であるかの認識

警戒宣言発令時の行動の流れをみると、まず最初にするに「テレビやラジオで正確な情報を得る」を選んだ人は、次にすることでは「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」、「家族と電話で連絡をとる」、「家の中の整理や火の始末をする」を上位に挙げている。

また、まず最初にするに「家の中の整理や火の始末をする」、「家族と電話で連絡をとる」を選んだ人は、次にすることでは「テレビやラジオで正確な情報を得る」、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする」を共通して上位に挙げている。

警戒宣言発令時の行動の流れ 上位6位

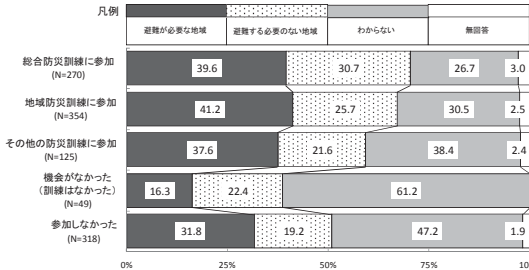


自宅が避難該当地域であるかの認識についてたずねたところ、「わからない」(39.6%)が最も高く、次いで「避難が必要な地域」(34.3%)、「避難する必要のない地域」(23.5%)の順となっている。

また、問28で「避難が必要な地域」と回答した人の必要な理由についてたずねたところ、「自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」(59.4%)が最も高く、次いで「自宅の耐震性がないから(自宅が倒壊またはその危険があるから)」(23.5%)、「自宅又はその周辺は、山・がけ崩れの危険が予想されるから」(22.0%)、「自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから」(18.6%)、「自宅の倒壊の危険はないが、不安だから」(18.0%)の順となっている。

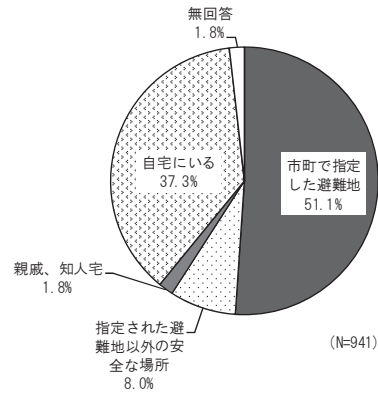
避難該当地域であるかの認識
＜防災訓練参加状況別＞

避難該当地域であるかの認識を防災訓練参加状況別でみると、「避難が必要な地域」では、最も高い『地域防災訓練に参加』(41.2%)と、最も低い『機会がなかった(訓練はなかった)』(16.3%)では24.9ポイントの差が見られ、いずれかの防災訓練に参加している人は、自宅が避難該当地域であるという認識が高い傾向が見られる。



6-3 居宅で警戒宣言が発せられた場合の避難

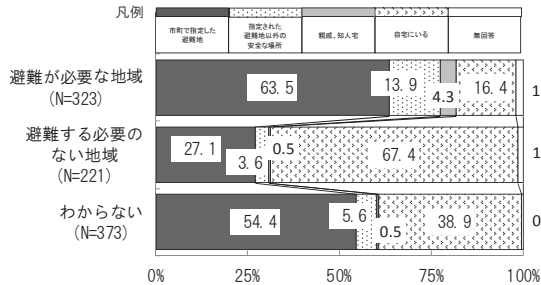
問29 あなたやご家族は、自宅にいて警戒宣言が発せられた場合、避難しますか。



自宅にいて警戒宣言が発せられた場合の避難行動についてたずねたところ、「市町で指定した避難地」(51.1%)が最も高く、次いで「自宅にいる」(37.3%)、「指定された避難地以外の安全な場所」(8.0%)、「親戚、知人宅」(1.8%)の順となっている。

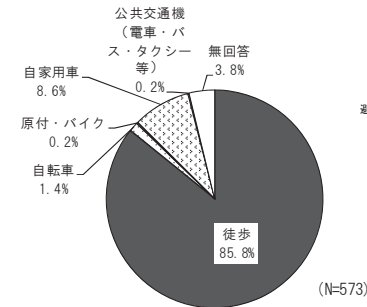
警戒宣言発令時の避難行動
＜避難該当地域であるかの認識状況別＞

避難該当地域であるかの認識状況別でみると、『避難が必要な地域』では、「市町で指定した避難地」(63.5%)が6割を超えている。また、『避難する必要のない地域』では、「自宅にいる」(67.4%)が7割近くとなっている。



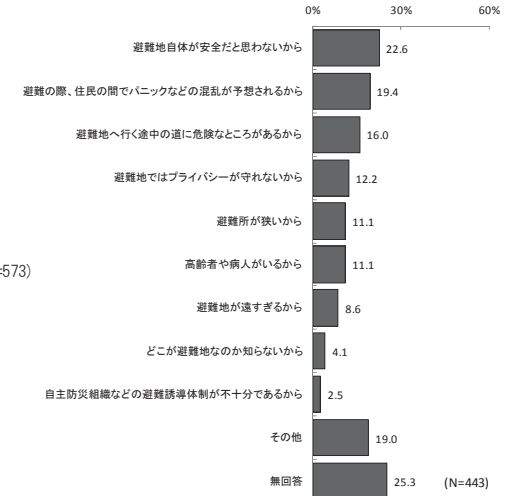
＜問29で「1 市町で指定した避難地」「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」のいずれかを選んだ方にお伺いします。＞

問29-1 避難するときの交通手段は何ですか。



＜問29で「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」「4 自宅にいる」のいずれかを選んだ方にお伺いします。＞

問29-2 市町で指定した避難地へ避難しない理由は何ですか。(M. A.)



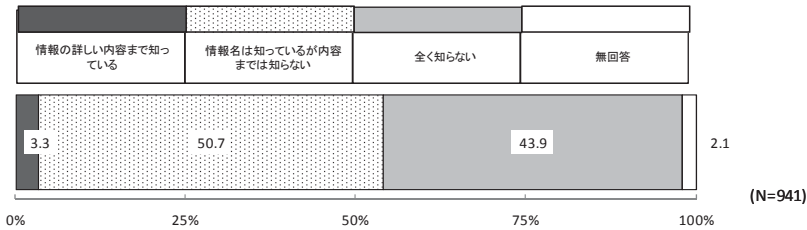
問29で「避難する」と回答した人の避難時の交通手段についてたずねたところ、「徒歩」(85.8%)が最も高く8割以上を占めており、次いで「自家用車」(8.6%)、「自転車」(1.4%)の順となっている。

問29で「指定された避難地以外の安全な場所」「親戚、知人宅」「自宅にいる」と回答した人に、市町で指定した避難地へ避難しない理由をたずねたところ、「避難地自体が安全だと思わないから」(22.6%)が最も高く、次いで「避難の際、住民の間でパニックなどの混乱が予想されるから」(19.4%)、「避難地へ行く途中の道に危険なところがあるから」(16.0%)、「避難地ではプライバシーが守れないから」(12.2%)の順となっている。

7 地震に関する情報について

7-1 東海地震に関連する情報体系の認知

問30 東海地震に関連する情報として「東海地震に関する調査情報」「東海地震注意情報」「東海地震予知情報（警戒宣言）」の3つがあります。あなたは、このことをご存知ですか。

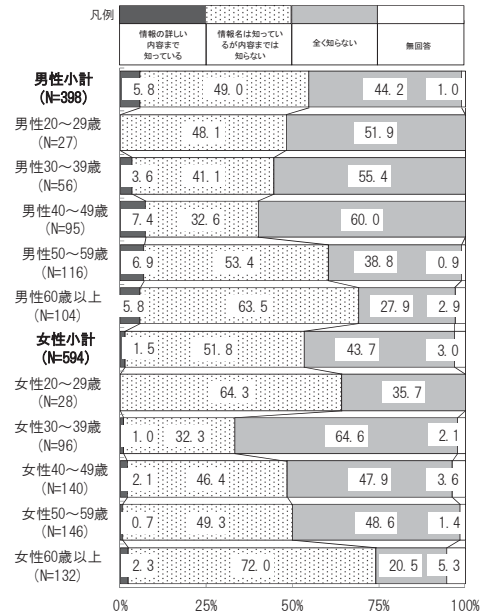


東海地震に関連する情報体系の認知についてたずねたところ、「情報名は知っているが内容までは知らない」(50.7%)が最も高く、次いで「全く知らない」(43.9%)、「情報の詳しい内容まで知っている」(3.3%)の順となっている。「情報名は知っているが内容までは知らない」、「全く知らない」を合わせた情報の内容を知らない人は94.6%となっている。

性・年代別で見ると、「全く知らない」は、『女性30代』(64.6%)で最も高く、次いで『男性40代』(60.0%)、『男性30代』(55.4%)、『男性20代』(51.9%)の順となっている。

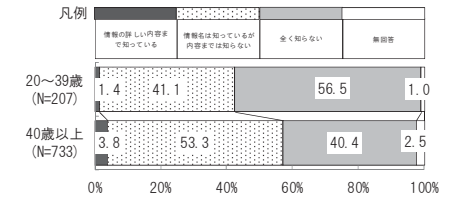
また、「情報名は知っているが内容までは知らない」は『女性60代以上』(72.0%)が最も高く、次いで『女性20代以上』(64.3%)の順となっている。

情報体系の認知 <性・年代別>



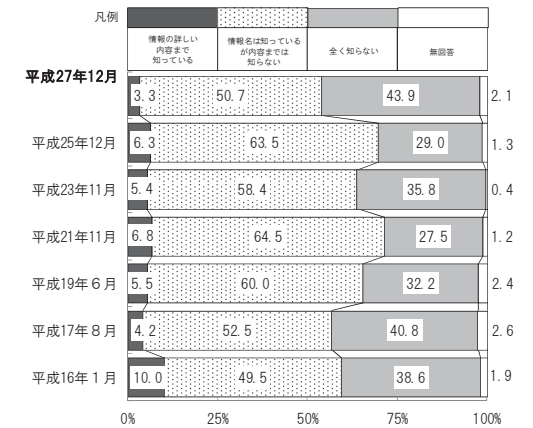
年代別で見ると、「全く知らない」は『20~39歳』(56.5%)、『40歳以上』(40.4%)と『20~39歳』が16.1ポイント上回っている。

情報体系の認知 <年代別>



経年比較で見ると、「全く知らない」の今回調査(43.9%)は、前回調査(29.0%)より14.9ポイント上昇している。一方、「情報名は知っているが内容までは知らない」の今回調査(50.7%)は、前回調査(63.5%)より12.8ポイント減少している。

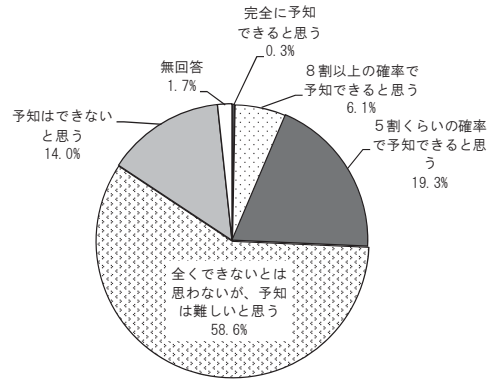
情報体系の認知 <経年比較>



※平成16年度から平成19年度の「名前も内容も知らないが、改正があったことは知っている」は「情報名は知っているが内容までは知らない」に集約。

7-2 東海地震予知の可能性

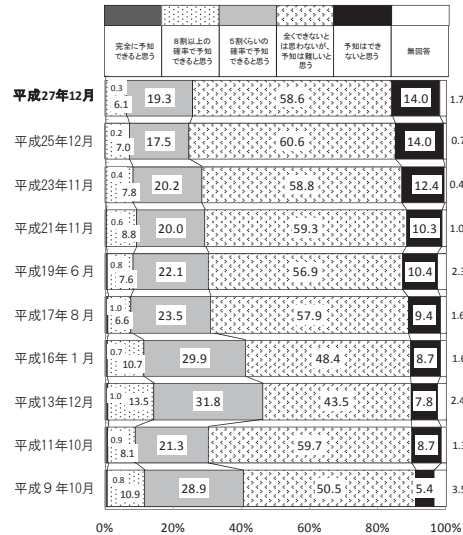
問31 あなたは、現時点で東海地震は予知できると思いますか。



東海地震の予知の可能性についてたずねたところ、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」(58.6%)が最も高く、次いで「5割くらいの確率で予知できると思う」(19.3%)、「予知はできないと思う」(14.0%)、「8割以上の確率で予知できると思う」(6.1%)、「完全に予知できると思う」(0.3%)の順となっている。

経年比較でみると、『平成13年12月の調査』以降、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」と「予知は出来ないと思う」の割合が増加傾向にあったが、今回の平成27年度は減少している

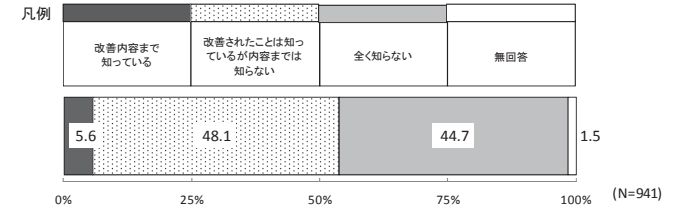
東海地震予知の可能性<経年比較>



※この調査項目は平成9年度調査から設定した。

7-3 津波警報改善の認知

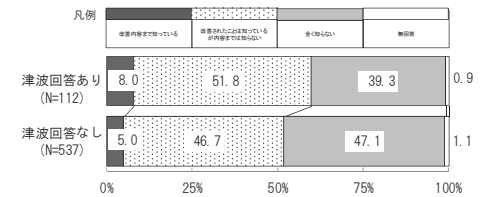
問32 平成25年3月7日から、巨大地震の発生時には予想される津波の高さを「巨大」「高い」という分かりやすい表現で発表するなど、津波警報が改善されました。あなたは、このことをご存知ですか。



津波警報改善の認知度についてたずねたところ、「改善されたことは知っているが内容までは知らない」(48.1%)が最も高く、次いで「全く知らない」(44.7%)、「改善内容まで知っている」(5.6%)の順となっている。

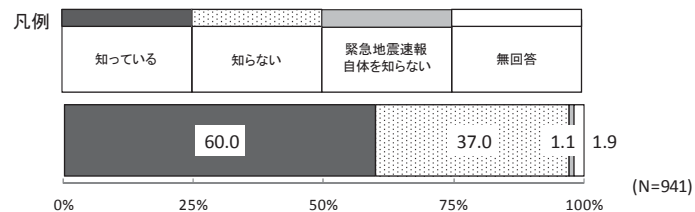
予想される被害が「津波」との回答者とそれ以外の回答者別でみると、『津波回答あり』(8.0%)は「改善内容まで知っている」が『津波回答なし』より3ポイント上回っている。また、「改善されたことは知っている」も『津波回答あり』(51.8%)は、『津波回答なし』(46.7%)を5.1ポイント上回っている。

津波警報改善の認知
<予想される被害「津波」とそれ以外の回答者別>



7-4 緊急地震速報についての認知

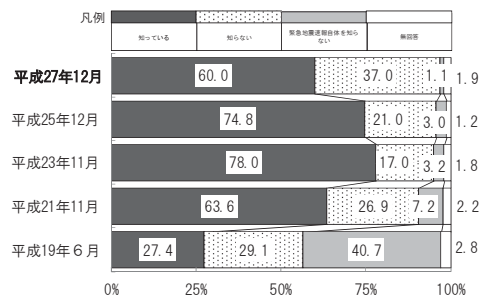
問33 地震の強い揺れが来ることを、揺れる前にお知らせする情報である緊急地震速報が、気象庁からテレビ、ラジオ、緊急速報メール（エリアメール）などを通じて提供されています。あなたは、緊急地震速報について知っていますか。



緊急地震速報の認知についてたずねたところ、「知っている」（60.0%）が最も高く、次いで「知らない」（37.0%）、「緊急地震速報自体を知らない」（1.1%）の順となっている。

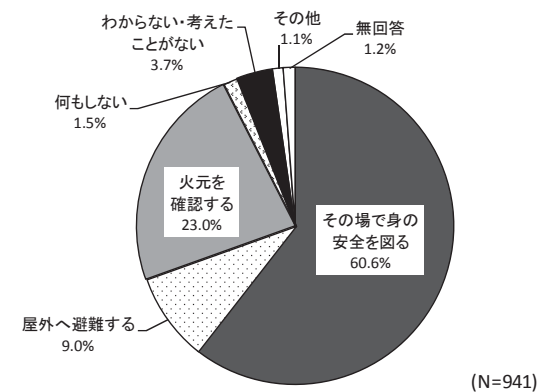
緊急地震速報についての認知
＜経年比較＞

経年比較でみると、「知っている」の今回調査（60.0%）は、前回調査（74.8%）より14.8ポイント減少している。



7-5 緊急地震速報入手時の行動

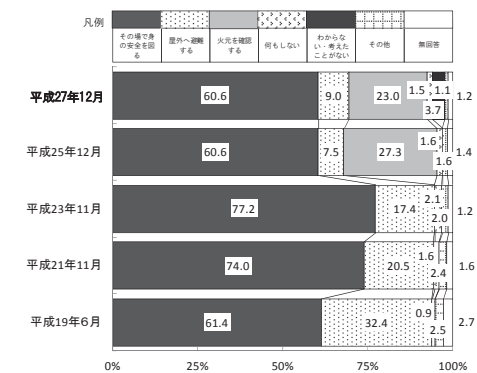
問34 あなたは、屋内で緊急地震速報を受け取ったとき、まずはどのように行動しますか。



緊急地震速報入手時の行動についてたずねたところ、「その場で身の安全を図る」（60.6%）が最も高く、次いで「火元を確認する」（23.3%）、「屋外へ避難する」（9.0%）、「わからない、考えたことがない」（3.7%）の順となっている。

緊急地震速報入手時の行動
＜経年比較＞

経年比較でみると、「その場で身の安全を図る」は、今回調査（60.6%）と前回調査（60.6%）では同じである。また、「屋外へ避難する」は、今回調査（9.0%）が前回調査（7.5%）を1.5ポイント上回っている。一方、「火元を確認する」は、今回調査（23.0%）は前回調査（27.3%）より4.3ポイント下回っている。

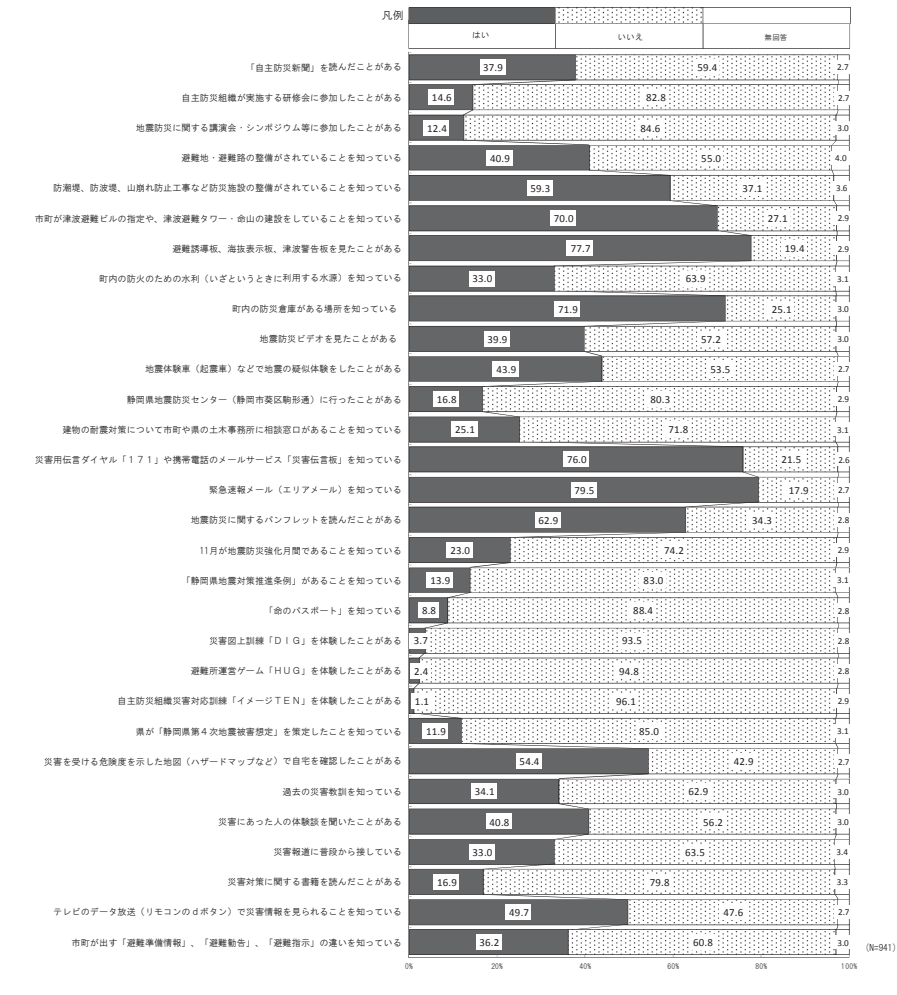


※「火元を確認する」という項目は、平成25年度設定。

※わからない・考えたことがないという項目は平成27年度から設定。

7-6 地震防災に必要な情報の入手状況

問35 次の1～30の項目について「はい」「いいえ」の欄に○をつけてください。



地震防災情報の入手についてたずねたところ、「緊急速報メール（エリアメール）を知っている」（79.5%）が最も高く、次いで「避難誘導板、海抜表示板、津波警告板を見たことがある」（77.7%）、「災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話のメールサービス「災害伝言板」を知っている」（76.0%）、「町内の防災倉庫がある場所を知っている」（71.9%）、「市町が津波避難ビルの指定や、津波避難タワー・命山の建設をしていることを知っている」（70.0%）、「地震防災に関するパンフレットを読んだことがある」（62.9%）の順となっており、これら6項目は6割以上の人が「はい」と答えている。しかしながら、全体的にみると、半数以上が「いいえ」と答えた項目の方が多く、30項目中24項目となっている。

地震防災情報の入手（認知率）を経年比較でみると、「市町が津波避難ビルの指定や、津波避難タワー・命山の建設をしていることを知っている」の認知率は、今回調査（59.3%）が前回調査（54.0%）より5.3ポイント、「自主防災組織が実施する研修会に参加したことがある」の認知率は、今回調査（79.5%）が前回調査（75.0%）より4.5ポイント高くなっている。

地震防災情報の入手（認知率）＜経年比較＞

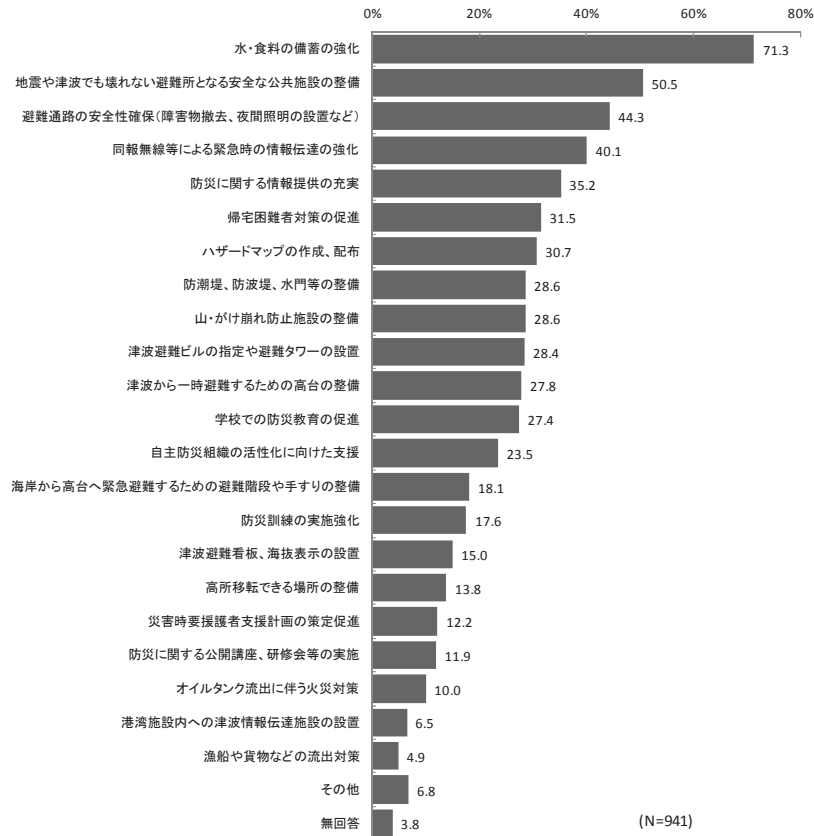
順位	地震防災情報	認知率(%)								
		平成27年 12月	平成25年 12月	平成23年 11月	平成21年 11月	平成19年 6月	平成17年 8月	平成16年 1月	平成13年 12月	平成11年 10月
1	緊急速報メール（エリアメール）を知っている	79.5	75.0	-	-	-	-	-	-	-
2	避難誘導板、海抜表示板、津波警告板を見たことがある	77.7	77.8	50.3	52.4	54.4	50.8	46.6	45.4	48.3
3	災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話のメールサービス「災害伝言板」を知っている	76.0	75.0	75.2	62.7	62.3	58.0	42.5	24.0	19.5
4	町内の防災倉庫がある場所を知っている	71.9	74.3	70.5	73.2	70.3	65.5	69.4	56.0	54.5
5	市町が津波避難ビルの指定や、津波避難タワー・命山の建設をしていることを知っている	70.0	68.0	32.3	18.3	19.5	18.1	12.4	12.9	12.6
6	地震防災に関するパンフレットを読んだことがある	62.9	77.6	66.0	71.6	75.0	72.5	69.4	68.3	72.3
7	防潮堤、防波堤、山崩れ防止工事など防災施設の整備がされていることを知っている	59.3	54.0	39.6	45.2	45.6	41.4	44.2	39.8	40.1
8	災害を受ける危険度を示した地図（ハザードマップなど）で自宅を確認したことがある	54.4	-	-	-	-	-	-	-	-
9	テレビのデータ放送（リモコンのdボタン）で災害情報を見られることを知っている	49.7	-	-	-	-	-	-	-	-
10	地震体験車（起震車）などで地震の疑似体験をしたことがある	43.9	42.7	40.4	37.3	32.3	33.4	30.8	29.1	30.6
11	避難地・避難路の整備がされていることを知っている	40.9	40.6	32.0	35.9	36.5	33.0	32.1	31.1	34.2
12	災害にあった人の体験談を聞いたことがある	40.8	-	-	-	-	-	-	-	-
13	地震防災ビデオを見たことがある	39.9	44.3	38.7	39.1	38.8	39.5	41.9	32.9	36.1
14	「自主防災新聞」を読んだことがある	37.9	58.5	52.1	63.7	68.5	60.2	61.8	62.8	61.5
15	市町が出す「避難準備情報」、「避難勧告」、「避難指示」の違いを知っている	36.2	-	-	-	-	-	-	-	-
16	過去の災害教訓を知っている	34.1	-	-	-	-	-	-	-	-
17	町内の防火のための水利（いざというときに利用する水源）を知っている	33.0	39.0	36.2	37.4	37.6	35.9	39.6	44.8	44.9
18	災害報道に普段から接している	33.0	-	-	-	-	-	-	-	-
19	建物の耐震対策について市町や県の土木事務所に相談窓口があることを知っている	25.1	31.1	31.2	32.7	33.1	37.9	38.7	25.7	21.4
20	11月が地震防災強化月間であることを知っている	23.0	29.1	19.3	22.6	26.7	22.2	29.8	27.7	24.3
21	災害対策に関する書籍を読んだことがある	16.9	-	-	-	-	-	-	-	-
22	静岡県地震防災センター（静岡市葵区駒形通）に行ったことがある	16.8	16.4	14.3	11.5	14.7	13.2	13.2	11.9	11.6
23	自主防災組織が実施する研修会に参加したことがある	14.6	21.4	16.8	21.6	20.4	17.7	18.8	19.2	19.2
24	「静岡県地震対策推進条例」があることを知っている	13.9	18.5	13.9	18.5	20.4	20.8	24.5	26.2	27.1
25	地震防災に関する講演会・シンポジウム等に参加したことがある	12.4	20.0	20.1	21.5	21.6	20.5	20.6	18.0	17.4
26	県が「静岡県第4次地震被害想定」を策定したことを知っている	11.9	20.8	-	-	-	-	-	-	-
27	「命のパスポート」を知っている	8.8	11.4	11.1	10.9	12.4	12.2	11.3	12.6	10.1
28	災害図上訓練「DIG」を体験したことがある	3.7	4.1	-	-	-	-	-	-	-
29	避難所運営ゲーム「HUG」を体験したことがある	2.4	1.9	-	-	-	-	-	-	-
30	自主防災組織災害対応訓練「イメージTEN」を体験したことがある	1.1	1.6	-	-	-	-	-	-	-

※「緊急速報メール（エリアメール）を知っている」「県が「静岡県第4次地震被害想定」を策定したことを知っている」「災害図上訓練「DIG」を体験したことがある」「避難所運営ゲーム「HUG」を体験したことがある」「自主防災組織災害対応訓練「イメージTEN」を体験したことがある」の5項目は平成25年度に設定した。

8 その他

8-1 今後の行政への要望

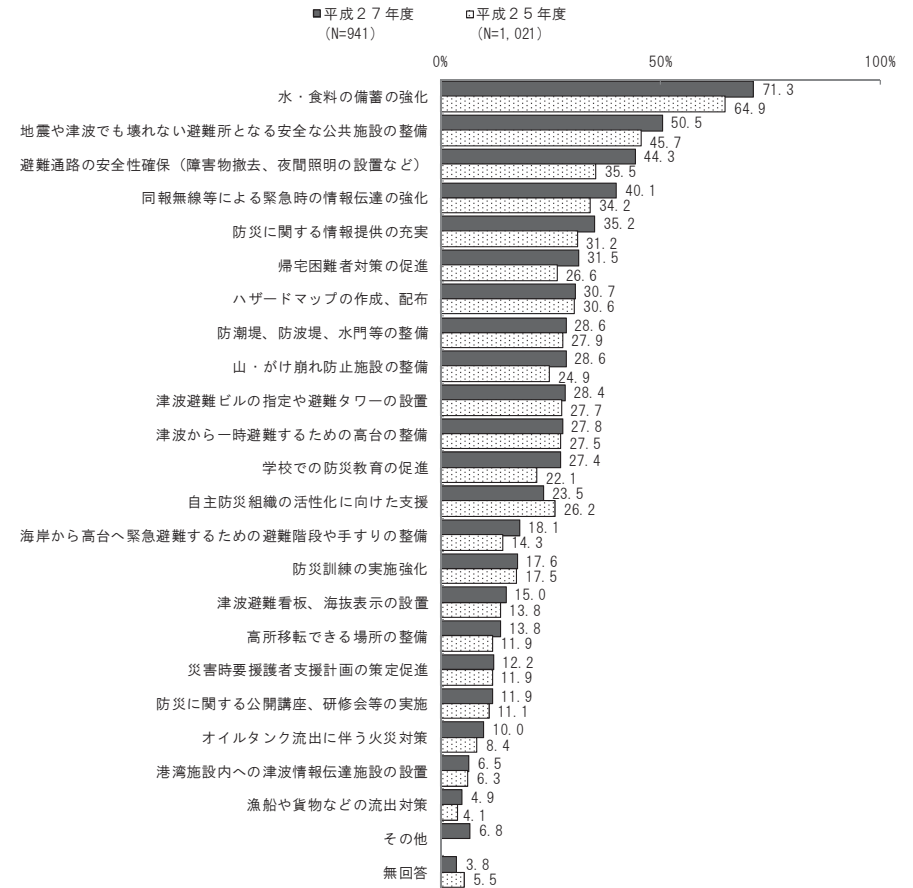
問36 あなたは、今後、県や市町に対して要望することがあります。次の中からあてはまるものをいくつでもお答えください。(M. A.)



東日本大震災の状況を踏まえて、今後の行政に要望することをたずねたところ、「水・食料の備蓄の強化」(71.3%)が最も高く、次いで「地震や津波でも壊れない避難所となる安全な公共施設の整備」(50.5%)、「避難通路の安全性確保(障害物撤去、夜間照明の設置など)」(44.3%)、「同報無線等による緊急時の情報伝達の強化」(40.1%)、「防災に関する情報提供の充実」(35.2%)、「帰宅困難者対策の促進」(31.5%)、「ハザードマップの作成、配布」(30.7%)の順となっており、これら7項目が3割を超えている。

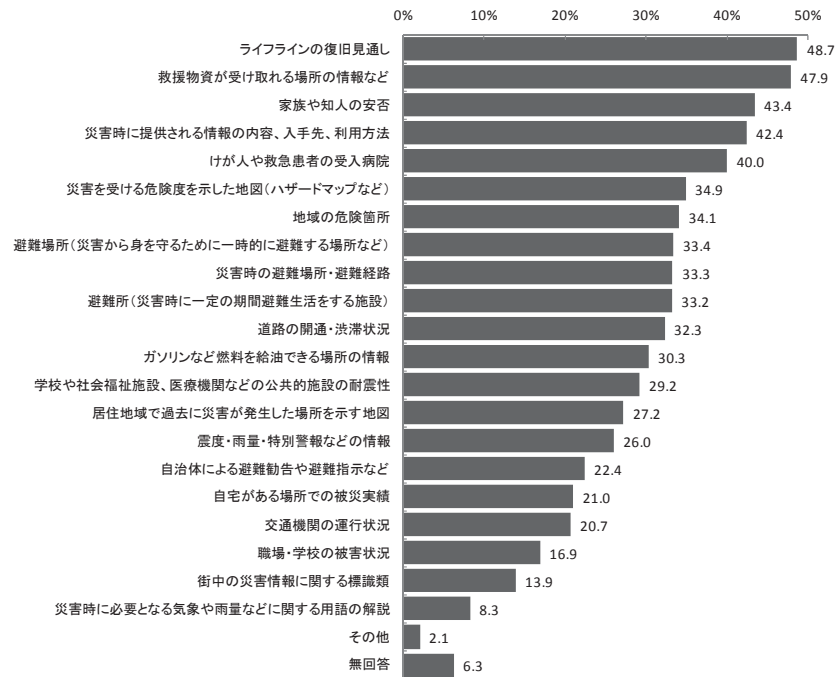
前回比較でみると「避難通路の安全性確保(障害物撤去、夜間照明の設置など)」は、今回調査(44.3%)が前回調査(35.5%)より8.8ポイント、「水・食料の備蓄の強化」は、今回調査(71.3%)が前回調査(64.9%)より6.4ポイント高くなっている。

静岡県への要望<前回比較>



8-2 充実して欲しい情報

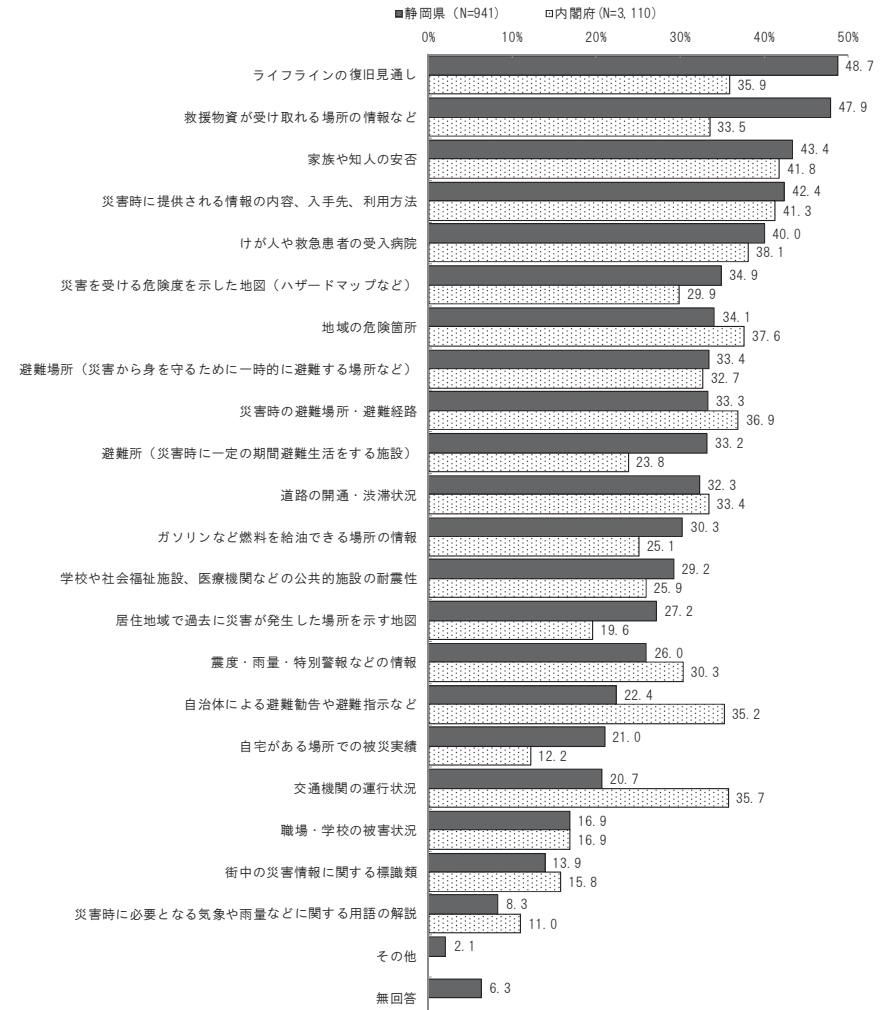
問37 (自然災害全般についてお聞きします)あなたがお住まいになっている地域で、災害の危険性に関する情報、災害対策に役立つ情報、災害時に提供される情報で、現在より充実して欲しいものはなんですか。(M. A.)



災害の危険性に関する情報、災害対策に役立つ情報、災害時に提供される情報で、現在より充実して欲しいものについてたずねたところ、「ライフラインの復旧見通し」(48.7%)が最も高く、次いで「救援物資が受け取れる場所の情報など」(47.9%)、「家族や知人の安否」(43.4%)、「災害時に提供される情報の内容、入手先、利用方法」(42.4%)、「けが人や救急患者の受入病院」(40.0%)の5項目が4割を超えている。

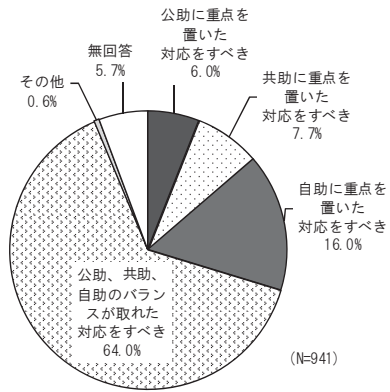
内閣府調査との比較でみると「ライフラインの復旧見通し」は48.7%と、『内閣府』(35.9%)より12.8ポイント上回っている。また、「救援物資が受け取れる場所の情報など」は47.9%と、『内閣府』(33.5%)より14.4ポイント上回っている。一方、「自治体による避難勧告や避難指示など」は22.4%と、『内閣府』(35.2%)より12.8ポイント下回っている。また、「交通機関の運行状況」は20.7%と、『内閣府』(35.7%)より15ポイント下回っている。

充実して欲しい情報<内閣府調査との比較>



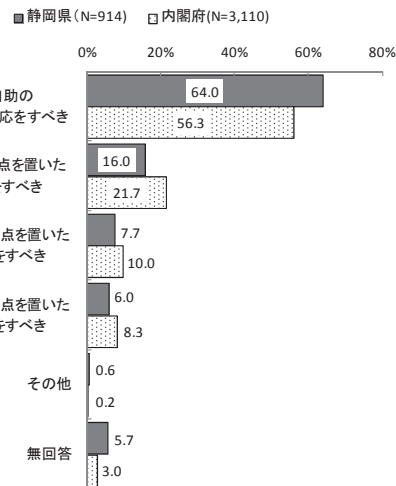
8-3 重点を置くべき防災対策（自助、共助、公助）【新規設問】

問38 災害が発生した時にその災害を軽減するために取る対応について、国や地方自治体による「公助」、地域の住民やボランティア、企業などの連携による「共助」、自らを守る「自助」というものがあります。災害発生時に取るべき対応として、このなかからあなたの気持ちに最も近いものを1つお答えください。



災害発生時に取るべき対応についてたずねたところ、「公助、共助、自助のバランスが取れた対応をすべき」(64.0%)が最も高く、次いで「自助に重点を置いた対応をすべき」(16.0%)、「共助に重点を置いた対応をすべき」(7.7%)、「公助に重点を置いた対応をすべき」(6.0%)の順となっている。

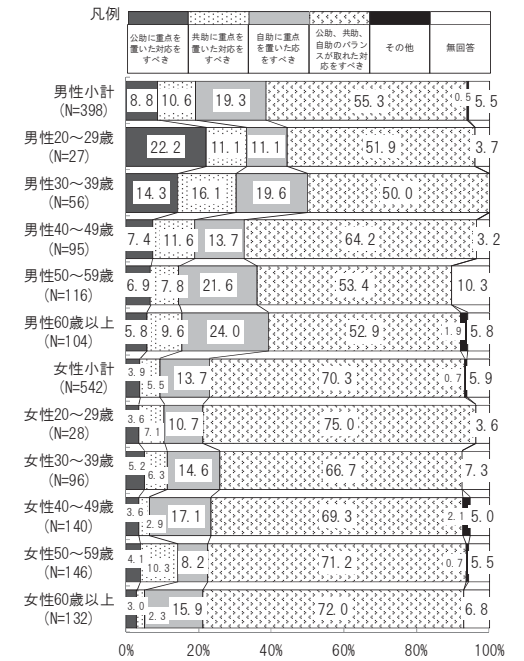
自助、共助、公助<内閣府調査との比較>



内閣府調査との比較でみると、「公助、共助、自助のバランスが取れた対応をすべき」は64.0%と、『内閣府』(56.3%)より7.7ポイント上回っている。一方、「自助に重点を置いた対応をすべき」は16.0%と、『内閣府』(21.7%)より5.7ポイント下回っている。

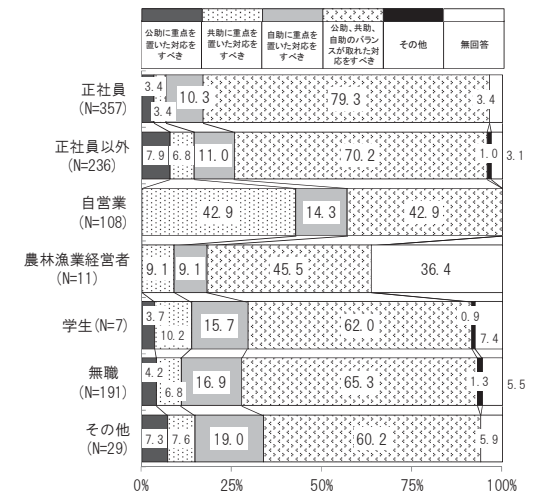
性・年代別でみると、「公助に重点を置いた対応をすべき」は、『男性20代』(22.2%)が最も高くなっている。また、「自助に重点を置いた対応をすべき」は、すべての年代で女性より男性のほうが高く、『男性60代以上』(24.0%)が最も高く、次いで『男性50代』(21.6%)の順となっている。一方、「公助、共助、自助のバランスが取れた対応をすべき」は、すべての年代で男性よりも女性のほうが高く、『女性20代』(75.0%)が最も高く、次いで『女性60代以上』(72.0%)、『女性50代』(71.2%)の順となっている。

自助、共助、公助 <性・年代別>

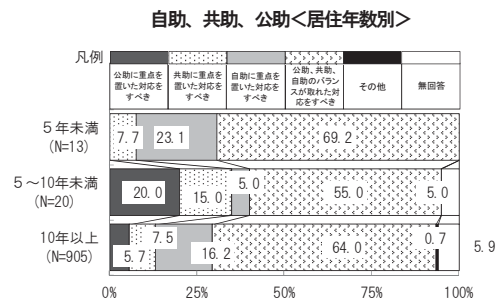


職業別でみると、いずれの職業でも「公助、共助、自助のバランスが取れた対応をすべき」が最も高く、特に『正社員』(79.3%)が高くなっている。また、「共助に重点を置いた対応をすべき」は、『自営業』(42.9%)が最も高くなっている。

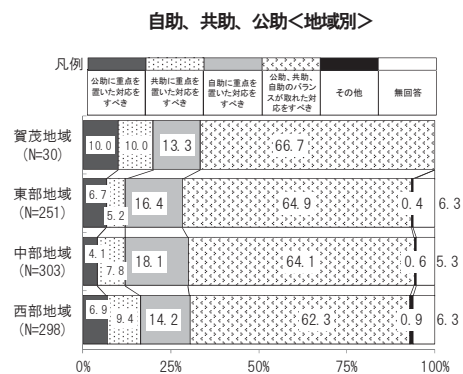
自助、共助、公助<職業別>



居住年数別で見ると、「公助に重点を置いた対応をすべき」は、『5～10年未満』(20.0%)が最も高くなっている。「公助、共助、自助のバランスが取れた対応をすべき」は、『5年未満』(69.2%)が最も高く、次いで『10年以上』(64.0%)の順となっている。



地域別で見ると、「公助に重点を置いた対応をすべき」は、『賀茂』(10.0%)が最も高くなっている。また、「自助に重点を置いた対応をすべき」は、『中部』(19.1%)が最も高くなっている。「公助、共助、自助のバランスが取れた対応をすべき」は、『東部』は(69.3%)と最も高くなっている。



付 調査票（単純集計入り）

南海トラフ地震（東海地震）についての県民意識調査

ご記入にあたってのお願い

- ※ ご記入は、あなた様ご自身がなされるようお願いいたします。
- ※ 全体で30分程度かかります。記入へのご協力をお願いします。
- ※ ご記入は、鉛筆又は黒のボールペンでお願いします。
- ※ 回答項目が用意されている質問では、当てはまる回答項目の番号を○で囲んでください。また、「その他（ ）」に当てはまる場合には、ご面倒でも詳しくご記入ください。
- ※ 回答によっては、次の質問をとばしていくところがありますので、ご注意ください。
- ※ ご回答の内容は、統計的に処理を行うこととし、その秘密の保持には十分配慮しますので、ご回答いただいた方に迷惑をかけることは決してありません。
- ※ 記入後の調査票は、誠に恐縮ですが、平成28年1月5日（火）までに、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにご返送ください。
- ※ 調査についてのお問い合わせは、次のところをお願いします。

静岡県危機管理部危機情報課（担当：今村、田村）

静岡市葵区追手町9番6号

TEL 054-221-3694

E-mail boujou@pref.shizuoka.lg.jp

まずは、あなた様やお宅のことについてご記入願います。

<全ての方にお伺いします。>

F1 性別（○は1つ）

1 男性	42.3%	2 女性	57.6%
------	-------	------	-------

0.1%

<全ての方にお伺いします。>

F2 年齢（○は1つ）

1 20～29歳	5.8%	2 30～39歳	16.2%	3 40～49歳	25.0%
4 50～59歳	27.8%	5 60～69歳	24.9%	6 70歳以上	0.2%

0.1%

<全ての方にお伺いします。>

F3 職業（○は1つ）

1 正社員として勤務（会社員、公務員、医療関係を含む）	37.9%	3 自営業	11.5%
2 正社員以外として勤務（パート、フリーターを含む）	25.1%	4 農林漁業経営者	1.2%
4 農林漁業経営者	1.2%	5 学生	0.7%
5 学生	0.7%	6 無職	20.3%
6 無職	20.3%	7 その他（具体的に	3.1%
7 その他（具体的に	3.1%		

0.2%

<全ての方にお伺いします。>

F4 あなたは、静岡県にお住みになって何年くらいになりますか。（○は1つ）

1 1年未満	0.1%	2 1～5年未満	1.3%	3 5～10年未満	2.1%
4 10年以上	96.2%				

0.3%

<全ての方にお伺いします。>

F5 あなたのお宅は、次のどれにあたりますか。（○は1つ）

1 持家（一戸建て）	91.7%	2 持家（マンション）	1.0%	3 賃貸（一戸建て）	3.6%
4 賃貸（マンション・アパート）	2.0%	5 その他（具体的に	1.2%		

<全ての方にお伺いします。>

0.5%

F6 あなたのお宅には次に該当する方がいますか。（○はいくつでも）

1 小学校に入学する前の子供	13.4%	2 小学生	14.6%	3 中高生	17.2%
4 日常生活に介護を必要とする方	8.2%	5 妊産婦	1.1%	6 65歳以上の方	52.6%
7 いない	22.8%				

<全ての方にお伺いします。>

1.4%

F7 あなたは、近所づきあいをどのようにしていますか。（○は1つ）

1 ほとんどつきあいが無い	3.8%	2 挨拶をする程度	36.5%
3 ときどき立ち話をする程度	44.5%	4 留守を頼んだり、親しく話をする	14.6%

<全ての方にお伺いします。>

0.6%

F8 あなたのお住まいの市町はどちらですか。（○は1つ）

1 下田市	2.2%	2 東伊豆町	0.0%	3 河津町	0.0%
4 南伊豆町	0.2%	5 松崎町	0.7%	6 西伊豆町	0.0%
7 沼津市	4.1%	8 熱海市	0.9%	9 三島市	2.6%
10 富士宮市	4.0%	11 伊東市	2.4%	12 富士市	6.4%
13 御殿場市	2.0%	14 裾野市	1.0%	15 伊豆市	1.0%
16 伊豆の国市	1.0%	17 函南町	1.2%	18 清水町	0.5%
19 長泉町	1.5%	20 小山町	0.0%	21 静岡市葵区	7.9%
22 静岡市駿河区	5.6%	23 静岡市清水区	7.1%	24 島田市	2.6%
25 焼津市	4.0%	26 藤枝市	4.9%	27 牧之原市	1.3%
28 吉田町	0.6%	29 川根本町	0.0%	30 浜松市中区	6.3%
31 浜松市東区	4.0%	32 浜松市西区	3.7%	33 浜松市南区	2.2%
34 浜松市北区	2.2%	35 浜松市浜北区	3.6%	36 浜松市天竜区	0.0%
37 磐田市	3.3%	38 掛川市	2.1%	39 袋井市	2.8%
40 湖西市	1.5%	41 御前崎市	1.1%	42 菊川市	0.4%
43 森町	0.5%				

0.5%

→ありがとうございました、続いて次ページ以降の大規模地震についての質問にお答えください。

以下の設問にある「南海トラフ地震（東海地震）」については、南海トラフ・駿河トラフ沿いの大地震や相模トラフ沿いの大地震など静岡県で甚大な被害の発生が懸念されている大規模地震をイメージしてお答えください。

1 南海トラフ地震（東海地震）について

<全ての方にお伺いします。>

問1 あなたは現在、南海トラフ地震（東海地震）にどの程度の関心を持っていますか。（〇は1つ）

1 非常に関心がある	36.8%	2 多少関心がある	54.7%
3 あまり関心はない	7.4%	4 全く関心はない	0.5%

<全ての方にお伺いします。>

問2 あなたは、南海トラフ地震（東海地震）に対して、2～3年前に比べて関心を持つようになりましたか。（〇は1つ）

1 2～3年前よりも関心を持つようになった	41.1%	2 変わらない	52.0%
3 2～3年前よりも関心が薄くなった	6.4%		

<全ての方にお伺いします。>

問3 あなたは、南海トラフ地震（東海地震）が発生する仕組み（メカニズム）を知っていますか。（〇は1つ）

1 よく知っている	4.7%	2 ある程度知っている	53.8%
3 あまり知らない	34.4%	4 まったく知らない	6.5%

<全ての方にお伺いします。>

問4 あなたは、南海トラフ地震（東海地震）が起こった場合、どのようなことが心配ですか。（〇はいくつでも）

1 津波、浸水、堤防の決壊	55.3%	2 土砂崩れ、崖崩れ	24.0%
3 地割れ、陥没	30.5%	4 液状化現象	22.6%
5 火災の発生	62.9%	6 ガスなどの危険物の爆発	28.3%
7 建物の倒壊	76.6%	8 タンス・冷蔵庫などの家具類の転倒	40.9%
9 外出先での避難方法がわからないこと	25.2%	10 外出先・勤務先から帰宅できなくなる	42.0%
11 家族の安否の確認ができなくなる	66.7%	12 生産活動の停止	17.3%
13 治安の混乱	19.4%	14 近くに避難場所がないこと	6.3%
15 食料や飲料水の確保が困難になる	67.5%	16 ガソリン・灯油などの燃料不足	30.5%
17 日用品の不足	46.5%	18 電気、水道、ガスの供給停止	68.4%
19 原子力発電所事故	37.9%	20 避難所生活	55.6%
21 心配なことはない	0.2%	22 その他（具体的に）	6.6%

<全ての方にお伺いします。>

問5 あなたが海岸付近に居る際に突発的な大地震があったとして、どのタイミングで避難すると思うかについてお答えください。（〇は1つ）

1 揺れが収まったら	65.2%	4 周りの人が避難している姿を見たら	5.0%
2 スマートフォンなどで津波の危険性があるか確認し、危険を認知したら	11.9%	6 沖合に高い波が見えたら	0.4%
3 津波警報を見聞きしたら	13.5%	7 足下に水が来たら	0.1%
5 海の水が引いているのを見たら	1.4%	8 その他（具体的に）	2.2%

<全ての方にお伺いします。>

問6 南海トラフ地震（東海地震）が発生した場合、津波は、一番はやいところでは地震発生後どのくらいの時間で沿岸に来ると思いますか。（〇は1つ）

1 地震発生直後～5分	46.8%	2 6～10分	28.1%	3 11～20分	10.0%
4 21～30分	5.2%	5 31～60分	1.2%	6 わからない	8.3%

<全ての方にお伺いします。>

問7 平常時に県や市町から南海トラフ地震等の情報を提供する場合、皆さまに確実に伝わると思う方法は次のどれですか。（〇は3つまで）

1 新聞記事	23.6%	2 パンフレットの全戸配布	32.2%	3 新聞の折り込みチラシ	5.0%
4 インターネット	12.1%	5 Eメール（パソコン）での受信	2.6%	6 Eメール（携帯電話）での受信	40.6%
7 県や市町の広報誌	15.3%	8 テレビによる報道	63.8%	9 ラジオによる報道	21.6%
10 自主防災新聞	2.7%	11 スマホアプリ	10.3%	12 ツイッター、フェイスブック	3.9%
14 市町の同報無線による放送（こちらは広報〇〇です で始まる放送）					43.8%

2 日ごろの防災対策について

<全ての方にお伺いします。>

問8 災害時には、非常食（アルファ米・乾パン・缶詰等）だけでなく、日常的に利用する保存・調理が容易な食品（レトルト食品・インスタントラーメン・果物等）も活用ができます。あなたのお宅では、災害時に利用できる食料は家族の何日分ありますか。（〇は1つ）

1 ない	14.6%	2 1～3日分	60.1%	3 4～6日分	18.6%	4 7日分以上	6.3%
------	-------	---------	-------	---------	-------	---------	------

<問8で「8 7日分以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

問8-1 県では現在、各家庭で災害時に利用できる食料として、家族の7日分以上の用意を勧めています。あなたのお宅で現在のところ7日分以上の食料を用意してしないのはどのような理由からですか。（〇はいくつでも）

1 手間がかかるから	19.8%	2 費用がかかるから	28.2%
3 何を準備するとよいかわからないから	15.3%	4 保管する場所がないから	36.3%
5 行政や自主防災組織が用意しているから	8.3%	6 南海トラフ地震（東海地震）が起こるとは思わないから	3.1%
7 7日分以上が必要とは知らなかったから	37.0%	8 その他（具体的に）	11.8%

<問8で「8 7日以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

問8-2 食料が必要となった場合どのようにして確保しますか。(〇はいくつでも)

1 地震が起きてから準備する	7.9%	2 東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する	21.5%
3 自主防災組織からもらう	21.1%	4 避難所でもらう	43.5%
5 考えていない	16.3%	6 その他(具体的に)	7.6%

<問8で「1 ない」以外を選んだ方にお伺いします。>

問8-3 災害時に利用できる食料として主に何を用意していますか。(〇はいくつでも)

1 非常食(アルファ化米、乾パン・缶詰等)	47.5%
2 日常的に利用する保存・調理が容易な食品(レトルト食品・インスタントラーメン・果物等)	64.6%
3 その他(具体的に)	7.0%

<全ての方にお伺いします。>

21.5%

問9 あなたのお宅では、何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり3リットルで計算してください。(〇は1つ)

1 備蓄していない	23.3%	2 1~3日分	51.5%	3 4~6日分	13.6%	4 7日以上	9.6%
-----------	-------	---------	-------	---------	-------	--------	------

<問9で「8 7日以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

2.0%

問9-1 県では現在、災害時に備えて、各家庭で家族の7日分以上の飲料水の備蓄を勧めています。あなたのお宅で現在のところ7日分以上の飲料水を備蓄していないのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

1 手間がかかるから	22.0%	2 費用がかかるから	23.3%
3 何を準備するとよいかわからないから	4.7%	4 保管する場所がないから	45.2%
5 行政や自主防災組織が用意しているから	8.5%	6 南海トラフ地震(東海地震)が起こると思わないから	2.5%
7 7日以上が必要とは知らなかったから	36.9%	8 その他(具体的に)	10.7%

<問9で「8 7日以上」以外を選んだ方にお伺いします。>

12.2%

問9-2 飲料水が必要となった場合どのようにして確保しますか。(〇はいくつでも)

1 地震が起きてから準備する	9.6%	2 東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する	24.8%
3 自主防災組織からもらう	26.2%	4 避難所でもらう	51.9%
5 考えていない	14.5%	6 その他(具体的に)	8.0%

<全ての方にお伺いします。>

13.3%

問10 あなたのお宅では、何日分の携帯トイレ・簡易トイレを備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり5回分で計算してください。(〇は1つ)

1 備蓄していない	74.6%	2 1~3日分	18.3%	3 4~6日分	3.3%	4 7日以上	2.9%
-----------	-------	---------	-------	---------	------	--------	------

<全ての方にお伺いします。>

1.0%

問11 あなたのお宅では、地震に備えて家具類の固定をしていますか。(〇は1つ)

1 大部分固定している	17.6%
2 一部固定している	50.2%
3 固定していない	30.8%

1.4%

<問10で「3 固定していない」を選んだ方にお伺いします。>

問11-1 どのような理由からですか。(〇はいくつでも)

1 建物や家具を傷めるから	13.8%	2 手間がかかるから	30.3%
3 費用がかかるから	12.4%	4 家具類を置いていない安全な部屋があるから	21.7%
5 固定をしても被害は出ると思うから	19.0%	6 南海トラフ地震(東海地震)が起こると思わないから	2.8%
7 借家だから	7.6%	8 固定方法がわからないから	10.3%
9 部屋の見た目が悪くなるから			7.6%
10 タンスなどには下に重い物を、上に軽い物を収納しているから			2.4%
11 固定方法がわかっても自分で固定できないと思うから			11.4%
12 やろうと思っているが先延ばしにしているから			48.6%
13 地震が起きても転倒・落下・移動しないと思うから			3.4%
14 転倒・落下・移動しても危険ではないと思うから			5.2%
15 その他(具体的に)			10.7%

0.7%

<全ての方にお伺いします。>

問12 あなたのお宅では、ブロック塀や門柱などの安全性について点検していますか。(〇は1つ)

1 点検した	15.4%	2 点検していない	38.9%
3 ブロック塀や門柱などはない	44.8%		

<問12で「1 点検した」を選んだ方にお伺いします。>

0.9%

問12-1 点検結果はいかがでしたか。(〇は1つ)

1 安全	88.3%	2 安全ではない	9.7%
------	-------	----------	------

<問12で「1 点検した および2 点検していない」を選んだ方にお伺いします。>

2.1%

問12-2 現在、静岡県では危険なブロック塀の撤去、改善に対して補助する制度がありますが、このことをご存じですか。(〇は1つ)

1 知っている	18.8%	2 知らなかった	67.5%
---------	-------	----------	-------

13.7%

<問12で「2 点検していない」を選んだ方にお伺いします。>

問12-3 どのような理由からですか。(〇はいくつでも)

1 点検するまでもなく危険だから	4.6%	2 点検方法が分からないから	43.7%
3 費用がかかるから	22.1%	4 借家だから	6.8%
5 手間がかかるから	17.8%	6 点検しなくても大丈夫だと思うから	26.5%
7 防災対策をしても被害が出ると思うから	10.1%	8 南海トラフ地震(東海地震)が起こると思わないから	1.6%
9 その他(具体的に)	15.6%		

2.5%

<全ての方にお伺いします。>

問 13 次にあげるものの中で、南海トラフ地震（東海地震）に備えて実施している防災対策がありますか。あてはまるものをA欄にいくつでもお答えください。また、今後、1年間以内（平成28年12月まで）にあらためて実施しようと考えている防災対策がありますか。次の中からあてはまるものをB欄にいくつでもお答えください。（〇はA・Bの欄にいくつでも）

質 問 項 目	A欄 実施している	B欄 平成28年12月まで に実施する予定
1 家具を何も置いていない部屋を寝室にしている	34.4%	7.0%
2 ガスを使わないときには元栓を締めるようにしている	28.9%	10.2%
3 火気器具のまわりを整理するようにしている	54.2%	6.3%
4 石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにしている	55.7%	1.4%
5 風呂に水を入れるようにしている	34.0%	9.8%
6 消火器や水を入れたバケツなどを用意するようにしている	32.3%	10.7%
7 ガラス飛散防止をしている	13.9%	10.6%
8 非常持出品を用意している	47.3%	20.7%
9 棚の上の重いものをおろしている	35.4%	8.9%
10 割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意している	39.9%	14.1%
11 防災についての家族の役割を話しあっている	8.0%	20.0%
12 家の中で「とっさ」に逃げる場所を決めている	27.4%	17.7%
13 家族との連絡方法を決めている	23.2%	25.2%
14 地震の時に避難する場所を決めている	49.5%	12.3%
15 家族が離れればなれになったとき落ち合う場所を決めている	29.8%	23.9%
16 自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認している	28.7%	15.3%
17 幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めている	17.2%	4.0%
18 感震ブレーカー（揺れを感知して電気を止める器具）を設置している	12.8%	7.2%
19 外出時には、携帯電話やスマートフォンなどの予備電池を携帯している	16.7%	18.5%
	4.6%	48.1%

<問13で「8 非常持出品を用意している」のA欄、B欄で〇が付いた方にお伺いします。>

問 13-1 非常持出品として何を用意している、もしくは用意する予定ですか。（〇はいくつでも）

1 携帯ラジオ	65.5%	2 懐中電灯	87.5%	3 予備の乾電池	44.4%
4 ヘルメット・防災頭巾	38.6%	5 非常食	74.8%	6 飲料水	68.6%
7 ティッシュペーパー・トイレトペーパー	64.1%	8 スプーン・はし・カップ	31.7%		
9 下着・くつ下	39.8%	10 救急薬品・常備薬	47.8%	11 お薬手帳	15.5%
12 タオル	55.8%	13 手ぶくろ	47.2%	14 現金	31.4%
15 雨具	31.7%	16 毛布又は寝袋	25.8%	17 ビニール袋	49.1%
18 筆記用具・ノート	28.1%	19 ライター・マッチ	39.7%	20 ナイフ・缶切り	25.5%
21 生理用品・おむつ	27.3%	22 くつ・スリッパ	28.6%		

4.2%

<全ての方にお伺いします。>

問 14 あなたの自宅はどのような建物や家財に関わる保険に加入していますか。（〇はいくつでも）

1 火災保険	65.9%	2 農協の建物更生共済（建更）	19.0%	3 地震保険	45.3%
4 家財等の保険	28.8%	5 加入していない	7.2%	6 わからない	8.6%

1.2%

<問14で「3 地震保険」を選ばなかった方にお伺いします。>

問 14-1 地震保険に加入していない理由は何ですか。（〇はいくつでも）

1 保険料が高いから	41.0%	2 地震が起きても建物被害を受けないと思うから	5.0%
3 地震保険だけでは、家を再建できないと思うから	21.7%	4 借家だから	7.4%
5 地震は起こらないと思うから	1.7%	6 地震保険の内容がよくわからないから	14.2%
7 地震保険の加入を勧められなかったから	3.9%	8 どこに相談したらよいかわからなかったから	4.9%
9 その他（具体的に	15.5%		）

<全ての方にお伺いします。>

14.2%

問 15 あなたは、日常において災害対策を検討するにあたり具体的に相談したいところはありますか。（〇はいくつでも）

1 地元の消防団	8.0%	2 地元の自主防災組織（町内会）	25.6%
3 国	2.1%	4 県	5.6%
5 市区町	28.4%	6 防災士	4.6%
7 防災ボランティア	4.7%	8 勤務先	7.2%
9 学校	3.3%	10 近所の人	13.6%
11 地元の警察署	3.2%	12 家族や知人	26.4%
13 相談したいところはない	25.7%	14 その他（具体的に	1.4%）

7.9%

<全ての方にお伺いします。>

問 16 東海地震が予知され警戒宣言が発せられたときや、突然、南海トラフ地震（東海地震）が起きたときの避難のため、市町ではあらかじめ避難地を指定していますが、あなたの住む地域の避難地をご存知ですか。（〇は1つ）

1 どこが避難地であるか知っている	86.8%	2 避難地があることは知っているが場所は知らない	8.7%
3 全く知らない	3.7%		

0.7%

3 住宅の耐震補強について

昭和56年以前の木造住宅は、古い耐震基準の建物で、予想される南海トラフ地震（東海地震）が発生した場合には、立地する地盤等にもよりますが、大きな被害が起こる可能性があるかと推測されます。このことを踏まえた上でお答えください。

<全ての方にお伺いします。>

問 17 あなたの住まいの家は、次のどれにあたりますか。（〇は1つ）

1 木造住宅	75.6%	2 鉄骨造住宅	16.5%
3 鉄筋コンクリート造住宅	6.5%		

→木造住宅以外の方は、問18へ進んでください。 1.5%

<問17で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺いします。>

問17-1 あなたのお住まいの「木造住宅」は、いつ建てられた住宅ですか。(〇は1つ)

1 昭和56年5月以前	28.1%	2 昭和56年6月以降	70.3%
→昭和56年6月以降の方は、問18へ進んでください。 1.5%			

<問17-1で「1 昭和56年5月以前」を選んだ方にお伺いします。>

問17-2 市町では、昭和56年5月以前に建てられた木造住宅の耐震診断を無料で実施していることを知っていますか。(〇は1つ)

1 知っている	59.5%	2 知らない	38.0%
2.5%			

<問17-1で「1 昭和56年5月以前」を選んだ方にお伺いします。>

問17-3 今後、あなたのお住まいの家の耐震化をする場合、県や市町に対して要望することがあります。次の中からあてはまるものをお選びください。(〇はいくつでも)

1 相談窓口の設置	27.5%	2 地区ごとの説明会の実施	12.0%
3 専門家の派遣	22.5%	4 耐震補強工事に対する助成制度の拡充	47.0%
5 低金利資金による貸付	16.5%	6 アパート等のオーナーに対する指導	8.0%
7 なぜ危険なのかを示した詳細な説明パンフレット	19.0%		
16.5%			

<問17-1で「1 昭和56年5月以前」を選んだ方にお伺いします。>

問17-4 耐震診断をしたことがありますか。(〇は1つ)

1 ある	24.0%	2 検討中	6.5%	3 ない	67.0%
2.5%					

<問17-4で「3 ない」を選んだ方にお伺いします。>

問17-5 耐震診断をしないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

1 診断方法がわからないから	24.6%	2 手間がかかるから	27.6%
3 費用がかかるから	44.0%	4 診断しても大地震の被害は避けられないと思うから	32.8%
5 南海トラフ地震等が起こると思わないから	0.7%	6 借家だから	14.2%
7 診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくってあり必要だと思わないから	1.5%		
8 その他(具体的に)	13.4%		
0.7%			

<全ての方にお伺いします。>

問18 現在、静岡県では木造住宅の耐震化促進事業『プロジェクト^{トウカイ}“TOUKAI(東海・倒壊)ー0(ゼロ)”』を推進しています。この事業の内容は、①専門家による無料耐震診断 ②耐震補強計画策定への補助 ③耐震補強工事への補助の3つの項目からなっています。あなたは、このことをご存知ですか。(〇は1つ)

1 知っている	21.7%	2 名前だけしか知らない	19.7%	3 知らなかった	56.9%
1.8%					

<問18で「1 知っている」を選んだ方にお伺いします。>

問18-1 あなたは『プロジェクト^{トウカイ}“TOUKAI(東海・倒壊)ー0(ゼロ)”』をどのようにして知りましたか。(〇はいくつでも)

1 新聞記事	29.4%	2 県や市町の広報誌	56.9%	3 県や市町のパンフレット	29.9%
4 県や市町に直接聞いた	3.9%	5 自主防災新聞	4.4%	6 テレビ・ラジオ	35.3%
7 回覧板	19.1%	8 県のホームページ	5.9%	9 市町のホームページ	3.4%
10 市町からのアンケート調査	1.5%				

<問18で「1 知っている」を選んだ方にお伺いします。>

問18-2 あなたは『プロジェクト^{トウカイ}“TOUKAI(東海・倒壊)ー0(ゼロ)”』を知って、何か行った行動(現在行っている場合を含む)はありますか。次の中からあてはまるものをお選びください。(〇はいくつでも)

1 簡易耐震診断を自分で行った	4.4%	2 専門家による耐震診断を実施した	15.7%
3 耐震補強計画を作成した	0.5%	4 自宅の耐震補強工事を実施した	10.3%
5 今後、自宅の耐震補強をしたいと考えている	3.9%	6 今の自宅を建て替えることにした	6.9%
7 自宅は木造住宅ではないので、特に何もしていない	19.6%		
8 自宅は木造住宅であるが、耐震性は確保されているので特に何もしていない	31.9%		
9 自宅は木造住宅であり、耐震性は確保されていない(または明らかではない)が、特に何もしていない	13.7%		
6.4%			

4 自主防災組織・防災訓練について

<全ての方にお伺いします。>

問19 あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。(〇は1つ)

1 入っている	61.8%	2 入っていない	13.1%
3 自主防災組織はない	0.5%	4 わからない	22.8%

<問19で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。>

問19-1 あなた自身は、自主防災組織の活動に参加していますか。(〇は1つ)

1 自主防災組織の会長や副会長、防災委員など、自主防災組織の役員として参加している	10.0%
2 役員以外の自主防災組織内で定まった役割(消火班、避難誘導班など)で参加している	12.5%
3 自主防災組織内で定まった役割がないが、防災訓練など何らかの活動に参加している	57.0%
4 参加していない	19.8%

<問19で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。>

問19-2 あなたの地区の自主防災組織の活動は活発だと思いますか。(〇は1つ)

1 活発である	10.3%	2 まあまあ活発である	52.1%	3 あまり活発ではない	19.4%
4 活発ではない	6.2%	5 わからない	7.6%		

<全ての方にお伺いします。>

問20 あなたは、過去1年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)

1 総合防災訓練(9月1日前後の8~9月に実施)に参加した	28.7%
2 地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11~12月に実施)に参加した	37.6%
3 その他の防災訓練に参加した	13.3%
4 機会がなかった(訓練はなかった)	5.2%
5 参加しなかった	33.8%

1.4%

>問20で「1 総合防災訓練(9月1日前後の8~9月に実施)に参加した」「2 地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11~12月に実施)に参加した」「3 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方にお伺いします。
>問20-1 その防災訓練はどちらで参加しましたか。(〇はいくつでも)

1 自主防災組織(町内会)での訓練に参加した	64.4%	2 職場や学校での訓練に参加した	25.7%
3 その他(訓練の実施主体を具体的に	1.9%)	

17.2%

<問20で「1 総合防災訓練(9月1日前後の8~9月に実施)に参加した」「2 地域防災訓練(12月第一日曜日を中心に11~12月に実施)に参加した」「3 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方にお伺いします。
>問20-2 参加してみてどのようなことを感じましたか。(〇はいくつでも)

1 防災の大切さを知る機会となった	38.4%
2 災害時に自らが取るべき行動について知る機会となった	36.3%
3 災害時の防災組織の活動について知る機会となった	32.0%
4 内容が形式的であったりイベント化したりしていた	34.7%
5 住民・企業・ボランティアなど地域全体の連携がとれていなかった	3.9%
6 参加者が限られているので、より多くの人が参加できるようにするとよいと思った	27.3%
7 家庭で防災について話し合いをするきっかけとなった	12.0%
8 その他(具体的に	4.4%

2.3%

<問20で「6 参加しなかった」を選んだ方にお伺いします。>

問20-3 参加しなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1 仕事や用事があったから	65.6%	2 訓練実施を知らなかったから	8.3%
3 面倒だったから	9.9%	4 参加の必要性を感じないから	4.1%
5 毎回同じ訓練内容だから	10.2%		
6 具体的な日時・場所・申込方法がわからなかったから	5.7%		
7 関心・興味がなかったから	4.5%	8 時間的に拘束されと思ったから	5.4%
9 知り合いが参加していなかったから	1.3%	10 自分は災害に遭わないと思ったから	0.3%
11 その他(具体的に	15.0%)	

0.3%

<全ての方にお伺いします。>

問21 あなたは避難所で避難生活を送る場合、どのようなことが心配ですか。次の1~12について、あてはまる項目にそれぞれ1ずつ〇をつけてください。

質 問 項 目	非常に心配	ある程度心配	あまり心配はない	全く心配していない	該当しない	
1 食料や水の問題	50.2%	39.7%	7.9%	0.6%	0.0%	1.6%
2 日用品(毛布や下着など)の問題	35.7%	48.6%	11.8%	1.2%	0.1%	2.7%
3 自分や家族が病気になったときの医療問題	57.8%	32.7%	5.8%	0.5%	0.1%	3.0%
4 乳幼児、高齢者、体の不自由な者がいるので、一般の人と一緒に生活できるか心配	27.2%	23.1%	14.6%	1.6%	26.8%	6.8%
5 洗濯や入浴の問題	40.1%	43.5%	13.5%	0.7%	0.0%	2.2%
6 トイレの問題	60.6%	30.5%	6.7%	0.6%	0.0%	1.6%
7 応急の仮設住宅がいつ建設されるか心配	38.7%	39.4%	16.6%	1.3%	0.4%	3.6%
8 不安や精神的なストレスのため体調を崩してしまいそうで心配	38.9%	39.5%	15.9%	2.6%	0.2%	2.9%
9 プライバシーの問題	44.0%	39.4%	13.4%	1.0%	0.0%	2.2%
10 離ればなれになった家族や親戚などの安否が気になる	65.7%	23.6%	7.0%	0.4%	0.6%	2.7%
11 ペット(犬や小鳥など)の問題	19.1%	13.2%	7.2%	2.0%	52.3%	6.2%
12 避難する場所が少なく(狭く)、全ての避難者を収容できるか心配	35.8%	41.9%	17.1%	1.9%	1.2%	2.1%

5 南海トラフ地震（東海地震）が突然発生したときの行動について

以下の質問は、突然、震度6強（固定していない家具類はほとんど倒れ、足元がさらわれ、立っていることができないような揺れ）以上の地震が起こった場合を想定してお伺いします。

<全ての方にお伺いします。>

問 22 平日の午前 11 時頃に突然地震が起こった場合、揺れがおさまったらあなたがまず最初のことを下記の項目の中から1つ選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に○をつけてください。

選 択 項 目	A欄 まず最初のこと (○は1つ)	B欄 その次にすること (○は3つ)
1 テレビやラジオで正確な情報を得る	44.1%	40.0%
2 電話で行政に情報を確認する	0.3%	2.1%
3 インターネットで情報を確認する	4.6%	15.5%
4 非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする	4.9%	49.3%
5 家の中の整理や火の始末をする	18.9%	35.4%
6 家族の安否を確認する（災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等）	9.7%	52.1%
7 子供を学校や幼稚園へ迎えに行く	2.1%	12.8%
8 買出しに行く	0.1%	3.0%
9 預金を引き出しに行く	0.0%	2.7%
10 帰宅する	2.7%	16.9%
11 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	3.6%	10.8%
12 指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する	7.8%	37.9%
13 何もしない	0.0%	0.2%
	1.3%	3.7%

<全ての方にお伺いします。>

問 23 家族が離ればなれとなっている時に突然、地震が起こった場合、家族の安否を確認する手段として何を使うことを考えていますか。(○はいくつでも)

1 Eメール（携帯電話）	65.2%	2 直接電話	61.4%
3 共通の知人へ電話	7.4%	4 ツイッター	1.2%
5 フェイスブック	2.1%	6 ライン	30.1%
7 災害用伝言ダイヤル「171」	35.8%	8 携帯電話のメールサービス「災害伝言板」	27.2%
9 共通の集合場所などを決めているので連絡を取らない	5.1%		
10 特に考えていない	3.4%	11 その他（具体的に	1.9%
			1.6%

<全ての方にお伺いします。>

問 24 突然、地震が起こった場合、あなたは自主的に地域の防災活動に参加しますか。(○は1つ)

1 参加する	37.6%	2 参加しない	9.2%	3 わからない	49.4%
--------	-------	---------	------	---------	-------

<問 24 で「参加する」を選んだ方にお伺いします。>

3.7%

問 24-1 どのような活動に参加することを考えていますか。(○はいくつでも)

1 火災発生時の初期消火	58.2%	2 要救助者の救出・救助	55.6%
3 負傷者の応急手当・搬送	46.9%	4 避難の呼びかけ、避難の誘導	46.0%
5 避難所の運営	30.2%	6 住民の安否確認	37.0%
7 避難行動要支援者の所在確認及び避難支援	14.7%	8 被害情報の収集	17.2%

<全ての方にお伺いします。>

0.6%

問 25 突然、地震が起こった場合、あなた自身の安全についてどう考えていますか。

1 まず無事だと思う	17.2%	2 軽いけががぐらいはするかもしれない	40.2%
3 大けがをやる危険があると思う	12.5%	4 死ぬ恐れもあると思う	27.2%

202 <全ての方にお伺いします。>

2.9%

問 26 あなたがご自宅にいるときに、突然地震が起こった場合、あなたやご家族は一時的に避難しますか。また、避難する場合はどこに避難しますか。(○は1つ)

1 避難しない	29.8%	2 市町が指定した避難地	50.2%
3 自宅周辺の広場や高台など指定された避難地以外の場所	17.0%	4 親戚、知人宅	1.8%

1.3%

<問 26 で「1 避難しない」以外を選んだ方にお伺いします。>

問 26-1 避難する理由は何ですか。(○はいくつでも)

1 自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから	27.0%
2 自宅又はその周辺は、山・がけ崩れの危険が予想されるから	8.8%
3 自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから	14.3%
4 自宅の耐震性がないから（自宅が倒壊またはその危険があるから）	21.3%
5 自宅の倒壊の危険はないが、不安だから	33.7%

<問 26-1 で「1 自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから」を選んだ方にお伺いします。>

18.6%

問 26-1-1 地震が起こってから何分後に避難開始しますか。(○は1つ)

1 地震発生直後～5分	54.5%	2 6～10分	25.0%	3 11～20分	9.8%
4 21～30分	4.5%	5 31～60分	0.0%	6 60分以上	0.0%
7 わからない	6.3%				

0.0%

<問 26 で「1 避難しない」以外を選んだ方にお伺いします。>

問 26-2 避難するときの交通手段は何ですか。(○は1つ)

1 徒歩	77.2%	2 自転車	1.4%	3 原付・バイク	0.3%	4 自家用車	6.5%
5 公共交通機関（電車・バス・タクシー等）	0.0%						

6 警戒宣言が発せられたときの行動について

以下の質問は、南海トラフ地震のうち駿河トラフ沿いで大地震（東海地震）が発生するおそれがあると認められ、内閣総理大臣から「警戒宣言」が発せられた場合を想定してお伺いします。

<全ての方にお伺いします。>

問 27 平日の午前11時頃に警戒宣言が発せられたと仮定して、あなたがまず最初のことを下記の項目の中から**1つ**を選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを**3つ**選んでB欄に○をつけてください。

選 択 項 目	A欄 まず最初のこと (○は1つ)	B欄 その次にすること (○は3つ)
1 テレビやラジオで正確な情報を得る	49.7%	31.1%
2 行政に情報を確認する	0.6%	3.2%
3 インターネットで情報を確認する	5.6%	15.6%
4 非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替えたりする	8.8%	50.5%
5 家の中の整理や火の始末をする	10.6%	35.6%
6 飲料水の用意や風呂に水をためる	1.3%	26.2%
7 家族と連絡をとる	9.9%	52.8%
8 子供を学校や幼稚園へ迎えに行く	2.6%	11.7%
9 買出しに行く	0.1%	6.1%
10 預金を引き出しに行く	0.0%	3.7%
11 帰宅する	3.0%	15.1%
12 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	3.0%	8.0%
13 指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する	3.1%	22.5%
14 何もしない	0.1%	0.3%

<全ての方にお伺いします。>

問 28 あなたのお宅は、警戒宣言が発せられたとき、避難が必要な地域ですか。(○は1つ)

1 避難が必要な地域	34.3%	2 避難する必要のない地域	23.5%	3 わからない	39.6%
------------	-------	---------------	-------	---------	-------

<問 28 で「1 避難が必要な地域」を選んだ方にお伺いします。>

2.6%

問 28-1 避難が必要となる理由は何ですか。(○はいくつでも)

1 自宅又はその周辺は、津波の危険が予想されるから	59.4%
2 自宅又はその周辺は、山・がけ崩れの危険が予想されるから	22.0%
3 自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから	18.6%
4 自宅の耐震性がないから（自宅が倒壊またはその危険があるから）	23.5%
5 自宅の倒壊の危険はないが、不安だから	18.0%

0.3%

<全ての方にお伺いします。>

問 29 あなたやご家族は、自宅において警戒宣言が発せられた場合、避難しますか。(○は1つ)

1 市町で指定した避難地	51.1%	2 指定された避難地以外の安全な場所	8.0%
3 親戚、知人宅	1.8%	4 自宅にいる	37.3%

<問 29 で「1 市町で指定した避難地」「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問 29-1 避難するときの交通手段は何ですか。(○は1つ)

1 徒歩	85.9%	2 自転車	1.4%	3 原付・バイク	0.2%	4 自家用車	8.6%
5 公共交通機関（電車・バス・タクシー等）							0.2%

<問 29 で「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」「4 自宅にいる」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問 29-2 市町で指定した避難地へ避難しない理由は何ですか。(○はいくつでも)

1 避難地が遠すぎるから	8.6%	2 避難地へ行く途中の道に危険なところがあるから	16.0%
3 避難地自体が安全だと思わないから	22.6%	4 避難所が狭いから	11.1%
5 どこが避難地なのか知らないから	4.1%	6 避難の際、住民の間でパニックなどの混乱が予想されるから	19.4%
7 高齢者や病人がいるから	11.1%	8 自主防災組織などの避難誘導體制が不十分であるから	2.5%
9 避難地ではプライバシーが守れないから	12.2%	10 その他（具体的	19.0%

25.3%

7 東海地震に関する情報について

<全ての方にお伺いします。>

問 30 東海地震に関連する情報として「東海地震に関する調査情報」「東海地震注意情報」「東海地震予知情報（警戒宣言）」の3つがあります。あなたは、このことをご存知ですか。(○は1つ)

1 情報の詳しい内容まで知っている	3.3%	2 情報名は知っているが内容までは知らない	50.7%
3 全く知らない	43.9%		

<全ての方にお伺いします。>

2.1%

問 31 あなたは、現時点で東海地震は予知できると思えますか。(○は1つ)

1 完全に予知できると思う	0.3%	2 8割以上の確率で予知できると思う	6.1%
3 5割くらいの確率で予知できると思う	19.3%		
4 全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う	58.6%		
5 予知はできないと思う	14.0%		

<全ての方にお伺いします。>

1.7%

問 32 平成 25 年 3 月 7 日から、巨大地震の発生時には予想される津波の高さを「巨大」「高い」という分かりやすい表現で発表するなど、津波警報が改善されました。あなたは、このことをご存知ですか。(○は1つ)

1 改善内容まで知っている	5.6%		
2 改善されたことは知っているが内容までは知らない	48.1%	3 全く知らない	44.7%

1.5%

<全ての方にお伺いします。>

問 33 地震の強い揺れが来ることを、揺れる前にお知らせする情報である緊急地震速報が、気象庁からテレビ、ラジオ、緊急速報メール（エリアメール）などを通じて提供されています。緊急地震速報は、揺れの大きさの予想などに誤差が含まれる情報であることをご存知ですか。（〇は1つ）

1 知っている	60.0%	2 知らない	37.0%
3 緊急地震速報自体を知らない	1.1%		

1.9%

<全ての方にお伺いします。>

問 34 あなたは、屋内で緊急地震速報を受け取ったとき、まずはどのように行動しますか。（〇は1つ）

1 その場で身の安全を図る	60.6%	2 屋外へ避難する	9.0%
3 火元を確認する	23.0%	4 何もしない	1.5%
5 わからない・考えたことがない	3.7%	6 その他（具体的に	1.1%

1.2%

<全ての方にお伺いします。>

問 35 次の1～30の項目について「はい」「いいえ」の欄に〇をつけてください。

質 問 項 目	はい	いいえ	
1 「自主防災新聞」を読んだことがある	37.9%	59.4%	2.7%
2 自主防災組織が実施する研修会に参加したことがある	14.6%	82.8%	2.7%
3 地震防災に関する講演会・シンポジウム等に参加したことがある	12.4%	84.6%	3.0%
4 避難地・避難路の整備がされていることを知っている	40.9%	55.0%	4.0%
5 防潮堤、防波堤、山崩れ防止工事など防災施設の整備がされていることを知っている	59.3%	37.1%	3.6%
6 市町が津波避難ビルの指定や、津波避難タワー・命山の建設をしていることを知っている	70.0%	27.1%	2.9%
7 避難誘導板、海拔表示板、津波警告板を見たことがある	77.7%	19.4%	2.9%
8 町内の防火のための水利（いざというときに利用する水源）を知っている	33.0%	63.9%	3.1%
9 町内の防災倉庫がある場所を知っている	71.9%	25.1%	3.0%
10 地震防災ビデオを見たことがある	39.9%	57.2%	3.0%
11 地震体験車（起震車）などで地震の疑似体験をしたことがある	43.9%	53.5%	2.7%
12 静岡県地震防災センター（静岡市葵区駒形通）に行ったことがある	16.8%	80.3%	2.9%
13 建物の耐震対策について市町や県の土木事務所に相談窓口があることを知っている	25.1%	71.8%	3.1%
14 災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話のメールサービス「災害伝言板」を知っている	76.0%	21.5%	2.6%
15 緊急速報メール（エリアメール）を知っている	79.5%	17.9%	2.7%
16 地震防災に関するパンフレットを読んだことがある	62.9%	34.3%	2.8%
17 11月が地震防災強化月間であることを知っている	23.0%	74.2%	2.9%
18 「静岡県地震対策推進条例」があることを知っている	13.9%	83.0%	3.1%
19 「命のパスポート」を知っている	8.8%	88.4%	2.8%
20 災害図上訓練「DIG」を体験したことがある	3.7%	93.5%	2.8%
21 避難所運営ゲーム「HUG」を体験したことがある	2.4%	94.8%	2.8%
22 自主防災組織災害対応訓練「イメージTEN」を体験したことがある	1.1%	96.1%	2.9%
23 県が「静岡県第4次地震被害想定」を策定したことを知っている	11.9%	85.0%	3.1%
24 災害を受ける危険度を示した地図（ハザードマップなど）で自宅を確認したことがある	54.4%	42.9%	2.7%
25 過去の災害教訓を知っている	34.1%	62.9%	3.0%
26 災害にあった人の体験談を聞いたことがある	40.8%	56.2%	3.0%
27 災害報道に普段から接している	33.0%	63.5%	3.4%
28 災害対策に関する書籍を読んだことがある	16.9%	79.8%	3.3%
29 テレビのデータ放送（リモコンのdボタン）で災害情報を見られることを知っている	49.7%	47.6%	2.7%
30 市町が出す「避難準備情報」、「避難勧告」、「避難指示」の違いを知っている	36.2%	60.8%	3.0%

8 その他

<全ての方にお伺いします。>

問 36 あなたは、今後、県や市町に対して要望することがあります。次の中からあてはまるものをいくつかお答えください。(〇はいくつでも)

1 防潮堤、防波堤、水門等の整備	28.6%
2 津波から一時避難するための高台の整備	27.8%
3 津波避難ビルの指定や避難タワーの設置	28.4%
4 海岸から高台へ緊急避難するための避難階段や手すりの整備	18.1%
5 避難通路の安全性確保（障害物撤去、夜間照明の設置など）	44.3%
6 地震や津波でも壊れない避難所となる安全な公共施設の整備	50.5%
7 高所移転できる場所の整備	13.8%
8 津波避難看板、海拔表示の設置	15.0%
9 山・がけ崩れ防止施設の整備	28.6%
10 自主防災組織の活性化に向けた支援	23.5%
11 防災に関する公開講座、研修会等の実施	11.9%
12 学校での防災教育の促進	27.4%
13 防災訓練の実施強化	17.6%
14 災害時要援護者支援計画の策定促進	12.2%
15 帰宅困難者対策の促進	31.5%
16 ハザードマップの作成、配布	30.7%
17 水・食料の備蓄の強化	71.3%
18 同報無線等による緊急時の情報伝達の強化	40.1%
19 防災に関する情報提供の充実	35.2%
20 漁船や貨物などの流出対策	4.9%
21 オイルタンク流出に伴う火災対策	10.0%
22 港湾施設内への津波情報伝達施設の設置	6.5%
23 その他（具体的に	6.8%

3.8%

<全ての方にお伺いします。>

問 37 （自然災害全般についてお聞きします）あなたがお住まいになっている地域で、災害の危険性に関する情報、災害対策に役立つ情報、災害時に提供される情報で、現在より充実して欲しいものは何ですか（〇はいくつでも）

1 居住地域で過去に災害が発生した場所を示す地図	27.2%
2 自宅がある場所での被災実績	21.0%
3 災害時の避難場所・避難経路	33.3%
4 災害を受ける危険度を示した地図（ハザードマップなど）	34.9%
5 街中の災害情報に関する標識類	13.9%
6 学校や社会福祉施設、医療機関などの公共施設の耐震性	29.2%
7 災害時に提供される情報の内容、入手先、利用方法	42.4%
8 災害時に必要となる気象や雨量などに関する用語の解説	8.3%
9 震度・雨量・特別警報などの情報	26.0%
10 地域の危険箇所	34.1%
11 職場・学校の被害状況	16.9%
12 交通機関の運行状況	20.7%
13 道路の開通・渋滞状況	32.3%
14 自治体による避難勧告や避難指示など	22.4%
15 避難場所（災害から身を守るために一時的に避難する場所など）	33.4%
16 避難所（災害時に一定の期間避難生活をする施設）	33.2%
17 家族や知人の安否	43.4%
18 けが人や救急患者の受入病院	40.0%
19 救援物資が受け取れる場所の情報など	47.9%
20 ガソリンなど燃料を給油できる場所の情報	30.3%
21 ライフラインの復旧見通し	48.7%
22 その他（具体的に	2.1%

6.3%

<全ての方にお伺いします。>

問 38 災害が発生した時にその被害を軽減するために取る対応について、国や地方公共団体による「公助」、地域の住民やボランティア、企業などの連携による「共助」、自ら身を守る「自助」というものがあります。災害発生時に取るべき対応として、このなかからあなたの気持ちに最も近いものを1つお答えください（〇は1つ）

1 公助に重点を置いた対応をすべき	6.0%
2 共助に重点を置いた対応をすべき	7.7%
3 自助に重点を置いた対応をすべき	16.0%
4 公助、共助、自助のバランスが取れた対応をすべき	64.0%
5 その他（具体的に	0.6%

5.7%

お疲れ様でした。

質問は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

平成27年度 南海トラフ地震（東海地震）

についての県民意識調査

報告書

印刷・発行 平成28年3月

発行：静岡県危機管理部危機情報課
静岡市葵区追手町9番6号
電話 054-221-3694

分析：アイティ・インターナショナル株式会社
静岡市葵区御幸町6番地
電話 054-205-6300